京城日報

本紙定價 一ヶ月七拾五錢▲前金▲三ヶ月前金貳圓拾五錢▲六ヶ月同四圓貳拾錢▲一ヶ年同八圓四拾錢▲郵稅別▲郵券代用二割增
廣告料金 五號十五字詰一行一圓五拾錢 特別二號二四▲二號七字詰同二圓▲四號九字詰同一圓八十錢▲六號十七字詰同一圓五十錢
發行兼編輯人 奥山直毅 印刷人 小川忠之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社京城日報社
電話番號 編輯局 … 營業局 … 振替貯金口座京城三〇〇番

十一月十九日夕刊(朝夕併せて八頁)

◇聯合國獨政府確立の速かなるを望む 講和談判の相手方に就て

倫敦來電＝獨逸社會黨首領レイデアールはエベルトの後任たるべしとの報道は未だ確實なりとは做し難しエベルトは穩健派を代表せるも休戰既に成り獨立社會黨の要求次第に辭任するやも知れず獨逸現政府は未だ過渡期内閣にして國民憲法會議に依り初めて恒久的建設を見るべし尚國民憲法會議開催に就ては何等の報道無し而して列國としては速に獨逸に確乎たる政府の成立を見ざれば講和會議の相手方不明瞭となり列國も迷惑すべく旁其政府の確立の一日も速かならんことを希望せるものの如し(東京特電)

◇伯林市街戰激烈 過激派革命黨頑強に抵抗

チュリッヒ來電＝伯林にては今尚ほ市街戰繼續しリープクネヒト一派の過激派革命黨なるスパルタカス等は頑強に抵抗しつゝありウンテルデンリンデン街に於ける戰鬪は最も激烈を極めたるがリープクネヒトは一千九百十四年八月四日前獨逸皇帝が群衆に對して大演説を試みたる王城の露臺に立ちて激勵的演説を試みたり(東京特電)

□聖上御答電 大不列顛國皇帝陛下に對し

獨墺休戰條約成立に就き去る十三日大不列顛國皇帝陛下より御祝電を我 天皇陛下に寄せられたるに對し 天皇陛下より翌十四日左の如く御答電御發送あらせられたり(東京特電)

大不列顛國皇帝陛下

陛下ノ懇篤ナル御祝電ヲ接手シ茲ニ深厚ナル謝意ヲ表彰シ且ツ今ヤ光輝アル終局ヲ告ケタル今次ノ戰爭ニ於テ我舊來ノ盟友ナル英國民ノ終始表示セル堅忍勇武ノ赫々タル活動ハ朕及ヒ日本國民ノ讚嘆スル處ナル旨ヲ重ネテ茲ニ聲明ス我陸海軍ノ辛勞ハ幸ニ陛下ノ認識セラルル所トナリ又戰勝國タル英國君主ハ日本國陸海軍ノ首班ニ列セラレタルハ實ニ我陸海軍ノ誇リトシテ記念スル所ナリ此未曾有ノ大戰ニ於ケル共同努力ニ依テ共堅固ヲ加ヘタル貴我兩國ノ多幸ナル結合ハ今後ニ於テモ尚ホ渝ラサランコトヲ朕ノ信シテ疑ハサル所ナリ

御名

◇獨逸政體推測

チュリッヒ來電＝獨逸に於ける目下の形勢より推測するに獨逸は一箇の統一されたる共和國たらずんば南北兩聯邦共和國の對立を見るに至るべし(東京特電)

◇普魯西革命眞因

倫敦來電＝瑞西より達したる諸種の報道を綜合するに普魯西に於ける革命の眞因は一、南獨地方に於ける革命二、獨立社會黨の共和國建設趣意三、社會民主黨の政府熱の三者が合致したるに依るものなるもの如し(東京特電)

◇獨逸兩黨妥協

巴里來電＝獨逸に於ける獨立社會黨と社會民主黨との妥協成立したるもの如し(東京特電)

◇前獨皇帝等消息

紐育來電＝海牙より當地に達したる電報に依れば前獨逸皇太子は無

◇聯軍ペ市占領説

哈爾賓來電＝ペトログラードは聯合軍の爲めに占領せられたりとの説あり尚ほ過激派首領レーニンは和蘭に到着したるが獨逸陸軍將校として抑留されたり尚ほ前獨帝は抑留せられ居らずと又別報に依れば前皇后も前獨帝の跡を追うて近く和蘭に向ふべしとあり(東京特電)

◎獨艦艇抑留地 全部英港に繫留

對獨休戰條約の海上に關する條項中中立港(若し中立港に抑留し得ざる場合は聯合側の港灣)に抑留すべき指定獨逸艦艇は最近に至り恐く英國に抑留するとこなり獨潛水艇は全部英國南部の某港に巡洋戰艦以下驅逐艦に至る艦艇は英國北部の某港に抑留するに決し艦艇は十一日より一週間以内に武裝解除の上獨逸の港を出航し自ら指定港に廻航せしむ可く尚ほ等艦艇の乘員には休戰條件を完全に勵行して出航したる上は歸還せしむべし又潛水艇は休戰條約に其數百六十隻とありしが之を全部と修正せるものは獨逸政府より命令を以て直ちに各其地點より武裝艤裝のまゝ上記の指定港に廻航せしめ其乘員は之を歸還せしめざることゝせり而して是等の艦艇は廻航後聯合各國艦艇の監視の下に置く次第にして是等聯合側の監視艦艇は多分英國艦隊司令長官よりは目下地中海にある艦艇若干を之に參加せしむる筈なりと(東京)

□聖上還幸

秋季大演習御統監の爲め栃木縣下へ行幸あらせられたる 大元帥陛下には十九日午前八時五十五分栃木驛御發輦同十時五十五分上野驛御着還幸在らせられたり(東京特電)

◎總監天機奉伺

秋季大演習御統監の爲め栃木縣下へ行幸遊ばされたる 天皇陛下には十九日午前還幸に就き山縣政務總監は十九日天機奉伺方波多野宮内大臣宛發電せり

◎王公族天機奉伺

李王、李太王並に李堈公殿下は十九日 天皇陛下大演習地より還幸遊ばされたるに付天機奉伺方山縣總監まで申出られたるを以て政務總監より十九日午前波多野宮内大臣宛執奏方發電せり

◎總監茶菓饗應

山縣政務總監は十九日午後一時半目下滯京中の各道金融組合聯合會理事十三名を京城ホテルに招待し茶菓の饗應をなしたり

◎赤愛會總會

大邱赤十字愛國婦人會支部にては既報の如く十六日午前十時大邱物産共進會場に於て第二回總會開催出席社員會員六百餘名鈴木支部長開會を宣し次いで總裁兩殿下御眞影に對して一同敬禮を爲し鈴木支部長の式辭本部總長山縣政務總監の祝辭朗讀あり總長より特別社員章を授與し吉松副長石黒本社長の祝辭朗讀社員總代朴市陽參議の祝辭あり夫れより愛國婦人會大邱支部總會開催支部長中山知事法院長夫人開會を宣し式辭を述し後山縣本部總長の祝辭を代讀し篤志功勞に依る有功章の授與あり吉松相談役福尾本會長の祝電を朗讀し訪夫人會員總代として祝辭を朗讀し一同敬禮裡に閉會別席にて質素なる祝宴あり山縣政務總監の音頭にて兩殿下の萬歲を三唱し散會したるは午後一時なりき

◎朝鮮蠶絲會 設立計畫

朝鮮に於ける蠶絲業は逐年盛況を呈するに至りたるを以て此際蠶業者の連絡を圖る目的にて朝鮮蠶絲會設立の計畫あり即ち内地に於ける閑院宮殿下を總裁に戴ける大日本蠶絲會に倣らふべく別項十七日大邱に於て開催せられたる全鮮蠶絲業者大會にて第一提出議案を決議し創立委員を選びたるが更に各道に推薦し創立事務所を京城に置き京城在住の委員創立事務を執ることなり來春二月京城に於て創立總會を開き定款及び其他具體的の組織を見る可き筈なり

◎大陸巡歷雜感

邦人の活動＝支那南北の妥協＝對支外交＝青島在留者の浮腰＝日滿電話＝長哈間の電信

持地遞信局長官談

支那本土及滿洲地方に出張中なりし持地遞信局長官は十九日歸任せり、その談に曰く

此行南北滿洲各地を經て青島濟南を視察し北京を訪ひ前後三十有六日で歸京した特にコレと云ふ

▲緊急な用 を帶びた譯でなく唯予はお隣の滿洲も支那も全く知らないのでその狀況を見又各方面の當局者と會談し幾分職務上に資したいためであつた然し日數極めて短くその間大連では數日風邪に犯さるゝあり旅程も忙、行を急いで歸つた譯である概して言へば滿洲の各地にも北支那の要地にも邦人が盛んに入り込んで目覺しく活動してゐるコレは予の特に愉快に感じた點である北京には前後六日滯在その間の一日林前公使の催された留別宴の席末を汚すを得たので幸ひ支那の各部總長や

▲當路の大官 に殆んど洩れなく會見する事が出來た僅かの時日であり往訪視察に忙しく支那の政局などには素より觸るる餘裕も機會もなかつたが要するに世界大戰爭も終熄せんとする今日、支那の内部が南北に分立し抗爭を續けると云ふ事は民國前途のため甚だ憂ふべきものがあるから一日も早く和平を計りたい妥協を成立せしめねばならぬと云ふ考へは閣僚も軍部の首腦者も有してゐる從つてその機運も餘程醸成されつゝあるやうではあるがさて南北妥協と云ふ事になり條件を如何にするかの問題に至るとその調和點を發見するに

▲困難なもの があるらしく、斯う云ふ案を以てすれば確的な兩派の握手が出來るかと云ふ確的な意見は北京の當路者の間にもまだないのではあるまいかと思はれる徐樹男は小幡新公使の着任を待つて出發したいと云ふ事だつた理由や事情は語り得ぬけれど日本の對支外交は日支親善を根本義とし一定不變、内閣の更迭などに煩はされず確立して置きたいものである内閣が更はつてその方針も一變すると云ふやうでは心細い點がある

▲秋山長官 と久し振に會つた此地は日本の占領に歸してから事業界も極めて盛況を來すやうになつたらしいが唯講和會議の結果膠州灣の吾が占領地を支那に還附するか何うかの問題が確定してゐないので青島の邦人も幾分浮腰に見ゆるやの觀がある青島は氣候も穩和十一月に入つて彼地を訪ひ恰然四五月の春の節を思はした大連では關東都督府の當局と會談の際日滿長距離電話の架設問題も話に上つた日滿經濟交通其他の關係が密運を加へ來りし今日、日滿長距離電話は素より必要であり

▲經費の支出 に於て事情が許せばすぐにも架設したいのであるが鮮内に向ほ同線より以上に急を要する電線があるので日滿線に手が延びないで居る次第だ遞信省の臨時費と總督府の豫備費により時局乃ち西伯利出兵の關係上急設に決した東京京城間の新電信線は既設線の切り換へをやつたりして今月中には通信可能となるであらうが、同時に京城以北乃ち京城長春間の電信線も必要である此方は目下政府との間に交涉を續けてゐるから多分出來る事と考へてゐる更に長春とハルビン間は如何と云ふに現在長哈間には露國の電線が四線ありその中の一線を我軍で借受け

▲軍事通信 に便じてゐるけれど公衆の電報はハルビンより長春に陸送し長春より發信する順序となつてゐるそこで非常に不利不便だと云ふので一般よりの要望もあり予の哈爾賓を訪ひた時、一線を陸軍で架して公衆の通信用に宛つる事にしやうとの議はあつたやうだが果して實現したか又それは何時の事かは知れぬ、唯長春哈爾賓間の公衆電報が通ずる事ならば多大の利便を一般に於て享くるであらう又北京方面も内地や朝鮮間の電報も今日の所不便である上海經由の一線はあれどそれは非常に料金が高い乃で鮮滿の

▲日本郵便局 並びにその經由と北京の日本郵便局相互間の電報は北京より山海關經由、山海關から大連に陸送し大連より發信するか京奉間陸送の途によつて發信するか何等かの方法により吾國の電信の連絡を鮮滿と北京方面に通ずる事は必要に相違ないけれど他國の領土に自由に吾が電線を引く譯には素より行かず日支間の圓滿な協調の結果に俟つ外はない譯だ

◎蠶絲業者大會

全鮮蠶絲業者大會は十七日大邱共進會場に於て開催總督府並に各道蠶業主任蠶業者三百餘名出席午前十時、宮原南技師の講演あり左の二案に對する決議を爲し後芳ト閣に於ける協賛會の招宴に臨み盛會裡に散會せり

▲第一提出議案 朝鮮蠶絲會設置に關する件

(イ)本會設立の實行を期する爲各道に於て蠶業技術官及蠶業家數名を委員に選定する事(ロ)本會創立の事務を處理する爲京城に事務所を設く、但し事務所の位置は京畿道在住の委員に於て決定し各委員に通知する事(ハ)前記の委員は各道に於て詮衡を了し十一月中に事務所に報告する事(ニ)京畿道在住委員は本會組織に關する具體案を定め明春二月全道委員會に提出する事(ホ)創立に要する經費は寄附金を以て之に充つること

▲第二提出議案 蠶業組合の保護に關する件

本件は極めて必要なる事項と認むるを以て京畿道在住の委員より當局に對し保護に關する府令發布方を懇請し其の目的達成に努むること

◎定例長官會議

十九日午前十時より總督府第一會議室に於て定例長官會議を開き山縣政務總監を始め各部局長並に各所屬官署長參集諸般政務に就き夫々森議する處ありたり

◎體操講習會

南大門小學校に於ける體操講習會は十九日午後一時より開會講師櫻井博士の講演並に高普楷地敎諭の實地模範等あり午後四時散會せり

◎鑛區稅及廢業減區登錄

總督府鑛務課に就き聞く所に依れば毎年年末に差迫りて廢業又は減區の登錄を申請する者尠からず然るに書類不備の爲め不受理處分を受け遂に年内に登錄を了するに至らずして爲に廢業又は減區せられざりしと同樣の翌年分鑛區稅を負擔せざるを得ざる者ある由に付此の際前記

▲登錄を申請 せんとする廢業權者は書類不備の場合あるを慮り年末を待たず今の内取急ぎ之が手續を爲す事を要すべき事なるが聞く所に依れば減區の登錄については許可と同時に總督府より申請書式を送附するを以て比較的不受理處分に遇ふ者尠きも減區の提出遲るゝときは年内に許可の運びに至らざることあり又年内に許可せらるゝも登錄申請が年内に提出の餘日なき爲め遂に登錄を了するに至らざるものあり殊に廢業の申請は殆んど半數が一旦不受理處分を受くる有樣にて其多くは共同鑛業權者の連署を缺くか又は住所印鑑等に相違あるに基くものなりと云ふ不受理處分は其の理由を開示し

▲書類を返付 せらるゝと同時に雛形を添附し再提出に至る支なき樣注意を與へらるゝ由なれば書類の備不備に不拘躊躇せず急速提出するを却つて便利なりとす尚文書の往復に日子を要するに依り可成は申請人又は其の代人に於て總督府鑛務課に出頭し其の手續を問合す方得策なるべしと因に鑛務課登錄室は減區及び廢業の登錄申請に付ては本週より十二月廿七日迄開廳時間内何時にても窓口應接を爲す事となりたりと

◎郵便局新設

十一月二十六日より平安北道江界郡に前川郵便局、慶尙北道盈德郡に江口郵便局、慶尙南道南海郡に彌助郵便局、平安南道江東郡に勝湖郵便局を設置し中義川郵便局に於ては電信及電話通知事務を扱ふべき旨二十日告示さるべし

◎間島燃料救濟

間島龍井村地方は白豆の爲め燃料に缺乏しつゝある事は既報の如くなるが領事館にては之れが救濟策として天寶山鑛山に交涉し其の所管の石炭山より市價より安價にて石炭を供給し尙ほ不用木炭の若干を分讓して一時の急に應する事となしたる由なり(間島)

◎京城米穀大豆檢査所の改變

松永京畿道長官は本月十二日附道告示第五十二號を以て米穀大豆檢査所の名稱位置及び事務所に改正を加へ米穀大豆の檢査所を仁川、南大門、水原、烏山、平澤の五箇所に又大豆のみに關する檢査所を西氷庫、汶山、高浪浦、東豆川、漣川の五箇所となし併せて米穀大豆檢査規則施行に關する件米穀及び大豆檢査所處務規程中多少の改變を爲す所ありしが之れに關し京畿道勸業係の當局の語る所によれば京畿道米豆檢査所改變の結果、大門、所に在りては從前に比し南大門、汶山、東豆川、漣川の四箇所を增加し米穀檢査所に在りては南大門に一箇所の增設を見し譯となる而して京畿道にては從來とても米豆の檢査を南大門に於て爲しつゝありしものにて即ち西氷庫大京查所の檢査員をして南大門驛に出張檢査を爲さしめつゝあり換言すれば今回增設されたる南大門米檢査所は從前の出張檢査を常設と爲したる形と言ふを得べく京畿道としては南大門米豆檢査所の設置されざる以前より檢査員を出張せしめ京城に於ても亦米豆の檢査を爲しつゝあり其の目的は朝鮮米豆の品位を向上せしむるに在ること今更架説を要せざる所なるべし因に新設南大門米豆檢査所は宮川富士天氏を檢査員として本月十五日より其の開設を見たり

◎滿蒙毛織株好況

京城鮮銀に於ける滿蒙毛織會社の募株申込みは意外の盛況にて十八日の所約七千株の多數に達し十九日の締切までには一萬餘株に上るべし尙ほ同株は東拓滿鐵の持株多きこと關東都督府の配當保證を有望視し人氣を集めたるもの、如し

◎行嚴灣挂燈立標

慶尙南道統營郡海灣内行嚴灣口に挂燈立標を建設すべき旨十九日官報にて告示さるべし

◎國分司法部長官

滿洲及び北支那各地の司法事務視察中なりし國分司法部長官は十七日夜來奉大和ホテルに一泊十八日午後奉天發安奉線にて歸任の途に就けり(奉天特電)

◎持地長官歸任

遞信事務視察の爲め支那方面に出張中なりし持地遞信局長官は十九日朝歸任せり

人事消息

▲人見鐵道局長 十八日夜歸任

▲大塚參事官 同

▲萩原彥三氏(總督府參事官) 十八日朝出發

▲宇野三郎氏(中央試驗所技師) 慶南京畿平安南北道へ十八日附六日間の豫定にて出張を命ぜらる

▲松本誠氏(京畿道第二部長) 名古屋稅務監督局に於ける稅務營業稅酒稅事務視察の爲二十日間の豫定を以て出張を命ぜられたるが來月出發の筈

▲非上清氏(忠淸南道第二部長) 大阪稅務監督局に於ける稅務事務視察の爲二十日間の豫定にて出張を命ぜられ來月出發の筈

▲佐々木志賀二氏(全羅北道第一部長) 熊本稅務監督局内に於ける稅務事務視察の爲二十日間の豫定にて出張を命ぜられ來月出發の筈

▲岸山鐵道理事 十九日朝發北上

▲船越秀雄氏(東京化工染料株式會社長) 十九日朝釜山上陸北行(釜山特電)

茶前酒後

奉天謁淸太宗墓　持地東嶺

昭陵墓祀夕陽低。白草連天野色淒。欲問前朝興廢事。石人不語亂鳥啼。

東淸鐵路車上

大野茫々邊月寒。車窓回首自淒酸。興亡幾度山河在。滿地腥氣古契丹。

哈爾賓驛憶春畝相國

當年慘事撼乾坤。尙訝驛頭留血痕。遺恨千秋禁不得。臨風取涙弔英魂。

吉林客舍

邊城十月客心寒。霜氣森々透肺肝。半夜不眠推戶望。松花江上月光寒。

登岱嶽

古柏森々石磴遙。東橋行盡又西橋。更從廻馬嶺頭望。前路天門[illegible]。

其二

臨身似御風遊。齊魯山河望裡收。無字碑邊多少感。不行封禪幾千秋。

路旁流觴、多少感慨、就中登嶽後首、推爲白眉。　枕石道人 妄批

◆播州灘五郷に於ては、朝鮮米を原料として、從來に劣らぬ良質の清酒を釀造し得る事を證明せりと。我朝鮮米が、五郷の甘泉と融合して、芳醇の美酒となり、日本人の五臟六腑に滲徹するは、洵に痛快にして、又斯く無からざるべからざる也。

◆吾人は今回の戰爭に於て、歐米各國の弱點を發見すると同時に、充分に又其長所をも發見せり。我明治維新の大精神は、廣く智識を世界に求むるにありたり。吾人が世界に求むべき智識の、最も多くを發見したるは、實に今回の大戰を以て最とす。而して吾人は此求むべきの智識を如何に消化し去らんとするか。恰も朝鮮米を五郷の甘泉に融き、血肉に滲ませて、百藥の長たらしむるが如く、渾然融合の宜しきを得ざるべからざる也。

◆吾人は、獨逸より其不眠不休の勤勉と、周到徹底の研究と、網羅の組織とを取り。英國よりは、其世界を狹しとする抱負と、六合を家とする規模と、月に擬して年に得する遠大の經綸と、形式に捕はれざる、無礙の常識とを取り。米國よりは、活潑々地の精神と、世界第一を期する努力と自信と、日進日新の勇往敢爲とを取らん事を希望す。

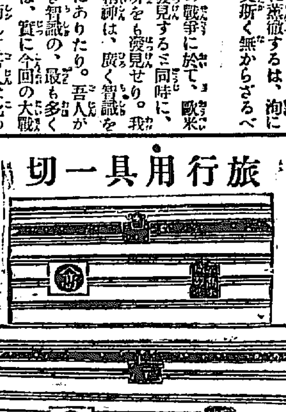
◆吾人は斯て、其獲取し得たる總てのものを、大和魂の血に融合して、日本人の肉に張らしめんとす。然らば恐らく天下無敵の民族の、出現せん事を證する者也。

大流行の本場
大嶋がすり月賦販賣
現品引替に半金御支拂下され候はゞどなたでも殘金四ヶ月拂月賦にて販賣仕る可く候ハガキにて御申込下され候次第柄見本入規約書進呈仕候但し壹千反限りに付即時御申越下され度し
東京市本郷區天神町一ノ六六(電車黑門町下車西一丁)(電話下谷七一二〇番)
大島がすり專賣所

小島輸出用
カスミ網
高さ六尺三棚 横市三間 一圓半
高さ六尺三棚 横市五間 四圓
(極上絹糸製)◎其他雁鴨兎網無雙網等種々あり
京城永樂町二丁目 吉備商會 電話三二四番 振替京城三三六番

北海松薄板
上。中。品位ノモノヲ撰別セサル儘結束シアル故使用上特殊ノ利益アリ
右新荷薄利商談
材木商 熊野商會
京城古市町 長電話一八二番

カーバイド
並に各種ランプ及附屬品
京城南米倉町十七番地
田中カーバイド鮮滿總代理店
山陽商會
電二二九二 振替京城三〇〇

旅行用具一切

鞄製造販賣
高木旅行用具店
京城本町一丁目
電話二四五番 二三一四番

內科 胃腸病
診察夜九時迄
京城本町一丁目
石川醫院
電話 一二三七 二九〇九番

▲防寒帽子▼
最新型本日入荷
甲、防寒中折帽子 (上六圓八十錢 下四圓六十錢)
乙、防寒帽子 (金三圓九十錢)
丙、日出防寒帽子 (自金七十錢 至金二圓卅錢)
送料鮮內十二錢鮮外卅錢
御注意(御注文ハ必ズ名前、大サ、色、御指示被下度候 但シ甲乙ハ毛ノ眞黑ノミニ御座候)
京城太平通り
合資會社京城日報社代理部
振替京城三〇〇番

大正七年七月一日改正現行

[illegible]

◇大庭將軍に隨つて……（二）

▽チタよりイルクツクへ

>……管內巡視の馬を後貝加爾州に進める◇

從軍記者　早川磐溪

管內巡視の途に上る可き大庭師團長以下幕僚を乘せた特別列車は四日午前九時イルクツクに向けチタを發した。國旗を翻した一等客車には師團長及び幕僚搭乘し其他の客車には師團附將校及び從軍記者等が乘込み後部に歐露軍や糧食の補給車等を連結した、此列車編成に當つて、師團司令部からセミヨノフ衛戍司令官に對して（以下九十文字抹殺）日本將軍大庭の特別列車こしては甚だ振はない、我々蒸汽も通らぬ二等車の一隅に師團長所謂『勅を奉じて馬を貝加爾湖に進める』遠征將軍の餘威を窺る事甚だ薄く、そぞろ西伯利の冬の寒さを喞つて、行に隨つたい

の親愛が結ばれてゐたならばあれまでに脆くも崩壞せぬであつたらう、吹雪に暗い貝加爾湖畔を過ぎイルクツク市に到着したのは五日の午後九時、其夜は客車の中で明かした、同驛には一時日本兵を始めチエツク軍、英、米、佛、伊の各國兵が客車を兵舍こしてゐたので構內は、あたかも聯合軍の共進會の如き奇觀を呈してゐた。（七日イルクツクにて）

▽チヒ軍の軍用列車爆破す

日本兵三名負傷

列車がチユリノフスカヤ驛に着くこいヤブロノイ驛の手前で火藥のためにチヒ軍の軍用列車が六輛爆破し便乘中の日本兵三名負傷し、露兵一名即死したこ云ふ報告があつた、線路の修理中四時間許り待つて現場に至れば先づ眼に入るものは慘憺たる列車顚覆の光景である、爆發したのは午前二時頃であるが、午後に至るも燃料類が燃盛つて居た、車輛は無殘にも粉碎され、線路に跳飛ばされ、被服類は町餘の彼方にまで四邊一面吹き飛ばされ、轉た悽慘の觀があつた、列車がヤブロノイの高原地帶からヒローク河に沿うて降れば僅半箇月間にして自然の面目を一變して全く冬景色こなり、ヒローク河には氷塊累々こして流れ、山野は雪深く、白樺の林にも、落葉松にも氷花咲き、萬目悉く銀世界こ化して、西伯利は全く冬深くなつた。

▽師團長に訴へる事は無いか

貝加爾湖畔のムイソワヤ驛に着くこ氣溫は急に下降して、颶風は湖面に吹き荒れ紺青の波は物凄く岸を打つてゐた。驛構內には除雪車が運轉されてゐた、早朝から強烈な火酒に氣焰を上げてゐた大庭師團長は、客車から降り、零下二十度の寒風に吹き曝されてゐる哨兵に向つて『寒くはないか、給與の事に就いて師團長に訴へる事はないか』なぞ、訪ねて師團長こ一卒率の間に斯かる溫情が通うてゐる、露國の軍隊に斯る美しい上下

▽ペリヨゾフカの大芝居

◇本仕掛の吉江座

阿波の鳴戸で泣かされる

管內巡閱の途にある大庭第三師團長は八日午前十時からペリヨゾフカの吉江旅團を巡閱した、當日は雪靄々こして寒氣膚を劈く許りの中に我一萬の貔貅はペリヨゾフカ驛より兵營に至る約十數町の間蜒蜿長蛇の如く堵列し、幕僚を從へたる大庭師團長は降り積む雪を驅の蹄に蹴りつゝ閱兵したが其光景は壯嚴にして轟たる

▼……萬里遠征 の途ならでは味はひ得ざる光景であつた、兵營は元露國の二個軍團駐屯し歐洲戰爭開戰以來は九千の獨墺俘虜を收容した、目下は日本軍及び西伯利軍、墺太利俘虜等が一廓內に居るが近く獨逸俘虜の收容されて居た營舍に露國兵が入るこ云ふ噂がある、日本軍の兵營はペリヨゾフカの高臺に位置して三方山に圍まれ南は渺然こして展け頗る景勝の地を占めてゐる、冬營準備は最近漸く完了したが何分數箇師團を收容し得る兵營に近々一箇旅團の兵が入つて居るのみであるから間取りの如き

▼……贅の限り を盡し、下士室へもチタに於ける參謀長室よりも立派なものである、殊に旅團司令部裏には五六百入りの劇場を設け吉江座こ名づけて一週一回位づゝ兵卒をして舊劇、浪花節、喜劇等を演じさせて將卒の勞苦を慰つて居るが舞臺の背景より小道具衣裳類に至るまで役者上りの兵卒の依つて巧に出來上がり登場俳優は二十數名の大一座、それが揃ひも揃つて田舍廻りの玄人揃ひこて總てが本仕掛で忠臣藏や三勝半七なごで觀客の袖を濡らさせる、師團長巡閱の當夜も阿波の鳴戸を演じたが懸軍萬里の異郷でクラシツクな

▼……舊劇を看 た我々は思はず泣かされた、其他にも浪花節淨瑠璃等の玄人が舞臺に現はれるので、劇場は素敵に繁昌するさうである、其他に陣中、惡着こして『三三時報』なる謄寫版刷の新聞を一週一回發行して、各中隊や傷病兵に配布して居るが此なども隊長自ら採筆を振るつたり、時事問題なごを平易に說つて掲載するので非常に歡迎されてゐる、物資はチタ以上に缺乏して居るが、最近はやゝ潤澤に供給を受ける事が可能、食物は肉こキヤベツが鼻に著くこ

▼……飽きられ る位であるから營養は充分に補給されてゐる譯で、昨今兵の健康は次第に宜くなつて、身體は丸々肥太つて居る（九日ペリヨゾフカにて）

◎戰を呪ふオムスク

避難民驛に蝟集し貧民酷寒に相擁す

住家の提供を命ぜられ纏へる衣類を奪はる

◇救濟せざれば暴徒こなるべし

最近オムスクよりの歸來客の談に依ればウラル方面の戰場こ化したる爲め避難民著しく蝟集し、西伯利に向ふ列車は非常なる混亂を來し居れり、オムスクは目下數萬の避難民蝟集し之がために食糧品の缺乏を來し家屋は全く人を容れ得る餘裕なく市民の怨嗟一方ならずこ云ふ避難民の談を聞くに彼等は軍隊のために宿舍の提供を命ぜられ飢寒に苦しむ兵の爲めに其纏へる衣類を奪はれ持てるパンを掠取さるゝが如き慘狀に遇ひ、且つ若き男は悉く軍隊に徵集され若し應ぜざれば銃殺すべしと威脅されつゝありこ彼等は零下二十度の酷寒の夜老幼相擁して倉庫の片隅に寢ね居る者多く隨所に行倒れあるも政府は救濟の途なしこ、今や飢寒の喉に入らんこす、戰爭を呪咀する聲喧しく、若し此窮民を救濟せざらんか彼等は倏忽過激派に黨し良民を襲ふに至る可しこ深甚の憂慮を抱はれつゝあり（イルクツクにて早川生）

◇最近のガイダ將軍

北ウラルの戰線に於て盛んに獅子吼をなしてゐる勇猛將軍の最近の面目であるが、全く戰意ない露兵を相手では、ごうにもならず此處の處暫く焦慮の形……

◎白パンが喰べられる

禁止されて九箇月目　米國の平和氣分

華盛頓電報＝戰時產業局は戰爭の需要に應ずる爲め强制せられたる產業制限中の數點を解除することを命令したり右解除せられたるものの中にはブリキ及ブリキ使用器具、石油ストーブ、包裝紙、莫大小シヤツ、綱物品あり麥粉のみを原料とする白パン製造制限は本日より解除となり米國は九箇月後始めて白パンを用ゐることを得るに至れりパン製造人及び主婦は本日より混合物なき麥粉のみを買入れ得ることゝなれり（十四日發）

◎地中海通過の第一船

常盤丸出帆す

郵船の歐洲航路南阿弗利加廻りは愈十六日神戶出帆の安藝丸で打切りこし地中海通過の第一船は貨物船常盤丸こ云ふ事になり同船は十六日神戶を出帆した運賃は從來の一千三百志を一千志に引下げた爲め社外船よりも三割方安くなり一般貿易業者は大喜びである（神戶電報）

◎在獨の邦人俘虜

近く放還される

今度の休戰條件こして聯合國俘虜は一箇月以內に歸還する事になつて居るが我國俘虜の九分までは彼の大正六年十一月八日サヤアマラ沖で擊沈された郵船常陸丸の乘組員で乘客こして便船中であつた同社造船部監督工學士小長井潔氏を入れるこ其數實に

◇百二名

の多きに上つて居る、其の他昨年五月北米ボストンよりマンチエスターに向ふ途中大西洋上で獨潛航艇に擊沈された松昌洋行の唐山丸乘組員二十二名及び一昨年十二月地中海にて擊沈された同洋行の多喜丸乘組員十四名の行方不明者は或は俘虜になつたものこして疑問にされて居る、郵船社文書課の廣吉氏は常陸丸の俘虜に就いて曰く『常陸丸の乘組員は全部で百十七名で其內富永船長は悲慘な最期を遂げ其他病死したもの

◇負傷後

死亡したものは機關かゝりの川非事務長の外十四名で看護方の歸國したものは歸國し結局百一名俘虜になつて居る譯です、乘組員からは俘虜になつた當時は時々無事で居るから安心して異れこの意味の通信があつたが最近は更に通知がありません、併し皆壯健で居る事だけは確です何れ遠からず放還される事になりませうから留守宅の喜びはさこそこ思はれます、本社こしても愈々

◇歸還と

なれば打合せもせねばなりますまいがまだ外務省から何等の通知もありませんから今は外務省の通知を首を長くして待つて居る次第です』なほ陸軍俘虜情報局に於て氏名の判明して居るのは百五名だこ云ふが其判明者は殆んご全部常陸丸の乘組員である（東京）

◇戰意は毫もない……

『駄目です亡びて仕舞ました、一體ごうなるでせう？』

紅顏の青年士官ヤノースキー泣いて語る

◎軍團長を知らぬ露西亞兵

ペリヨゾフカの吉江旅團こ棟を並べた兵營に西伯利亞第五軍團管下の第二十九第三十の兩狙擊聯隊がある、記者は入江中佐こ共に露國兵の兵營生活を視る可く第三十聯隊の聯隊本部を訪問したノツクすれば從卒が出て來て聯隊長は不在だから士官室に案內しようこ言つて、其部屋に導いた、我々が入るこ淸洒な鶯色の軍服に、金色燦然たる肩章を著け、女にもしま欲しい手には金の腕輪をはめた、紅顏の青年士官が現はれて自室に導いた、士官の名はヤノースキーこ言つて今年

十九の青年

何こなくクープリンの『決鬪』のロマシヨーフ少尉を聯想させるやうな型の人であるヤノースキー君は入江中佐こ記者が露西亞軍隊の現狀はごうか將來立派な軍隊が出來るかこ交々訪ねるこ、彼は絕望的な表情をし乍ら、然し白い頰を熱して次のやうに語つた『駄目です、こう〱露國は亡びて終ひました、露西亞の現狀を見るこ熱い淚が溢れます、軍隊では四十留の給料を與へるこ言つて半ば强制的に兵を募集したが、二箇月過つた今日、一錢の金も支拂ひません防寒服もまだ配給されません

兵卒は欺され

たのこ兵營生活が辛いのでみんな逃走します、慈那狀態では二個聯隊の編成が三年經つても完了する筈はありません、將校は月俸三百留こ家族のある者は百留の補助を受けてゐますが、此位の金では煙草代も出ません、エ、無論不平です、併し仕方がありません柔順で命令に能く遵つた兵卒も表面を剝いだらみんな過激派です、もう露西亞人には純朴な心も刻苦忍從の德も無くなつて了ひました露國軍隊を建造するなんて思ひも寄らぬ事です、將校は以前のやうに兇惡な獸ではありません、兵卒を恐れてゐます、併し絕望的です、不仕合せです、此の聯隊には兵卒四百名足らずの處へ將校が百五十名もあります（日本軍は卒二百名に對し將校五）その將校が先日

ウラル戰線に出動せずこ

云ふ決議を全露政府に送りました、戰意なんて云ふのは毫もありません、露國は一體ごうなるでせう？』青年士官は悲く眉落して來たので我々は此以上話を吊り込むのを氣の毒に思ひ辭して兵舍を見た、兵卒は何れも十八九の青年許りで床の上にゴロ寢をしたり煙草を喫かして居たがヤノースキー君が一聲鋭く『氣を注け』こ號令するこバネ仕掛の人形のやうに突つ立つて我々に注目をした、此等兵卒は三四箇月前入營したもので目下訓練中であるが

銃は六十七人に對し僅か十六挺

しかないので銃の持方さへも知らぬ者が多いさうである、是では日本の援助が無ければ心細い理であるが賴りにされる日本軍こそ、いゝ友軍を持つたものだご苦笑せざるを得なかつた、記者が一兵卒に向つて統領セミヨノフを知つて居るかこ問ふこ『知つてる統領は非常に善く戰ふ人だ』こ答るが第五軍團長が誰であるかも知つてゐなかつた、君等は戰爭したくはないかこ聞くこ『我々には武器がない、ワルソーの戰ひでは露西亞兵一人に對して一挺の小銃しかなかつたので悉く負けた、武器のない戰爭は恐ろしい』こ言つて首を振つてゐた（九日ペリヨゾフカにて）

▽連日連夜の吹雪

凍傷して耳や鼻を落したのもある

西伯利は全く雪に埋れ連日連夜吹雪のために天地暗澹たる事珍らしからず地下既に一尺五寸結氷し土木工事は困難こなりたり我三師團の兵卒にして凍傷のため耳及び鼻を落したる者三四あり鐵道沿線のヒローク、セレン、アンガラの諸河は結氷するに至らざれ共流氷盛んなり、貝加爾湖は未だ結氷の模樣なけれご十二月中旬には結氷する見込みなり（十日チタにて早川生）

◎南大門驛で告別式

前例のなき

◇死體を運ぶ哀話

世界的流行性感冒が京城全市を襲つて以來同病に斃るゝ者が頗る多いので火葬場は大手古舞徹夜作業でやつても尙ほ燒き切れないこ云ふ姿であるが其遺骨を携へて泣く〱南大門驛から各原籍地へ歸つて行く者が近來非常に多くなつた殊に多少の資產を有する鮮人で金が幾何かゝつても構はない死體其儘を是非原籍地へ持つて歸つて葬送が仕度いこ云ふ者が大分あつて南大門驛小荷物係へ持ち込む死體が毎日平均三個に及んで居るが憐なのは死體付添の人々で死體こ共に暗い貨車の中に乘り込んで泣きの淚じつついて行くソレが一死體で大槪三四人は居る又此程死亡した京城道路務部の警視李謙珪氏の死體は二十日朝十時卅分南大門驛發列車で素砂に送られる事こなつて居るが付添人は二十餘人で南大門驛頭で盛大な告別式を行ふ事こなつて居る兎に角南大門驛始まつて以來曾て無い事であるこ係員は語つて居た

◎惡い華客廻

原籍岡山縣岡山市鐵砲町當時京城永樂町二丁目洗濯業木村幸三郎方店員柴田恒治（二一）は本年一月より前記木村方に雇はれ華客廻り及び集金係りを勤め居りしが九月より本月にかけて集金十圓洗濯依賴中の袷及び羽織各一枚計二十五圓を横領し龍山桃山遊廓にて遊興費消せし事發覺し十九日本町署より檢事局に送致せられたり

警察の窓から

▲搔浚ひ　是からは來客や家人が外套や帽子などの高價な品物を玄關に脫ぎ捨てたまゝにして置くこが多い、それで玄關口を覗ふ搔つ浚ひが非常に殖ゐる、是等の搔つ浚ひは常套手段こしては二三度モシ〱こ聲を掛け返事が無ければすぐ品物を失敬する、玄關口の戶締を嚴重にするとは勿論だが玄關に品物を置かぬこが肝要

▲迷子　混雜の場所なごへ子供を出すこきは住所姓名を記した札を持たせて置く親がある、まここに結構なこだから一般に斯うした注意が欲しい

◎仕立工の橫領

山口縣生當時京城本町三丁目五十二番地田中助三郎方洋服仕立業當戶本光太郎（三五）は十月三十日田中より價十一圓の綿セルズボン時價十一圓及び十一月六日同人より仕立方依賴中のオーバコート一枚時價二十八圓を無斷入質し十月三十一日御成町內田善三郎より仕立方依賴のオーバコート一枚三十圓も無斷入質して遊興せしこ發覺し十九日本町署より檢事局へ送らる

◎記念武德祭

黃金町二丁目消防詰所隣なる武德館にては廿四日午前九時より開館六週年武德祭を擧行し餘興こして劍道大會を催す由なり

◯織物は……

夏物から下る

冬物はもう一段落になつた

講和來こ織物類の變動如何にこ某商店に聞けば一店員は語る『講和の聲がチラホラこ聞え始た頃から筋は仕入れを、孰れも出來るだけ手控へて居るので本年は非常な品薄こなつて居る其の爲めに左程の影響はあるまいこ思ひます、吾々の方へ響いて來るのは半月も後ですから、假令影響があつても冬物は既に需要一段落の後ですから大して影響はありません、夏物の相場はたいした變動は有るまいが夏物は是れから產地で製造に取掛るのですから綿絲、染料の安値こ相俟つて無論

▽夏物の相場

は安くなること思ひます』轉じて莫大小の需要はこ云ふこ市場の七分通りを占有して居る大阪名古屋製品が既に此秋から講和氣構へで生產を極度に手控へて居るので輸出の緊昌こ相俟つて之も本年は非常に品薄こなり現に昨今漸々始まつた地方の註文に對して供給に不足を告げて居る程なので其處に打擊は無く相場も急に下がらぬが來春頃からヂリヂリ落に下がらうこの事

▽毛織物類も

同樣需に打擊は少い之は矢張市場非常に品薄な處へ持つて來て例令戰爭が熄んでも各國の綿羊事業の復活には未だ二三年は掛るから外國品が大々的に輸入される事は甚の處當分望み難いこ言ふ樂觀からだ相な

◎黃金館の『左甚五郎』

愛讀者の爲めに優待券を發行す

曾て本紙に連載し讀者の好評を博したる名匠左甚五郎は澤村四郎五郎一派出演大活社苦心の撮影により目下黃金館に上演中なるが甚五郎の名腕に成れる彫刻が幾多の數奇なる場面を生み、撮影の苦心、出演俳優の妙技こ相俟つて連夜觀客の喝采を博し居れり同劇の敎故よる本紙は廿日夕刊及び廿日朝刊に讀者優待券を刷込み聊か讀者の芳意に酬いんこす。尙同館上演中の『大秘密』は益々佳境に入り

京

傳劇　左甚五郎　一

大冒險大活劇　第三　大秘密　新派悲劇　花時雨　於黃金館

十一月十九日二十日二日限　京日讀者優待券（一枚二人共通）

割引　一等三十錢　二等二十錢　三等十錢

普通　一等五十錢　二等三十錢　三等十五錢

京城日報社

演藝案內

壽館　本町一丁目　電話一〇五〇　十一月十八日より　▲西洋ダイヤモンド雪子　▲新內……

大正館　井町　電話八七三　株式會社代理店　十五日より新寫眞　愛らしき動物　キーストン會社秀作　『三度目』全二卷　ビー會社傑作『妖雲』全三卷　新派悲劇　二香妻猛夫一派出演『迷の雲』全三卷　舊劇　中村扇太郎合同一座『一寸德兵衛』

有樂館　大活社直營　早川演藝部直營常設館　電話二六〇　▲寢臺車の秘密　地圖の蔭　長尺　▲夜半の叫　▲『くらがり峠』全通　▲『黑鷺』全五卷

壽座　本町三丁目　電話五七八番　大阪歌舞伎大一座　十一月二十日十回目　假名手本忠臣藏通し

浪花館　明治町二丁目　電話二六〇番　大阪一流女義太夫竹本長廣大一座　十一月二十日（十二日目）語り物　▲三勝半七　▲御祝義寶之入舟（入登）▲八陣八ツ目　▲鏡山又助住家　▲忠臣藏六段目　▲伊勢音頭　こんだて古市油屋

黃金館　電話（夜間）二六六　（晝間）二三七　十一月十四日より　舊劇　左甚五郎　全通し　大秘密　第五　花時雨　全四卷

文樂座　本町五丁目　電話三二八　十一月九日より　九州大角力大江山一行來ル

◎謹告　近頃小生ノ印章ヲ僞造スルモノ有之候由ニ付各位御注意被下度此段謹告候也　酒川郡昆陽面城內里　趙鑛益

寫眞　京日寫眞製版部

材木賣買　古家賣買　建築請負業　諸車輪形製作販賣　深堀元市　京城府黃金町四丁目四角　電話二三五一番

釜山名著商店案內

雜貨問屋

長岡商店

月刊　淸酒・罐詰　釜山　あづまや商店　振替京城三九番　電話三五九番

發行　糖粉・官煙

酒精、西貢米、碎米、砂糖、麥粉、燒酎、大豆、大豆粕、食料品雜貨　釜山埋立新町　電話長一〇八番

釜山　島田糸店　糸專門類物　電話五七八

乾物　糖粉　煙草　雜貨　卸問屋　釜山　山西商店　電話四〇七　振替京城三二〇番

人參葡萄酒

仁川期米

天氣　曇

……伸し買物に六十六錢と押せしも又買物湧み八十錢と沸騰し七十七錢と打止めたり
後場當限出來不申

……八錢九錢八錢……六十九錢七十錢 一錢七十錢一錢二錢三錢二錢三錢 四錢三錢二錢三錢四錢五錢六錢七錢 錢八錢六錢五錢六錢七錢三節八十

……月限
後場 寄付 二十七圓六十三
止め 二十七圓七十四錢
高値 二十七圓八十
安値 二十七圓六十三錢

……一等（九名）上田久朗、奥田勝子、……井上平一郎、同才三郎、桜井鶴次郎、吉原重七、桜井恒次郎、外人一名
二等（六十七名）吉田平次郎、諸方ぜよ

……晴曜、新野つる、玉木一哉、……船越鐵之助、同はる、久富運吉、高橋欽一、永春音吉、瀨戶爲哉、宮本秋造、佐々木長治、小田その、高田友吉、向坂久五

……一等（三名）……外人一名
二等（十七名）井上保七、……米吉、中田第一、土肥源次郎、西田秀一、淺野ゆき、小岩井勝、鈴木德吉、荒木特一、赤木福太郎、劉心源永除、牛女、太

……同ひさ、……同仲子、三好久郎……すみ子、同自子、宮脇正一郎、並木梓一、同正男、佐野高秋、橋本一太郎、同かね、同たれ、同やす、岡橋辰次郎、小田則三

……一等（なし）
二等（二十四名）土本商吉、村上昌三、田立風、武末伊一、非谷科三郎、荒井源一郎、同かな、飯田龍三、木村秀吉、山田

◇滿洲商信◇

朝鮮の海産物

前途頗る有望

朝鮮に關係ある各商品

朝鮮海産物の滿洲に輸入せらるゝもの漸次增加し而も甚だ有望なる事は已に報道せし所なるが

奉天に於ける取引相場は海參上物百斤百六十圓中物百二十圓下物百圓鮑上物百斤二百七八十圓中物二百圓下物百五六十圓見當なり貝柱は目下多少の情勢あるか如きも相場は甚だ高く百斤九十四五圓にて尚ほ且つ買持みの形勢あるを以て相場は漸次競上げられんとしつゝあり其他干貝干鰕等も相當販路ありて相場は依然高價なり只寒天のみは內地に於て百八十四五圓の相場を保ちつゝある天草印にして目下奉天相場は五六十圓を出づる事困難なるが如し切昆布は六十斤入一箇六圓內外にして支那正月前には相當需用あり

つゝある昆布は目下殆んど品切にして從つて相場立たず何れ茲一箇月或は一箇月半以內には必ず相當の入荷を見るべく該品の如きは支那正月の必需品に加へられ居るを以て其入荷殆く需用多ければ從來年來は邦商其の呼吸を熟知したる法なる高價を表す事なるもこの二三年を以て品不足を感じたる事なし併し昨年末の如きは入荷割合少かりしを以て一時三圓八九十錢四圓位の相場迄下落したりしもの五圓七八十錢前後に於ては六圓を突破したる好況を見たり而も昨年は金銀相場の差に依り輸入品は一割乃至一割二分の利益ありしを以て皆有利なるを得たり本年末の海産物は未だ知るに由なきも目下の形勢より推測するに甚だ有望なりと思はるゝ點多し奉天に於ける海産物は南支産を以て最上となしつゝあるも同品中には朝鮮産少からず朝鮮海産物商は大に研究すると共に大いに進出するの餘地ありと信ず此々に想到しつゝあるものあるや否や吾人は只管朝鮮産物業者の活動を望みて已まざるなり

馬の毛は益々好況

近頃奉天の馬毛の有望なる市內地商業者間に認められ需要者自ら進出し之が買收に奔走するもの多く此一箇月內に奉天に於て收集されたるもの甚だ少からざるが如し以前に於て荒毛の儘買收し直ちに之を輸出し來りたるが近頃に至りて內地に比し人工賃の格安なる奉天に於て精毛するもの增加し一箇月約一萬斤位の精毛を得る事容易なるが如し三井物産に於ては目下盛んに之が買收に努め一方三盛精毛工廠に於て之が精毛を急ぎ精工なる苦力なれば苦力賃の高き位は逆賣せず相當の人數を以て專ら精選しつゝあり併し大阪に於ける本職が進出し來れる今日なれば甚だ困難なるは免れず

目下奉天に於ける特選 馬尾の相場は百斤一等品（支那尺 一尺六寸以上純白毛）三百三十圓內外二等品（一尺二寸以上）二百八十圓內外三等品（八寸以上）二百圓八寸以下は正製として百斤八十元見當を以て取引されつゝあり

大阪商人は奉天に根據を有せざるものは右相場に對し尚ほ一割位の割增しを足して契約をなしたるものなり今當業者に就きその精毛費用を聞くに一斤約三十錢位を要し百斤の荒毛を以て約四十斤位の精製毛を得ると云ふ舊來奉天に於ける同毛は殆んど外國人の手に入りたりしなるを以て日本人にして同毛パーセントを確保なし得る技術を有する經驗者なくその多くは外來の本職業者に取られつゝあるの形勢なり一兩年間には同業の發展は必ず著しきものなるべしと觀測されつゝあり

大邱と黃州の苹果

大邱林檎の冬期賣りとして滿洲に移入する事の有利なるは過日報道せし如くなるが利に敏き商人は已に此處に着眼し奉天に於ける滿洲市場社と連絡し之が大輸入を企てつゝある者あり其産地は確く秘して語らざるも多分黃州産なるべしと察せらるゝものなり荷主の意嚮としては尠くも四五千箱をこの結氷以前に輸入し完全なる倉庫に貯藏し置き大暴利を得んとするにあるも何せよ目下の奉天は喫緊庫の設備なく市場會社の新築倉庫僅かに三十坪內外あるのみ而も他品をも何分貯藏せざる可らざるを以て全部提供するを得ず大いに其置場に苦しみつゝあり此二三年間奉天花柳界及び料理店飲食店宿屋等の繁昌は實に目覺しきものあるに依り此等方面に販賣さるもの甚だ尠しとせず右に鑑み林檎貯藏は甚だ有望なる事業なるべし（奉天）

◎西朝鮮と支那航路

（一）平北道廳調査

最近新義州安東縣兩港の貿易は陸運の整備改善水運の指導獎勵金補助機關の普及發達其他産業開發に關する諸般施設の進捗せるに伴ひ躍如面目を一新し來り逐年著しき膨脹を示したるが殊に歐洲戰亂勃發以來諸方面に直接好影響を齎し物資の出入益々頻繁を極め殆んど底止する所を知らざる勢ひを示せり就中支那方面に於ける帝國の商權は伸張發展を圖るべき絕好の機會に逢着し相互の貿易關係一層の緊密を加へ寔に稀世の盛なき能はざるの狀態なり、殊に國境貿易は逐年進展の跡著しきを見たるが就中大正六年に於て最も顯著なるものあり誠に同年に於ける該貿易額を大正二年に比較するときは新義州港に於て移出三倍强輸移入一倍半、安東に於ては輸移出九倍輸移入三倍半强の增加を示し劃期の機運正に躍如たり而して當方面の現狀を概觀するに最近財界の好調に伴ひ金融機關は新設增資せらるゝもの續出し殆んど缺陷を認むるなきに達したりと雖も運輸交通に至りては依然として舊態を存じ僅かに鐵道は鮮滿の統一を見たるも其他は此勃興の時代要求に策應せざるを憾みとするところなり先づ鐵道狀況より述べんに時局發生以來海運界は未曾有の騰貴を極め船腹不足運賃騰貴の結果俄かに鐵道託送するの傾向を生じ出荷頓に輻輳するに及びしかば當局は不得止貨車の配給上其の輸送を制限すると同時に從來當方面には一日六輛の貨車に對し十車を配給し應需を講じたりと雖も僅かに出荷總數の三分一を輸送し得るに止まり驛頭貨物の堆積は上に堆積し滯荷の儘百貨車以上の滯留すると不尠今日の情勢より想到せば果して何れの日か此滯貨を一掃せらるべきや夢想だも及ばざるの現況に在り爲に當方面の産業が幾何の損害を蒙りつゝあるや正確なる計算を得難しと雖も約百萬圓の資金が徒らに固定しつゝありと謂ふも大過なからざるべし

◎製糖開始さる

南滿製糖會社

南滿製糖會社にては本年採取の甜菜よりの製糖を十五日より開始したが是より先其の準備として十三四兩日に亘り會社使用の職工に對し特別慰勞の意味で休暇を與へ會社構內の倶樂部では色々の餘興も演ぜられたのである橋本專務は往訪の記者に語つて曰く歐洲の戰亂は何處々々までも影響を及ぼすものと見えて會社に要する甜菜の種子に就いても大いに打撃を受けて一ト方ならぬ苦心をしたのである會社創立の際此の種子を得る爲めには上海其の他より輸入したが其でも所用の數量を得るに困難をした元來甜菜の種子は數年間は貯藏が出來るけれども會社が輸入した種子は如何なる理由であつたか種子中の二割位は成育しないのがあつた……其れでも朝鮮製糖の方へ比較すると大いに好都合ではあつたが……其で始めて試作する支那農民に及ぼす影響は尠からぬものがあると見て之に又多大の苦心をしたのであるが幸ひにも相當な收穫があつたので大いに安堵の胸を撫下した譯である其れで會社では將來種子の點に苦心をせぬ爲めに開原で種苗場を經營する事に決定し既に着々事業を進めてるから向後此の方面は大に意を强うし宜い譯であるが扨て其の甜菜の栽培方法は未だ農民が馴れて居ないのでそれから栽培するに當つて株と株との間隔の大小によつて收穫に影響し從つて其の生産率に增減を示して來るから是れが植栽に馴れて生産率の多い甜菜を得るに至るまでには尚ほ數年の經驗を要する事であらう（安東縣）

◎新製絲會社

◆晋州に於て創設さる◆

南鮮有數の富豪慶州の金暎台氏を初め中島昇、淸水佐太郎氏等發起となり資本金二十五萬圓の晋州製絲株式會社を設立する事となり其の受け株數は金暎台氏三千株を引受け五百株を一般より公募する由なるが目下諸般の調査中にして終の次第設立の認可申請すと（晋州）

★結氷期（鴨綠江）

鴨綠江の上流は既に結氷の入電ありたるが安東を中心とする下流は何日頃結氷するやは判明せざるも江口水先案內三浦某の談を聞くに本年に入り是迄小蒸汽の氷結を見危險を感ぜし事二回あり毎年の例によるに本月下旬二十五六日頃には下流全部結氷するやも知れずと（安東縣）

◎黃州兼二浦道路（兼二浦）

兼二浦市街整理工事に伴ひ當局及び製鐵所に於ては兼二浦黃州間の道路改修の緊要なるを認められ三菱製鐵所寄附金を基とし地方費及び夫役に依り有效幅員四間に改築の計畫にて今回本道土木主任技手外數名を派遣せしめられ同一行は目下實地踏査中にして引續き測量を了し來春早々起工の運びなりしと云ふ本道路は三等道路なれ共平壤兼二浦の二大工業地を聯結する重要道路なるを以て殊に幅員四間に改築せられ橋梁暗渠の如きは經費の許す限りコンクリート造等永久的の工事を施さるゝ趣きなれば一等道路京城義州線と相俟つて黃州邑兼二浦は勿論平壤兼二浦間の自動車運轉を見るに至るは遠きにあらざるべし（黃州）

◎新大豆（北鮮）

本月七日城津發南行の安平丸にて本年乍り大豆三十二叺の初移出ありたるが品種は明川産の白色大豆吉州産黑大豆、白豆なりが今年の大豆の品質及調製等なかなか……黑大豆を除く外粒は整齊して子粒肥滿し重量重くして固有の色澤を帶び乾燥亦充分にして優に一等級に位すべきものなりしも調製稍其缺く爲め二等級に位せしめたるも之れは昨年の大豆に比すれば品質著しく優れりと（淸津）

◎川一つで全然異る

鮮滿の小學校

宏莊なる設備　奧へ行けば行く程

平壤小學校長　川添七次郎氏談

過般總督府其他の滿洲視察團に加はり滿洲各地及び靑島を視察して歸りたる川添平壤尋常高等小學校長の談に曰く（平壤）

今度滿洲へ行つて第一に目に立て感心したのは學校の建築の完備して居ることで、室內の設備の充實して居ることで之れでこそ完全な敎育が出來ると思はれた、手近い話が朝鮮の新義州と河一つ隔てた安東縣と何れ丈の差があるか云へば實際雲泥の差がある、ましてや一歩進めて奉天、長春と滿洲の地に入つて行けば行くほど其設備な平壤の學校は物置小舍にも劣る樣な感がある殊に

◆靑島は　獨逸が永遠の爲めを謀つて計畫した丈に一層總ての機關が備はつてる元來獨逸人の靑島を比較的早く我日本の手に渡したと云ふには當時在住の獨逸人が最後に哈利商會に集合してワルデックが各商工業者に對し死守の覺悟を以て飽くまでも戰つたのであらうか、どうかと云ふことを諮つたところが商工業者は此死守したところで到底それを押し通せるものでなく又

◆市街戰　でもやるとすれば折角建てた建築物が全然潰滅すから寧ろ無事に住民が退去する方が得策であらうと云ふ議論があつて漸く我日本軍に手渡する事になつたと云ふことで隨つて當時獨逸が東洋に羽を伸ばさんとして其基礎的設備を今日そのまゝ我日本が使用すると云ふことになつたのであるから設備の

◆完全　なことは云ふ迄もないが一面夫れ丈け各事業に對して徹底的であると云ふのは如何に進歩してみたか・窺はれる是等から見ると未だ／＼我國の敎育に對する思想の幼稚なことは其の設備によつても明かである、ただ設備の上に於てのみでなく所謂敎育上に於ても體操等の道具から又

◆訓練　の仕方から到底日本人の思ひ及ぶ處でなく獨逸が列國を相手に今日迄克く戰つたと云ふのもそこにあるのであらう、或國に於ても亦その通りで例へば地理の敎授に於ても生徒を

◆暗室　に入れ地圖を幻燈に寫して敎授すると云ふ樣な風に極めて兒に角總てに於て所んなやり方であるから敎育も徹底する譯である

◇新義州より◇

◆新義州に於ける諸工業の大略は先便申上候通りに御座候が特に注目を惹くべきものは營口に本店を有する建興公司槲葉染料工場に御座候同工場は昨年九月の創業にして資本金五萬圓を投じ平安北道の特種物産とも稱すべき槲葉即ちシンナムを原料として染料用エキスの製造に御座候

◆シンナムは從來生枯葉の儘支那各地に輸出せられたるものに之有其の用途は支那人の中下流社會の常用服を染むべき黑色染料として使用せられたるものなるも最近化學的染色方法による時は鐵色黑色カーキ色其他の數種に染め上げ得る由にて從來山蠶絲を黑色に染色する事は殆ど不可能とせられたるに拘らず同工場の實驗に依れば殆んど理想的の成績を擧げ得たる由に御座候

◆シンナムは一種の槲葉なるも普通の槲と其選を異にしてエキスの要素は其色素を取るにあらずタンニン素を取るもの・由にて比較的簡易の工業として思はれ申候其の原料の採取は容易なるも時期と乾燥の宜しきを得ざるべからず其の葉上には多少の困難なきにあらずと申候

◆市價は昨年百斤に付二圓以上なりしもの本年に到つては其三倍以上七圓乃至八圓を稱する由にて同公司員の語る處に依れば採算上あまり引合ふ事業に非ずとの事に候去り乍ら從來山野に遺棄せられたる言はば新規の富源に候得共該數年の後には相當の産額を見るべく尚エキスの販路は營口のみにて需用に應じ切れずとの事に候

◆新義州に於て多大の希望を囑せらるゝものは朝鮮製紙會社の經營開始に御座候同社の建築工事も着々進捗し工場倉庫宿舍等も非常に捗どりたる由なれども器械類の到着遲延せし爲め其の營業開始期日も多少豫定より遲延致す可く候同社事業開始の上は約四百の職工を使用する事と相成候由爲めに同地の人口は急速の增加を見るべしと存じ候

◆新義州は國境にありて商業工業上最も優勝の地位にあるに拘らず對岸の安東に比し其の發展の遲々たる事は常に新義州有志の遺憾とせる處に候が同地諸階級に於て寤寐の間も閑却又は忘却し能はざる一事は平安北道廳の移轉問題に御座候

◆平安北道廳の所在地たる義州と新義州とは距離約三里自動車行程四十五分に過ぎざるも土地僻遠なる而已ならず交通不便而も産業的價値として認むべきもの一も無之爲めに道廳の人小官吏も其の不便に慣れず常に新義州移轉說を夢み居り候由にて早晩何とかならねばならぬ運命を有するが如く存候

◆新義州有志は是が道廳移轉問題に付大々的覺悟する處あるもの・如く敷地は勿論移轉費位は投出しても其目的の貫徹に一肌も二肌も拔くべしとの腹力ある由に候

◆義州も三四年以前までは一萬內外の寄附金さへ出來ざりし時代も之有候由なれども近公會堂建設の際の如きは三萬圓の寄附立地に成り立ち候有樣にて愈々道廳でも新義州に移轉することなれば十萬や廿萬圓を吐き出す位の底力はあるべく此の際世界大戰爭の終熄記念として道廳移轉の大事業を遂行する際蒼發ありたきものなりと誰やらはりきまれ候草々不一

◎海州は感冒で

毎日五六人宛の死亡者がある

◆一部長と副官の罹病◆

海州に於ける流行性感冒は昨今猖獗にして道廳にては深尾一部長を初め官員の大多數が惱まされ居る爲め警務部でも赤井副官がやられ市內居住者は大概一戶二三人の平均で風の神の見舞を受けざるはなく殊に公立小學校普通學校生徒の中に多數の患者を出し校は總て休校中なるが海州は大人より小人の罹患者が大部分を占めて居り爲めに昨今の死亡者は日々五六名を下らず海州慈惠院の如きは入院の餘地がないとの事である（海州）

兼二浦通信

◇高い金利　年十四割四步

人口三萬を有する兼二浦には未だ銀行なく商工業者の不便不利は到底地方人士の想像以外にして尤も過般市街金融組合の設置を見たるも是とて小規模のものなれば迚も商工業者の渇望を醫するに至らず幸ひ近く平安銀行の支店を此地に開設すべしとの說あれば市民は其實現の一日も早からんことを翹望し居れり而して現在市中の金融機關としては

質屋三軒、日掛貸……高利

の類にして殊に金利の減ずる界に高きことは驚く許にして百圓の日步二十錢乃至四十錢即ち月六步より一割二分、年六割乃至十四割四步といへる實に馬鹿々々しき金利を取られ居るは恐らく我帝國の領域內にて兼二浦の外之無から可く候

◇一萬圓で籍落

黃金花咲く黑金の里兼二浦は先月平壤大翠亭千代鶴と申す藝妓を金一萬圓にて落籍したる人ありて『黃金花咲く黑金の鄕』と謳はれ居る丈け大したる儲けもありて聞く所によれば右の鐵成金と申す人は二時間程に電報一つで三千五百圓を儲けたる事ありとの由に御座候

◇勝て兜の緒を

過度の膨脹は考へ物

本年度より向ふ四箇年計畫にて三十三萬圓を計上し兼二浦の市區改正を行ふ事に決し是より兼二浦には市場、水道、電燈、銀行と望み次第の設備が出來る事となりたれど餘り圖に乘りて膨脹することは聊か考へ物に之有候殷鑑既に鎭海にあり吾人は此際兼二浦市民が勝て兜の緒を締むべき心掛を切に希望するものに御座候（十八日）

大邱見物（七）

一貫生

もまれた丈が損

正面から這入つて左に折れる、『見事な出品だと思ふこ總督府からの出品だ何れも參考品だ、見物の連中がアイゴーと云ふ、何だろうと頭を上げると、八尺餘りの大きな猛虎の剝製がある、却々見事だ、イオ押すな／＼、之れは堪まらぬと大急ぎ、醸造品の前では、プン／＼鼻をうごめかして居る白衣の聖人も見れた、お客樣は何れも悠々閑々たる君子だからゾロ／＼付いて行つた日には幾時間かかるかも知れぬ、お先に失禮して、アイ御免よで車夫に早替をする、織物の前で何でも安東の廳の織物が見事だつたので見て居たら、後からグイと押されたので吃驚して振返ると、之はしたり大きな深編笠然たる笠を著た先生が、有り難からぬ鼻息をフーと吹きかけた、之れでは命が危ないと其の袖の下を潛つてやつと脱け出た、之だから滅多にうか／＼して居られぬワイ果物も立派なものがあつた、殊に拙者のお目に止まつたのは鬱陵島の梨であつた、頗る立派なものだが、又頗る安價だ、之は賣りませぬかと聞くと、何を云ふ觀工場でないぞ、販賣は何日やらから始まると劍突、オヤ／＼もまれて踏まれて劍突を喰つては、殘等割にならぬ商賣は誰でも不可だ、それでも引き合ひにならぬ、引き合ひ取つて返して二號館に入る、此處もすし詰で寒いのに大汗とは、如何に元氣があつても少々元氣の出し損と勘定して出る、何處いらかを經巡つて鬪を澤山陳列した處へ行つた、成る程鬪は好い、白龍なとは却々洒落て居る、と見とれて居ると、オーイ歸るんだぞと呼ぶ聲がした、振り向ひて見ても誰も居つた人は居なかつた、がこれは確と云ふ神樣のお告げだなと思つて早々退場した、最う少し見やうと思つたが、小腸には何でも其處に關する說明樣のものをどつさり貰つて居るから、宿屋で寢ころんでゆつくり見やう、擇り作ら然して功なき愚は當世の智者の學ぶべき處に非ず、ア、今日は拙者に似合はずもまれた丈けが損をした　やれ／＼

日朝俳壇

一葉會詠草（京城）

痛ましき敗荷の霜に小鳥哉　凡知
霜畑の藥火に立てる小供哉　同
碧空に醸る風の落葉かな　同
烟らする露營の朝や霜深き　光湖
落葉掃く人我父に似たりけり　同
夕鐘の響きに雩る落葉かな　同
風もなきに落る夜や霜の聲　松華
譯もなく落葉見て笑む我兒哉　同
鷄の眼這ふ四や柿落葉　孤舟
拂曉に霜のテントを疊み兎　同
婦られて湖へ散り行く木の葉哉　綠人
來るとなくて出て來ぬ落葉寺　同
彼ぎ人小さく行くや朝の霜　同
霜晴れの碩に遠く灌ぎ居り　同
持ち減らぬ賣石白し今朝の霜　飛骨
落葉降り歇ず障子に風鳴る　不減
方石拂ふ霜に尻振る家鴨哉　同
連れ呼ふ霜に尻振る落葉かな　同
掃き進む後るわなし落葉風　峰村
見馴れたる夜の闇さま今朝の霜　同
我一人汽車待つ驛や霜の聲　同
舌船の霜や寐覺めの鼻の先　笑山
落葉して月の明るき伏屋哉　同
騎兵過ぐボプラ街道落葉風　孝古
落葉掃く廟守る人の嚏かな　同
橋の霜踏む我が草鞋輕ろらか　春帮
掃き溜し落葉吹き散る嵐哉　同
月に降る高き梵や霜の聲　理
落葉焚く煙の中の人語かな　同
雨にかも似て雨戶打つ落葉哉　百盛家
鳴が今朝も眠れて居るか霜の枝　同
柿の木に月外れて暖き霜夜哉　早夜子
下山する俯い微吟や落葉風　同
落葉してあからさまなる在所哉　鈴月
呂舟の霜師ける旭かな　同
我庭に秀る松や落葉風　山郁
霜の草根强さ結ぶや船の綱　同
木守り柿の色鮮な落葉かな　五竹
牛乳配る蹇び冴ぬ霜の朝　同
一枚板を泊せる椅や霜白き　才涯
渦卷きて風の跡ある落葉哉　同
市人の霜を踏む太き草鞋哉　存於
落葉寺の茶店鎖しぬ夕日影　同
霜や鷄頭枯れ立つ庭の面　露蕉
落葉して見る透く塔の高さ哉　同
曉天や霜に包める樹々の霜　同
石段の落葉危く上りけり　同

惡性のかぜが流行る

今度のかぜは油斷がならぬ。スグ咽喉を犯して、高熱を發し、殊に尤も怖る可き肺炎を惹起す事が多い!!重くならぬ裡に大人は蛇印……アンチピリン丸　小供はオインスグ服用して快治せよ

大人のかぜに

絕對に副作用なき　安全第一の
▲かぜねつ最特效藥　蛇印アンチピリン丸
價十錢、十五錢、廿五錢、五十錢

コドモのかぜに

▲こどものかぜねつさまし　小兒專門解熱新藥　オイン
價十錢、二十錢、三十錢……を
コンドのかぜは直のごを犯す!

たんセキの人は

▲タンセキ特效專門藥　呼吸器散を服用あれ!!三日分で必ず偉效あり
價十錢、十五錢、三十錢、一圓
（丸藥には呼吸器丸あり）
▲いづれも信用確實なる大阪東京丹平商會藥房の製劑です　最寄の藥店で……スグお購めあれ!!

瀨戶外科皮膚科醫院

京城旭町二丁目（舊三丁目）電話四九八二番
（診察夜九時迄）
醫學士　瀨戶潔

愛は人生を美化し　治痰丸　百毒下しは人體を淨化す
ばい毒　そう毒　の良劑　しつけ
各地藥店に販賣す
本舖　伊勢四日市市末廣町　加藤翠松堂　振替東京三〇四五　大阪一七九五

北海道材　洋家具材は　本明雜木店
京城黃金町一　電話三一七五番
△椅子卓子調製に應じ申候▽

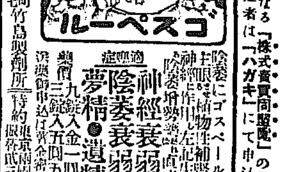
◎株式賣買は現代唯一の致富法

營業課目
▲定期部　▲現物部　▲信託部　▲金融部　▲調査部

誠實と確實と機敏とは弊店の生命にして且つ絕對的信條也

最も有利なる「株式賣買同盟」の組織あり取引希望者は「ハガキ」にて申込まれよ

◇東京市日本橋區坂本町◇
◇東京株式取引所仲買人◇
沖野米三郎商店



陰萎にゴスペール本劑は肉體の營養强健を主眼とせる植物性神經新劑にして其效は生殖器神經に作用し左記生殖器障害に試用上有力なる……

適應症　神經衰弱　性陰萎　精神的陰萎　衰弱性射精　夢精・遺精・早漏

定價　九錠入金一圓　廿一錠入二圓　六十錠入五圓　百廿六錠入十圓

發賣元　東京市下谷區長者町三九五　竹島製劑所
特約販賣　東京兩國米澤町二　吉田藥業堂

旅行具專業　岩田鞄店
京城本町二丁目（電話九五四番）

ゴルフはタカヂアスターゼを主藥とせる美味の健胃消化劑なり。
全國藥店にあり。
定價　二十五錢　五十錢　一圓廿錢
東京室町　製昌製藥株式會社

男の生殖器病

發育不完全、包莖、陰萎、早漏、腎虛、淋病等は專賣特許眞空療法器にて目に見ゑて復活す二大博士も其效を證明せり　ハガキで照會あれ　說明書進呈代封送す　健康者も一讀せよ　向上部にて懇切說明す
東京神田カヂ町五　電話神田七三一
東京眞空療法研究所

晴　時報
前日最低溫度　三十一……

商況

東京株式特電

日前場	先限引値
東株	二二六、〇〇
同新株	一九五、九〇
郵船	一〇四、〇〇
滿鐵	二〇六、五〇
同拓	二四三、五〇

東京現株中値

十八日	
朝鮮銀行	一五四、五〇
同新	…
南滿鐵道	一二六、五〇
第一新株	一五四、〇〇
第二新株	八一、〇〇
南滿製糖	…
朝鮮製糖	…
滿洲製粉	…
京城電氣	…
朝鮮瓦斯	…

東京期米特電

十八日後場 先限寄付	不明
止め	三十三圓九十二錢
十九日前場 先限寄付	三十三圓九十錢
二節	九十一錢

大阪株式特電

日前場	止め
宇治川水	五六、〇〇
東京瓦斯	五六、〇〇
東洋紡績	五七、〇〇
合同紡績	五〇、〇〇
鐘淵紡績	五一、〇〇
同上新株	五一、〇〇
東洋製糖	五〇、〇〇
大阪商船	三、五〇
同上新株	五〇、〇〇
郵船株	五〇、〇〇
同上新株	五〇、〇〇
鐘島米穀	五〇、〇〇
東京株式	五〇、〇〇
大阪株式	五〇、〇〇
同上新株	五〇、〇〇

大阪三品特電

十九日前場	
十一月限	三四八、五〇
十二月限	…
一月限	…
二月限	…
三月限	三一五、〇〇
四月限	…

大阪期米特電

十八日後場 先限寄付	三十三圓二十八錢
六節	十六錢
十九日前場 先限寄付	三十三圓九十錢
二節	九十九錢

兵庫期米特電

十八日後場 先限寄付	三三、五二
高値	六〇
止め	五五
十九日前場 先限寄付	不明
時電	三三、四五

下關期米特電

十九日前場 鮮米及び北陸九州地方の正米高気配

	寄付	中限	先限
高値		三四、四〇	三四、八〇
安値		三四、五〇	三四、八〇
止め		三四、四〇	三四、七〇

雜報

三品更に小高

米穀高に人氣を刺戟したる三品市場は今前場當限三四五圓にて先限も三二五圓にて昨午後の入電に比し更に三二五圓高を呈し來れるが平和後の現勢に付ては尙强硬の見解抱き丈けに此遂行きは仕手關係より生ずる本の眼先商内とも見るべきもの多く大勢に於ては

氣迷ひ的浮動

なるが免れず

綿布三銘は九圓九十錢

とす午前中より引續き下押しが目立て

正米依然持合

精米筋は一般買進へ居れるも昨報の如き市價にて買物多からず

覺束なき氣の下押し

昨日に降雨後の天候は續いて良好ならざれば今後の出廻も急に増加を望み難く且つ定期市場は强硬にして内地正米高値を報ずるに拘らず當地正米も眼先き人氣の下押しは覺束なし之の氣勢へにて市場の氣配面白からず當地に取りては好機會なしと心ある向は既に夫々同方面に手か集めん模様あるも大體が買物少數にて意の如く商談運ばず眼先は矢張今日の値頃を中心に小高下か繰返す外なからん

强含なる鐵材目先安

鐵材は製造の方法下げ影響と平和後の成行懸念に商狀益々不良に傾きて丸鐵はいふに及ばず一時品薄を呈したる鐵板類も漸次不勢の影響を受けて市況なりし鐵板類も漸

次不勢に更に下落を免れ難く

内地に於ける相場の如何を待つて當市場の相場は北處月末より十一月初旬にかけ一般に下値を現しつゝありさいへば年末決濟期を控へ年内尙幾分か下押しあるべし

織物再び旺盛

前月初旬頃には各買入一般に先高を見越し一齊に買進みたること~~さて綿布は新る所見通しが其後平和の講和說の起りしより頓に人氣を挫折し氣迷ひに陷らしめたる折柄綿は未綿なを承けて日每に崩れ弱勢を示して生絲は米國の絹物生産制限說を報し來りて下鞘の危險を呈したれば中途より絹物は益々買氣が退衰し

絹布一割乃至一割五分方綿布類は通じて一割方相場の低落

を示しむるに至りしが元來時勢に順應する商店は大阪始め仲次より各方面に於ても常に手持品の多からざる一般上手持品合も少くも打撃は少く加ふるに其後綿糸も反撥し來り又米國の絹物生産制限も其程度に依らずして今後の

有様となりしかば人氣漸次落着きに從ひ再び買氣の喚起するに至り需要期と共に頗る健實なる成行を示しつゝあり

木炭少强し

木炭は此後相場は目下入荷需要ともに多からざる入荷は其上一圓十五錢に小賣一圓四十錢近が居れるが昨今少なからず買物の殆んど一般的買向が本邦に次第に値上りの跡あるを以て一般需要漸く增加し來れるさ~~共に木炭の入荷は一時品薄を以て

幾分頭を擡げ

たる傾向ある~~又此際の需要期に出廻り不足なりしに比し筋に集入筋の思惑買物あれば之が入荷の上で多少の影響ありて、一時小賣相場は今後に於いて上向し市況の脆弱を免れず

煉炭

は一般に値上げ沈滯し目下の狀况は比較的一定の相場を維持し小賣は~~然る輸入ものは今後一層に上騰せんとする傾向あり

内地糖界强認

分蜜新糖は先物は過般來上景氣を續け氣先の良好なるを見て人氣昂り十四日高値は十七圓五十五錢迄突進せしも高値ひは買方の手仕舞あり十七日九十錢迄に騰貴し今回下押し後の十八日十五圓二十八錢を引續き强勢を持續し八錢にても尙買物の出る模様にて一時の氣配なりしも更に瓜哇糖は昂騰しに之を見て買氣の市況は相當に活潑なれば

精糖

は尙保合推移すべし

臺灣赤糖

は精糖の强硬に連れて當地相場も漸次盛況を呈し三十四圓五十錢見當にて出來高高く~~前記の如く市況は頗る强硬なるを以て先物の相場も亦强勢を示す計りにて勿論小賣は相當に强調なり

洋紙は保合

洋紙は十月に於ける一般需要少く賣行は買物少なく相場は一年中の最高値なりしが

各地商況

十八日

◎大邱米況 久しく不勢に叩かれ居りたる正米は各地共外米出廻りの増加は先般來高値の爲め買手少なかりしが期米は立て直りて一般に買氣盛んに入り漸く値頃に手合せて一昨日の相場に比し一圓五十錢乃至一圓方の騰貴を示し本日更に上物を四十錢乃至五十錢方上値を唱へ居る▲古米は中物各地より入荷は少なく相場は前日と變りなし午後に入り米作は~~入荷少なき爲め正米相場は益々强硬となり本日も一般に三十四圓五十錢前後なり

◎鎭南浦米況 賣物少なくて出廻りも減少し一昨日來の朝鮮米は下物三十五錢方高の見當なり

釜山物市場

十八日

新米三十錢高	
古神戸三等	三十一圓
同在來	三十一圓
新神力內渡	三十二圓二十錢
新神力米檢	三十圓五十錢

出來値

京城正米市場

配は引續き好況にて各方面より買物多く人氣一層引締りて京城上品十五圓二十錢より十五圓九十錢見當なり

仁川正米

前日の如き市況にて商内保取らしき氣配は引續き强持合ひにて出來高は玄米三百八十五叺最高二十九圓五十錢最低二十八圓八十五錢前後なり

▲正米は依然人氣にて不合格米二十八圓五十錢より上田三十圓まで出來

生魚市場

◎京城日丸市場 本日は鮮魚の入荷少なく~~

仁川期米

十九日前場(上放跡下押す)

第一節 各地前寄高にて當地出來不申十七圓八十錢

七圓九十錢先二十七錢高に寄付

上伸せしも買物多く八十一錢と押したるが押目は買物多く八十錢まで反落七十八錢と押し大提戰を演して引

▲第二節 當出來不申七十錢先七十九錢より八十二錢と跳ねたるも賣物漸く多く七十五錢を押して引

▲第三節 當二十九圓六十錢出來不申先七十七錢より大阪安移りに買物多く六十錢と惡落せしが押目は又物多く六十八錢と返し六錢と大提戰を演じて引

▲第四節 當出來不申先六十六錢より八錢と跳ねたるも賣物多く六十六錢と押し三錢と返し

大阪前場寄付 三十二圓二十六錢安

節 九十九錢東京三圓九十錢九十一錢の入値にて當中出來不申先六十六錢より八錢と跳ねたるも押目買物多く

混戰裡に六十八錢成行不勢

前場 限 當二十九圓六十錢 中限 二十八圓七十錢 先限二十八圓七十錢

▲先限 二十七圓九十錢九十錢八十五錢九十錢八十三錢三錢四錢三錢一錢二錢一錢十八錢十九錢十九錢十錢 ...

市場雜觀

▲昨後場は大阪前場寄付三十三圓二十錢二節二十錢四節十九錢九節十七錢七節二十錢四節十九錢八節二十三錢九節二十錢兵庫三圓六十錢京四四十錢…五十四錢下の閉四圓〇五錢三圓九十三錢の入值寄付にて當地當出來不申中二十八圓五十錢先二十七圓六十錢高に寄付き更に七十二錢と沸騰し大提戰を演出し一節を終つた二節も當出來不申六十錢より六十三錢と跳ねしが買物漸く多く六十五錢と押したるも七十三錢より五十九錢先七十四錢より五十三錢より七十錢より六錢と押し四節當出來不申六十錢より七十三錢を押したるが先七十三錢より七十錢と押し四錢と返し三錢と散會したり▲前場强硬の機先を制れの經過に新規買物多く更に惡騰の成行を演出したり是必竟正米の硬調が無視して賣り込み居りたる反動にはならずとするも人に往目を要するものあらん引跡寄付

▲天候押照り各地前寄米着な~~十七圓九十錢中二十八圓七十錢先二十六圓九十錢、高値~~

東京期米

十八日

各地の氣配に新規買物多く相場ありし消化して二十六錢高に寄付き更に十一錢と戻したるが跡利喰に利食ひに一旦押したるも北國筋の買進みに再び騰貴▲後場前場を取りて九十錢安の鞘に出て十九錢安後場持合の鞘と強して小口正米の買に十五錢方の强勢を示したる地方筋の買あるに引返したるも止は又復九十二錢で下押し

大阪期米

十八日

▲前場 今朝各地の高寄を入れ高見一派の高買及び買を入れたるも地方筋の買物依然衰へず寄付き地場二十八錢と十錢高を示し跡利喰に十七八錢に至り止は手筋も加はり二十八錢方下の落もなく派及び西山筋の押目買に二十四錢▲後場 前場硬勢の氣先き二十八錢と跳ね寄付きたるが漸く利喰に下落したるも買物減衰せず氣配硬くかと大阪三十錢下落の結果三二十八錢に至り摑みに押したるは手合ひ結局十六錢と頑强く散會せり

大阪株況

十八日

▲前場 立會前東京の硬勢を報じ氣配は堅調にて一般に利喰と戻物多く賣物少ならず强弱共方大提戰となり大商内の裡に十一時三十分と錢と成り此時新二圓三十錢高新二圓三十錢▲後場 新二圓十錢高▲商船一圓四十錢▲郵船~~と一時大株は大體落着くの模様にて新株は何れも十錢下を呈したり

硬に依り期近の强

前場は買物多く氣配の堅調面であつた程なし安値を見て大阪は利安を感じ買物の多きに依る結果に外ならず

縮少し大阪鞘は大に

大阪鞘は五圓三十錢と縮少に於て前場の方先々理想の念頭くに朝鮮に於ける

賣人氣旺盛

大阪一面内地よりも正米の出廻りは日に來りたる結果に買物を牽き米の如き反撥高値に買進み來るは自然の成行ならんが然るに豐作は尙依然出盛りの際にて米界大に注目の要あらん

何も一低落

あるか知れず先つ鞘は大きく今後の米界は~~

仁川米豆取引所

十九日の一月限

前場		出來高
寄付	二十七圓九十錢	一節 二十七圓八十錢
高値	二十八圓十錢	二節 二十七圓七十三錢
安値	二十七圓六十錢	三節 二十七圓七十錢
止め	二十七圓六十錢	四節 二十七圓六十四錢
		五節 二十七圓六十六錢

平均值段

株式會社仁川米豆取引所仲買人 全高田仲買店 ●前金御注文は紹介な不要候 ●營業案内及電信略號進呈 仁川海岸町三丁目 電信略符ヌツ 振替三八一一 電話長一〇〇 電話長一一九

毛谷村六助 廿六番角力

六十六席 桃川桂玉口演 浪上義三郎速記

母里太兵衛は後藤の屋敷を出て、黒田三左衛門の許へ參つて 太『黒田氏日本號の槍を御覧になつたか』三『未だ拜見をした事がない 太『拙者が見せ申さう、實は之々然々で福島侯より頂戴をして參つたのだ 三『それは羨ましい拜見をさして下さい』三左衛門も禮拜をして右の槍を見ました、その次は栗山備後の所へ持つて來て見せる、毛谷下總に見せる、廻る〳〵家中々を廻つて皆々に見せて歩く、仕舞には見せて行く所がなく、一ッ餘れば大津へ歸るで、後藤又兵衛の所へ持つて來た 太『又兵衛貴公は日本號の槍を見たか 又『ウム此間お前が持つて來て見せて呉れたではないか 太『ウム然うであつたつけ、又忘れると叶けないから念の爲に最う一度見て置きなさい』太兵衛は皆々が頭を下げて禮をするのを嬉しがつて居る、毎日の樣に見せ開かして歩いて居る仕舞には家中の者も怒つて了ひ○『彼の野郎我々が頭を下るのを好い氣になつて見せ開かして歩いて居る、何かあつたら此返報をしてやらう』と思つて居りますと、間もなく殿下秀頼候が、朝鮮征伐をなされて、文祿の元年三月日本勢二十四萬と云ふものが朝鮮國へ渡外を致しました、之は朝鮮軍記にて委しく延べてありまする故略しまするが、先手は加藤主計頭清正小西攝津守行長でございまして其勢ひ破竹の如く、竹領縣と云ふ所へ加藤黒田福島等が陣を張つて居りますと毎晩〳〵虎が出て來て、馬を喰殺す雜兵等を喰倒します、故に卒小者等は縮いて慄へて了ひ物の役に立ちません、これでは差支るに依つて、加藤と黒田が協議をして竹領縣で虎狩を始めました、サア兩家の者は面白半分に虎ゝ狩り立てる、黒田の陣中へ皆々引揚て參り、後藤又兵衛が筆を取つて虎を退治た者の名を書止めて居る所へ槍を荷つて歸つて來た母里太兵衛 太『ヤア御一同御苦勞であつた 又『オヽ太兵衛か今此處で虎を退治たものゝ姓名を書止めて居る所だが、お前は黒田家の八虎の一人母里太兵衛、殊に得物は日本號の名槍、云はゞ鬼に金棒と云つても好い位だ、定めし虎を退治なすつたらう 太『ところが間が惡いので虎に出逢はない、未だ一匹も退治ません 又『イヤ各々御聽きなすつたか、太兵衛は偉いな四十一匹退治たので引取つて參るのに手が足りないから手を貸て呉れろうと云ふ各々手傳つてやりなさい 太『イヤ然うではない、始終一匹にも遭はないと云つたのだ 又『何ッ始終遭はない、それでは未だ一匹も退治ないのか、太『然うだ』又『イヤ意久地のない奴だ、我ら得物が好くとも、未熟だと何にもならない、何と各々笑つておやりなさい』と大勢でやつて參りました 太『イヤ又兵衛奴忌まく〳〵しい事を云ひやアがる』ドッと笑ひました故太兵衛は思はず其處を駈出してドシ〳〵山道を『大きな虎を一匹退治て奴等を驚かしてやらう』と段々山へ登つて來ますと山の半腹に大きな岩穴がございましたが、其穴から半身を出して大虎が寢て居ました、突然太兵衛は槍を取直して右の虎へ突き掛けますと、大虎は眼を醒まし、槍を引つ掴み既に飛掛らんとする有樣、太兵衛は驚き 太『イヤ誰か來た呉れ、母里太兵衛大虎に出遭つて難儀を致す救うて呉れ』と云つて居ると、向ふの岩角に立つて笑ひながら見て居たのが後藤又兵衛 又『イヤ太兵衛日本號を俺に呉れゝば助けてやる、左もなければ助けてやらん 太『同廊の好誼だ然んな事を云はずに助けて呉れ 又『早く喰はれて了へ 太『それでは此槍をやるから早く助けて呉れ』後藤又兵衛は岩角より飛下りて槍を取直して、虎の横腹を突いた、此の時虎は其槍を押へて『虎』聞いませんん又兵衛さん』と云つたか何うだかそれは分りません、此日本號の槍は後藤又兵衛の持槍となりました、之は母里太兵衛の傳記でございます。

◎安東縣近事

十七日

▲一面の銀世界 十七日朝來降雪あり氣温は餘り低からざりしも終日降り續いて積雪一寸に達したる處あり、野も山も一面の銀世界と化したり

▲惡性感冒減退 一時猖獗を逞うしたる安東地方の惡性感冒も近頃大に減退の有樣にて一日死亡者數四五名に達したるも近來殆んど死亡者を見ざる日あり、今暫時の注意肝要なるべし

▲高島中將來安 鐵道守備隊司令官高島中將は安奉沿線守備隊閲の爲め去る十六日鷄冠山を經て來る二十一日頃安東に來るべしと

▲木材界稍活況 安東縣の木材界は目下結氷期を眼前に控へ居る爲め殆んど大口の取引を見ざるも製材界は依然結氷期を見込みて大小口の注文あり何れも二三月の交までは大多忙を見るなるべし

▲山内驛長出京 山内安東驛長は貨車増配に關する要件を帶びて十八日午後六時三十分發列車にて京城へ出張せり

▲小蒸汽引揚げ 大連汽船株式會社安東出張所の乘客送迎用小蒸汽船加茂丸は追々結氷期に近づくを以て十七日陸上へ引揚げ作業を終りたりと

▲支那街祝賀會 安東支那街に於ては十四日より十六日迄三日間各戸國旗を掲げ休戰條約締結の祝意を表し各學校生徒は旗行列を爲したりと

十一月二十一日(木) 舊十月十八日 壬申 ▲九紫 ▲鬼宿 ▲納 ▲劍鋒金 ▲先負

▲九紫▼ 一日謹みて暮らすべし酉は吉し ▲一白▼ 萬事控へ目にして吉 ▲二黑▼ 何事も心正しからざれば不愉快なり ▲三碧▼ 都合の好き日 ▲四綠▼ 成功の好き日なり ▲五黃▼ 正直に進めば物ごと成就す ▲六白▼ 不平を起すべからず ▲七赤▼ 萬事に當らば目的を達し得べし ▲八白▼ 元氣好き日なり

古本買受 御報參上 京城明治町通り 野村書店 電話一〇五〇

實用防寒 毛布 (家庭にも旅行にも無くてならぬ) 寒氣最も嚴しき西比利亞の或る特殊方面に送るべく新註品なりしが時局の爲め途中取引中止となり不得止原毛の價に一般に賣出す 茶、鼠色、大判二枚組(新製品無疵)三圓四十五錢 注文者は至急ハガキにて申込あれ受付順に代金引換小包で發送す數に限りあり賣切れ後は送付せず 東京神田 株式會社東京織物仲織店

下山藥學博士、慶松藥學博士鑒定證明、朝比奈藥學博士、岩川醫學博士、笹川醫學士、加藤、山田兩獨醫學士等實驗の結果——殺菌力を有し且絶對に胃腸を害せず——理想内服治淋劑と確定せる權威ある優秀新藥
淋病 新藥 ツヨール
實驗說明書贈呈
●膀胱カタル、尿道炎、睾丸炎、腎臟炎、一般淋病に偉効を奏す
百粒入 五十粒入 三十粒入
東京日本橋區小網町 製造元 ツヨール商會

TAKA-DIASTASE
高峰博士發見 タカヂアスターゼ
本品は本邦人に最多數を占むる澱粉不消化に因する胃腸障害に必要缺くべからざる新藥として多數の醫學者臨床家に依り確認賞用せられつゝあり。
本劑は從來米國にて製造したるものを輸入せしも前年より本會社品川工場にて製造し純國産品となれり。類似模造品は時日經過と共に效力減却するを普通とす、我タカヂアスターゼは效力永久不變なり。
内外醫學者の實驗報告書無代贈呈す。
東京室町 三共株式會社

島村博士證明 健腦丸 腦病良藥 KENNOGWAN
現代唯一の腦病藥 ……とは島村博士有效證明の…… 腦病良藥 健腦丸 であると衆口一致
主效: ■腦充血 ■中風 ■腦膜炎 ■卒中 ■腦貧血 ■頭痛 ■神經痛 ■便秘 ■健忘 ■眩暈 ■耳鳴 ■逆上
特長: 常に少量宛常用せば逆上を引下げ便通をよくし恐る可き腦充血や中風卒中を未發に豫防し頭腦を明晰にし記憶力を增進す。
藥價: 中週分四十錢 一週分七十錢 二週分一圓卅錢 三週分一圓八十錢 十週分五圓
本舖 大阪東京 丹平商會 各地藥店にあり

帝國の精華たる我陸海軍人諸君の日夕愛用せらるる
ライオン歯磨！
その科學的名聲は、諸君の赫赫たる武勳と共に今や既に世界的となれり。
ライオン歯磨本舗 東京市本所區外手町 株式會社小林商店 支店 大阪
(1008-7)

京城日報

伸し買物に六十六錢と押せしも又買物み八十錢と漸騰し七十七錢と打止めたり後場は閑散出來不申

發行兼編輯人 奧田直　印刷人 小川三之介
發行所 京城日報社

京城日報
吉會鐵道の成否奈何

一

吉林會寧間の鐵道敷設は、開島條約の締結以來、十有餘年に亘る懸案なり。然も其間何等具體的の進捗を見ずして經過せしが、昨年十一月、清津會寧間五十餘哩の鐵道全通を見るに至り、朝野の注意は漸く吉會線に蒐まるの觀あり、曩に朝鮮總督府が七百餘萬圓の巨費を投じて敷設せる清會鐵道の沿線は、不毛の地にあらざれば山間の谿谷にして、何等產業鐵道として云ふに足るものあるに非ず、同線の價値は繼て日支兩國に依り敷設を見るべき吉會線と連絡し、初めて發揚せらるゝものたり、即ち清會線の開通は吉會線着手の前提と見るも必ずしも大過なきなり。

二

本年四月一日より清津敦賀間を連絡する日本海橫斷の命令航路は總督府の補助を受け、朝鮮郵船會社にて經營を開始せり、其結果日本海を通じ帝國と北滿地方を連絡する公道は、吉會線の敷設を以て完成する形となり、同線速成の機運は愈々釀成せられたり。更に四月より五月に亘り、滿鐵にては吉會線の通過地に多數の社員を派し敷設に關する實際的の踏査をなさしむるあり、吾人をして同線の着手が何等かの形式により、早晩實現すべき事を期待せしむるに至れり。

三

六月十八日、北京電報は鮮銀興銀臺銀の對支投資シンヂケート銀行團と北京政府の間に、吉會鐵道借款豫備契約の調印を報じ來れり。同契約に依れば三銀行は直ちに一千萬圓の前渡金を支那政府に交付し、借款の本契約は豫備契約調印後向ふ六箇月以內に締結すべく定めありき、即ち本契約締結の期限は今後約一箇月間に迫り居れるなり。

四

內閣の更迭ありて以來、原內閣は前內閣の對支借款に積極的方針を把持せしと異なり、南北の統一されて內政の革新を見るに至る迄、經濟借款と雖も成るべく、消極的態度を以て臨むの風あり。殊に經濟借款と稱するも、北方政府の討南費に流通するの疑ひあるものに對しては、斷然中止の措置を執るべしとの說も出でたり。是れ最近吉會線借款打切說の唱へられし所以なるべきが、聞く所に依れば政府は既成契約尊重の意味を以て、契約濟のものまで破棄する如きことは斷じて爲さずとの事なり、而して目下その締結に付大藏省は三銀行との間に協議を進め居るらしきも、未だ一致點を見出すに至らざるが如し。

五

思ふに日本政府の意向は、支那政府が借款資金の討南費流通等の事をなさず、眞に事業開始の意志を有し、且つ各種の條件に於て、吾が資本團が之を引受くるも何等支なしとせるまでに一致せざる限り、其繼續を許容せざるもの、如し。支那政府が果して我が提出の各種條件を承諾するや否やは、刻下の實情に於て若干疑はしき點あり、是れ大藏省と銀行團並に銀行團と支那政府間の協商遲々たる所以に非ざるなきか。

六

吾人は何等かの方法に依り、彼我兩國間に妥協點を見出だし、早く同線敷設の實現せん事を切望す。是れ同線の開通後は自然經營を滿鐵の手に收むる事ともなるべく、而も吉林省內の富源開發、北朝鮮の繁榮、日本海航路を東洋的公道となすに與つて力あるのみならず、西伯利北滿方面の有事に際會する等の場合、軍事上より見るもその價値の少からざるものあるべしと信ずればなり。(西海生)

東京便り
（十一月十五日東京發）

◇講和は近けり。然れども平和は來らず。吾人は現下の時局を大觀して、以上の斷案を下し、上下の省察を乞はざる能はず候。獨逸の屈伏を以て世界が平和の理想鄉に到達したる如く思ふは、短見も甚だし。世界の時局は多々益々面倒を加ふる一方に候。

◇吾人は聯合國の戰捷を祝し、平和の克復を喜ぶに於て、世界の何人にも讓るものにあらず。然れども晩餐會席上の外交官同志が乾杯の辭に世界の平和を謳出すとは、如何にしても信ぜられざる一人に候。勿論戰爭は吾人の好む所にあらず、世界の永久平和は人類の衷心の願望なるべく、…更に別言すれば、現代の人類は旺盛なる生存慾と熾烈なる競爭心とを有する也。…

◇勿論戰爭は常に銃砲と艦艇とのみを以て行はるゝものにあらず。戰爭は即ち競爭也、人類の競爭は多種多方面に於て日々實演せらるゝを知らざるべからず候。干戈の戰爭は轉じて富の競爭と變り、貿易の戰爭と化するやも未だ知るべからず。然れども是れ等しく文化と國力の戰爭也、砲火と流血の間に輸贏を決せざるも、國力の總和と文化の高低を爭ふに於て、二者毫末の輕重無し。永久平和の反面には乃ち永久戰爭の眞理あるを解せざるべからず候。

◇吾人は以上の意味に於て、今次の講和會議を觀察し、世界の前途益々油斷のならざるを確信するものに候。若し戰爭の結論が平和ならば、平和の結論が戰爭也と斷言せざるを得ず、世界大戰は、今次の講和に依り、漸く其の第一編を終れるのみ、吾人は直ちに第二編の著作に取かゝらざるべからず候。聰明なる讀者は、紙とインキを以て記されたる永久平和論や、國際聯盟論に、惑ふ莫らんを要す。

◇然り戰後の世界は益々物騷也、戰火の爭を切り上げたる世界の强國は、今度は資金と物資と算盤とを以て、弱國を壓迫し來るや明白也。…

◇論じて此處に至れば、我が日本の如き、大に考へずんばあるべからず候。吾人は人を見て悉く賊と思はざるが如く、歐米列强を以て、必ずしも日本の征服者とは思はず、彼等は正義人道を尊重する帝國の邦として、寸分の隙も其の間に挿まざるものに候。然れども彼等が無限の物資と黃金とを以て世界を橫行し、偉大なる算盤を擔ぎ來りて隣邦支那及び西伯利亞に臨みたる場合、吾人は據難き不利を感ぜざる能はざるものに候。

◇勿論吾人は支那、西伯利亞を獨占して、白人諸君に閉め出しを喰はさんと欲するものにあらず、然れども强大勢力の侵入は吾人にとつて一大脅威たらざるを得ざる也。侵入者に惡意無きは明白也、然れども帝國の發展に迷惑ある亦實也。吾人は戰後の支那に對し特に甚深の注意を怠る能はず候。

◇それが爲めには日支兩國が…

現代印度の事情 (二)
岡教邃師講演

併し斯んな酷暑でも夜はズッと涼しくなる。此の三箇月の間雨は一滴も降らないのだが夫れだけに空は紺青を流した如く誠に滿麗に澄んで居る。月の出た折など皎々と銀盤の樣に輝く其下に椰子の樹や其他色々の熱帶樹が蒼々と茂つて涼風が自から吹て來る、斯う云ふ景色の中に印度人が太鼓をポト〳〵と叩いて月琴の樣なものを鳴らしながら唄つて居る態は實に詩的である。此酷暑季が終ると六月から九月迄は雨季になる。日本では一箇月許りの梅雨にウンザリして居るのに是が四箇月も續くのだから稍苦しい、書物でも器具類でも糊着にしたものは全くバラ〳〵になつて仕舞ふ、黴が來るのは勿論である。印度で日本の商品が粗製濫造だと云はれるのを調べて見ると此事情を知らずに大丈夫と思つて釘を用ず只糊や膠だけで固めたものゝみ送られたのが澤山にあつた。斯う云ふ次第で從て雨季の間は總ての仕事が休止の狀態になる。其次に來るのが冬季で十月から翌年の二月迄續く、冬と云つても丁度內地の彼岸時分の氣候で日中は單衣夜になつて袷で好い加減と云ふ程度である。商業農業總て此期間に最も活潑に行はれるのである。印度は土地が廣い上に熱帶地方のこと故產物は非常に豐富である。加之ガンジス河を始め無數の河は埃及邊と同じ工合に每年氾濫して流域一體に肥料を施す必要はない、彼方にも日本と同樣に水田があるが夫から出來た米は却々立派なもので味も上等米は內地米朝鮮米と殆んど差異が無い。而して一年に二度は收穫し得るのだけれども印度人は到つて呑氣なもので一つの田地から二度も米を取らうとは爲ない、甲の水田に今月種を蒔くと乙の水田には來月蒔くと云つた風に概ね一箇月遲れに次へ〳〵と稻を作つて悠々と休みながら仕事をするのである。けれども牛を上手に使ふ事は彼等の特長で何んな仕事にも牛を巧に使つて行つて居る。米の產額も莫大なものではあるが三億と云ふ人口の中で遊んで居る人間が澤山あるから產米の大部分は國內で消費せられ、ビハール米と云ふ一等米の如きは外國へ輸出する程は出來ないのである。米の次には棉花である棉花は印度の輸出品の大部分を占めて居るもので今日では日本の紡績業家が餘程多量に此印度棉の買占めを爲し居る。然う云ふ關係から諸方から見物に來る日本人は誰も彼も棉を買ふ金持だと見做される、私の樣な者が行つても直ちに自動車で迎へに來ると云ふ狀態で却つて迷惑した樣な始末である。

總監南鮮視察

◎山縣政務總監は大邱に於ける慶北第二回共進會褒賞授與式臨場を兼ね慶州新羅の古都視察の爲め去る十四日南渡の列車にて入見鐵道局長大塚參事官遠藤秘書官の諸氏を隨へ南下せることは既報の如く政務總監は大邱着後直ちに鈴木道長官の官舍に入れり、而して晩食後鈴木道長官其他の案內にて直ちに共進會場を巡覽し市內の夜景を一瞥さる

◎十五日は午前八時半より慶北各學校出陳の教育品展覽會、大邱高等普通學校、高等女學校、盲啞學校等を參觀し續て褒賞授與式に臨場せり、十六日は早朝官舍を出で同道の大典記念の視察の後北風凛冽の裡に擧行せる赤十字社愛國婦人會の總會に臨席し以て大邱に於ける行動の日程を終了せり

◎政務總監の談に依れば今回同道の共進會は已に一般の公許あるが如く、經費の割合に設備結構宜しきを得各種の物產中穀類、果樹、水產物は前回に比し著しく進步の狀勢を見、又郡勢館を設け各郡の跡を見るは良工夫なりしと

◎十六日午後一時半自動車にて慶州に直行し、四時過ぎ同地着先づ其の入口なる奉德寺の梵鐘を試衝せる上柴田旅館に入り後古蹟保存會に於ける各種の遺品を展觀せり

◎十七日は午前九時出發自動車にて佛國寺を經直ちに東山を登攀し石窟庵に至る

◎政務總監の談に據れば同地の古蹟を一瞥して何處となく奈良の感あり、中宮寺に遊ぶの感あり、年代には多少の差違あるも石窟に於ける彫刻の如き類似の點あるが如く又石窟庵の高地より遙に日本海を眺望せし時は言ふべからざるの快感を覺え、下山後佛國寺の古剎を一覽し午餐の上慶州に還り途次瓦片を拾ひ半月城址に上りては雞林、南山其他の古蹟を遠望し千古の感慨を深うす、夫れより瞻星臺を見て芬皇寺に達し更に始祖の五陵より鮑石亭の遺蹟を訪ひ旅舍に還りたるは早や暮色蒼然たる頃なり、十七日は午前八時半慶州發直行慶州に還りたる上山十の觀察を遂げ午後一時過の列車にて時十分無事歸任せる也

◎更に半ば慶州の古蹟を一巡せし事とて無量の感に堪へず常に膨脹せるを見たる由君子自重の慶事を得たるは只左の二三句なり（某附）

共進會を觀て
數々の國の寶や秋實る
半月城に上りて
滿月や半月城の風寒し
鮑石亭懷古
曲水の宴や昔の夢ひやか

邂逅
佐々木峰雪

五十四　悔悟 (二)

庄吉は輕う頷いた。

『そりやさう云ふ人なんだ』と庄左衞門は急に問ひかけた。

『はい』と庄吉は躊躇つたが、やがて思ひ切つて『わたしお父さん天王寺で袖乞ひをした事がありました』

『ウッ』と庄左衞門より庄五郎は呆れて『ぢや義姉上がいつも、おなし〳〵と云つたがやつぱり本當に……』

『はい面目次第もありません』と庄吉は垂頭れた。

『それでどうした』と庄左衞門は平氣で後を聞かうとする。

『ところが其天下茶屋の佐山と云ふ叔父さん、なか〳〵親切なお方でお金五十錢と餅を買つて戴きました』

『うむ』

『それから同じ日其方の妹さんと云ふ方から單物とシャツと貰つた上、お金を若干貰ひました』

『お〻、ぢや御恩のある方ぢやな』

『それからわたし叔父さんの折檻を受けて雨風の烈しい日、丁度財布を拾つた日でした、泥の中へ押し倒されてゐると、今の天下茶屋の叔父さんが見れて、叔父さんに詫してくれた上、その時も二圓ばかり戴きました。それは〳〵親切な方なんです』と面目無氣に語つた。

『あゝ世の中は色々ぢや、假りにも親と呼ばれる身を以て、義理の子に辛く當つて殺さうとする、そは誰かは見ず知らずの他人でありながら、兄妹揃うて人を助けようとする、あゝ鬼もあれば佛もある』と庄五郎も吉兵衞も云ひ合したやうに太い吐息をした。

時折ごろ〳〵と庄造の咽喉の鳴るだけを淋に聞いて、一同は悲しみのあまり涙に流した。

『此間中から、兄ちやんと一所に箕面へ行く、箕面へ行く、爺も一所に連れてつてやらうと被仰つて、くる日も〳〵もう幾つ寢ると兄ちやんと箕面へ行くこそればつかり見る影も無いお姿にならしやつたとは、爺はもう夢のやうで眞實とは思はれません、もう〳〵夢のやうでござります』と又しても吉兵衞は止め兼た涙の下から聲を上げて泣いた。

『お〻、兵衞乃公も夢ぢや』と庄左衞門の頰にも露の玉が轉がつた。

此處に一團彼處に一團、酒に醉ぐ連中は此處に斯うした悲劇の演ぜられて居ることは知る由も無く、踊れ唄へと跳狂うた、扇拍子や手拍子の間に〳〵、兄ちやん〳〵と夢中に口走る庄造を取り卷いて、四人は悲哀の儘息さへも細うした。

『兄ちやん〳〵』其無意識の中に口の外へ漏れる一言にも、兄を力にする其詞に、一條の眞情が迸つて、握り絞た手に二人の赤い滾な血が通ひ合うた。

『死ぬる今迄これだけに慕ふ庄坊を、何故義姉上は邪魔になつたのか知らァ』庄五郎は捨てるやうな調子で云つて、頼りと肩で息をした。

此時一臺の自動車が風のやうに走つて來たが、側近來ると徐に停つて、一人の紳士が顯はれた。

『まア叔父さん』と庄吉は起つて行かうとしたが、其手は庄造が堅く握つて居た。

『お〻庄吉さん』と佐山も駈寄つた。

『お父さんこの方です』

『うむ』と頷いて『わたしは庄吉の父です、度々の御親切庄吉から承はつて、只々感謝の外ありません』と叮嚀に挨拶した。

『いやわたしは佐山と云ふ者で』

『今日も水崎町を訪問致しまする、父親の住居が知れて引き取つたとの事で早速伺つて見ると、箕面で斯う〳〵の騷ぎと承はつて駈けたんですが、坊ちやんといふのは庄吉さんぢや無いのですか』

雜誌抄

◇支那と我國　東洋でも支那では古くから眼鏡があつたが其は人の知る所であるが我が國で西洋と本當に接近したのは明治初年の頃來氏が官命で渡米した際に就つて其後段々普及して渡つてからの事である

◇水晶と硝子　水晶の眼鏡と硝子の眼鏡ドッチが好いかといふに凡ての點を比較して硝子の方が眼のために好い（水原醫學博士）

秋好善太郎君主宰
大正元年創刊
刻々湧出 天變人事
何人も坐して古今東西の天變人事を見、一目に通曉し、仁義禮節の智識を直覺し、美術の新知識を涵養し、化學と大動亂を活動的に眺め、到る處の風景風俗を大觀す、今を見、昔を見る、赤子孫を益するに如す、天下の事は學べ、後代の天下を利する。

歷史寫眞

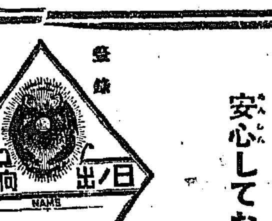
家庭の教育の資と成り、毎月數葉は止に絢爛たる美の極、口繪には種々のもの特待優待券、會員が常にあるかもの分、千圓日本各地廿錢にて送呈す
見本
會費 内地一箇月七十五錢 半年前金、海外諸國は州錢、… 共他外國は
支部代理部 有利何人も可照會二錢

何號廣重畫東海道五十三次並名所
錦畫の口繪は珍無類
各地男女募集、珍奇寫眞大募集、本月入會特に假表紙進呈

東京府淀橋 株式會社 歷史寫眞會
東光 電話番五八四、振替東京七三二四
百聞不如一見
世界大戰シベリヤ出兵の從軍寫眞滿載

自轉車タイヤの數は星の數ほどありと雖も
如何なる道路も確かに安んじて使用し得べきタイヤは
ダンロップ
を措いて他に幾何かある
苟もタイヤを經濟的に使用せんとする人々は須らくダンロップを用ふべきなり……
到る處の自轉車店にあり
ダンロップ自動車タイヤは各自動車店にあり

酸素療器
▽オキシヘーラー▽實驗例說明書贈呈△
▽オキシヘーラーの顯著なる事使用後五分間を出でずして三乃至五BBの血壓を亢め一時間を經續すれば實に十乃至三十BBの活力を增進す試に血壓計、脈動計等を以て驗さば先輩師の狀を明にし又各自は脈搏、呼吸の整調に依て自覺せらる
▽靈妙なる酸素應用の本器は決して動物中の酸素吸引力を增大し健康の元素を補ふが故に難治の疾病を根治するに奇蹟の偉力を有す論より證據使用者は忽ち脈搏强實となり全身の温暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎭痛、食慾の亢進、通便の快通等生理的本能を回復するの捷速なるは實に天下の奇蹟也
▽特色（使用法簡易效力永久不滅にして電池の如く消耗する物にあらざれば器械購入以外永遠に何等の費用を要せず）
圖正價金參拾五圓圖
東京市牛込區筑土八幡町三十一番地
オキシヘーラー獎勵會
電話番町長谷川三〇七・四六八九番 振替東京二七一二番



パイン萬年筆
商品を吹聽するにこの途まで誇張を要せずかパイン萬年筆は一顧の價値を要せず萬年筆としての備ふべき一切の效能と特徵とを遺憾なく發揮して品物夫自身か自ら其眞價を語るべし
萬年筆使用の快味を知らむとせば先づパイン萬年筆あることを御記憶遊ばさるべし
最新式 銀ぬき 質實 學生用
六圓八十錢 四圓九十錢 三圓八十錢 二圓八十錢
ビジネス事務用ペン一圓九十五錢
發賣元 京城太平通一丁目 京城日報代理部 振替京城三〇〇番

日ノ出向鳥印學生帽子
賣價改正謹告
（十一月十二日より改正）
平素多大の御信用を蒙り居候日ノ出向鳥印學生帽子諸材料及び製造費引續き騰貴致居候處今日迄其苦痛を忍び販賣罷在候も尚益々暴騰の爲め已むを得ず左記の通り賣價改正致候間事情御諒承不相變御愛顧を賜り度此段謹告仕候
安心してお買求めの出來る學生帽
日ノ出向鳥印學生帽子
登錄商標 日ノ出向鳥印 NAME THE DURABLE SPECIAL FINISH
◎全國均一販賣値段
A號 壹個 金壹圓六拾五錢
B號 壹個 金壹圓貳拾錢
C號 壹個 金九拾五錢
但し 滿洲、朝鮮、支那其他關東州一帶に限り A號壹圓八拾錢 B號壹圓拾錢 C號壹圓拾錢
發賣元 東京長崎町 吉安商店

◎聯合國首腦參集 アルサス、ローレン問題調査

英國首相バルフォア氏、伊國首相オルランド氏、同外相ソンニノ氏、米國ハウス大佐其他聯合國首腦者は來春早々ヴェルサイユに開かる可き講和會議前に種々の問題協議の爲巴里に參集せり近く來著の筈なるウイルソン大統領は交戰國元首として直接會合に參加し得ざるものなりと傳へらる尚講和會議前の調査を要す可き問題中にはアルサス、ローレンの新國境は千八百六十年千八百十四年及び千七百九十年に於ける境界線の孰れかを選ぶの件あり(巴里電報)

◎米對獨政府通告

國務卿ランシング氏は獨逸政府に向ひ今後聯合國に對する一切の照會は各聯合國政府に對し直接之を爲し單に合衆國のみに爲さゞる樣通知せり(紐育電報)

◎米國實業家悲觀

米國戰時産業局長は戰後の整理時代に關しては樂觀説を持し一時的にもせよ産業の休止、中斷等の事無かる可しと言明し居るも實業家は一般に氏と説を異にし整理時代中に不景氣混亂襲來せんとて悲觀説を稱へつゝあり(紐育電報)

◎ア、ロ地域占領開始

アルサス、ローレンの撤退地域占領は十三日より開始せられたり(巴里電報)

◎在獨過激派勢力墜つ

獨逸に於る過激派の運動は漸次勢力を失墜し來り獨立社會黨首領リープクネヒトは堅實に漸く之を援助する者尠みたり(紐育電報)

◎瑞西同盟罷業進行

瑞西に於て同盟罷業進行中にて罷業側實行委員は普通選擧、軍隊の組成改造、國債償還の富者の負擔とする事等を宣言せり(倫敦電報)

◎墺社會黨首領逝去

墺國社會黨首領アドラー氏は逝去せり(倫敦電報)

◎英國總選擧決定

英國に於ける總選擧は十二月十四日と決定せり(倫敦電報)

◎全露政府に反對

社會革命黨は全露政府に反對しつゝあり(浦潮電報)

◎和平會議開催地

支那南北和平會議は南京に開催されん(北京電報)

◎米國對支放資

米國が千九百三年支那より川漢鐵道の敷設權を得たる以來は一定の國是を定めて着々支那に放資の計畫を遂行し千九百十一年には五億弗の幣制借款米英佛獨との間に調印せられたるも日露の借款財團加入となり米國の對支政策に一大打擊を與へたり其後千九百十三年米國の借款團脱退となり米國は支那の放資事業に對し全然單獨の行動を取るに至り段内閣の下に千九百十六年九月一、株欽鐵道借款全額一億弗前後並一千萬弗(鐵道線路一千百哩敷設權獲得)の契約を成立せり其後千九百十七年國際企業會社は米國赤十字社に代りて二、江蘇省運河浚渫借款金額三百萬弗の假契約をなせるが未だ正式の本契約調印を見ず又千九百十六年には三、山東省運河浚渫借款金額二百五十萬弗の假契約を締結せるも此の分も本契約を締結するに至らず米國の支那に於ける鐵道運河借款に對する活動の概要は以上の如きものなるも此の外米國の投資會社にして支那に於て活動せるものは米國々際企業會社の外一、花旗銀行二、アンダーソン、メーヤー商行(慎昌洋行)三、シームスカレー等ありて之等のものは米國に於ける企業界金融界の大勢力にして國内に將た海外に確乎たる活動の基礎を有するものなれば其の放資事業の雄大堅實なる實に驚くべきものありと(東京)

◎米國戰後計畫

▲復員準備 米國政府は休戰と共に陸軍に入る可き一般徴兵登錄者に對し召集免除の手續きを爲せり努力缺乏の折柄國内に於ても之を歡迎し居れり尚ほ戰地に在るものを速かに歸還せしめ國内に在るものと共に臨時解散して勞力の缺乏を補ふの急務なるを唱道するの聲各方面に高まりつゝあり

▲海軍擴張 六億弗の第二次海軍擴張案十二日下院に提出せられ同日海軍卿は海軍々人會に臨み歐洲戰爭終了するも海上軍備の必要に顧み米國政府は既定海軍計畫を維持す可きは勿論更に第二次擴張あることを論述せり

▲增稅計畫 十二日大藏卿は戰後財政計畫の綱要を發表し米國は今後暫くの間經常歳出に十億弗の外戰時公債元利償還費等を併せて毎年約四十三億弗を要するに就き增稅を免れざる可きことを言明せり尚ほ諸般の報道を綜合するに上下兩院に附議せられ居る八十億弗の大增稅案は著しく削減を見ることなかる可く又明年始め募集せらるゝこと、なり居る第五回自由公債は勝利公債又は其他の名稱にて豫定通り募集せらるゝことゝなる可しと

◎朝鮮産業利源現況(下)

維新當時内地の蠶絲は既に輸出品中に加へられ居たるが當時内地の發達状態は實に微々たるものにて其の頃世界第一の蠶業國たる地位を贏ち得るものとは誰しも思ひ及ばざりしならん然るに官民の努力空しからず能く

▲今日の隆盛 を見るに至れり而も之れが輸出たる巨額の富を日本に增加せり大正五年に於て絹の價格二億五千六百萬圓生絲其他に於て千七百萬圓合計二億七千三百萬圓を得たりと稱せられたるもの同年度に於ては三億七百萬圓を超ゆ總輸出額に對し二割七歩強を占むる以て蠶業の内地産業中の位置を察すべき也朝鮮の蠶業が果して内地の轍を踏んで斯の如き大産業たり得べきや否やは容易に逆睹し難しと雖も朝鮮が内地の先例を追ふて特種産業たり得べき可能性を有すとは爭ふべからず而して之を實現し得ると否とは偏に努力に俟たざるべからず。

▲官民の一致 努力に於ても亦然り朝鮮に於ける特殊産物たるべき未來ありとなすべし。尚蠶業に於て朝鮮の主要産物たる麻織物の復興に多大の盡力を爲しつゝある郡の誠に尠からざるを知る麻は棉毛に亞ぐ最も重要なる衣服材料たると共に各種網條の原料にして彼の白耳義の如き麻工業を以て世界市場に雄飛しつゝある程なり朝鮮を以て白耳義と拮抗せよとは言はず朝鮮の麻が純良ならずして且其の製法幼稚なる現状に於ては未だ其の批評を加ふべき時代に非ざるも朝鮮が到る所

▲麻の栽培に適 せるは既に事實の證明せる所なり將來朝鮮人の衣服材料の自給自足の希望を達したる後に於ては貿易品として次第に頭角を擡け來る時節到來すると疑はず今日既に若干内地企業家の着目する所となり他日必ず有數の工業として朝鮮産業に重きを爲す日あるを信ず煙草は最近世界動亂の好影響を受け土耳古葉代用品として輸出を見る有様なり本年の如きは特に外人の注意を惹き將來益々有望なるが如く朝鮮は東亞に於る煙草産地として重きを爲す蓋し難きに非ざるを思はしむ

▲砂糖業は未 だ著手せられざるが故に今日を以て其の將來を卜するを得ずとするも以上列記する種々の産業の如きは敢て火力水力等の動力を要するものに非ず其等を發達せしむる上に於て朝鮮に水力及び石炭の缺乏せるを憂ふるに足らず

◎鮮鐵荷動概況 發送廿一萬噸

朝鮮線内に於ける客月中の荷動概況を聞くに、發送噸數は二十一萬四千八百五十四噸收入七十四萬五千三百一圓にして之を前年同月に比較する時は數量二千百卅一噸(一分)收入に於て十九萬六千六百六十四圓(二割六分四厘)を增加せり今其出荷の主なるものを擧ぐれば石炭三萬一千六十七噸米二萬八千百八十二噸木材一萬四千[illegible]噸[illegible]等にして尚之を前年同期に比し增加の著しきものを示せば米の一萬三千四百九十五噸並に石炭四千六百八十噸木材五千七十七噸[illegible]の減及粕豆三千三百八十四噸增石材三千三百二十二噸增軍需品三千十一噸增大豆二千九百三十八噸[illegible]等なり而して主要貨物の出荷狀況を概記すれば左の如し

▲石炭 季節の關係上一般の需要增加し撫順炭の如きは輸入旺盛を極め出荷數量一萬五千四百九十二噸に達し前年同月に比し二千五百二十七噸を增加せり[illegible]平壤炭は[illegible]行性感冒流行の爲め人夫の供給不足より出荷稀に不振狀態にあり八千四百八十七噸に過ぎず前年度の一萬七千二百四十八噸に比し[illegible]の減少を示し[illegible]

▲米 前月中内地市場に於ける米價は[illegible]本年度收穫豫想[illegible]の發表さに依り稍軟化したりと雖も下旬に於ける風水害に打續き秋霜に依り品質低下の懸念ある爲[illegible]

▲鹽 前月中停へられたる本年度天日鹽の作況[illegible]頭氣配を示せり一面之が荷動状況を見るに前月特別輸送の影響により[illegible]仁川發再製鹽第一位にありて四千七噸に達し鎭南浦其次位にありて二千五百三十三噸を算せり

◎間島輸出力減退原因

粟豆の輸出正に盛なるべきに車輛の不足のため現品は龍井市場に滯留し許りにて之れを吐出するに難く輸出商の困憊其極にあるは既報の如し右に就き車輛拂底の原因は未だ戰雲の餘尾を脱せざるがために近く農閑に入ると共に車輛の供給に復し豫定の輸送を遂行すること難からずとせられ輸出商は一に之れに望みを囑しつゝありしに車輛拂底の大原因は全く他に存し彼猛勢なる世界的悪性感冒は今や間島を風靡して無數の罹病者を出し車輛の供給は是が原因となりて可能ならしめずこの眞相は輸出業者を失望せしめ徐々恐慌の狀を呈し來れり爰に於てか運賃の調節を以て任ずる龍井の輸送組合は善後策を講じ一部運賃の制限を撤廢し市場の滯貨を一掃せしめんとする手段に出づべしとあるが其後輸送組合にては貨物輸送運賃一石に付き四圓に値上したるも制限の一部を破るに於ては運賃は上にも騰すべく最高七圓といふ空前の暴騰を現出せんとも限らざるより輸出商は鳩首善後策講究中なり(間島)

◎鮮銀と下關

朝鮮銀行下關に支店新設の準備進行中なるは既報の如きが同支店開設に關する各種調査のため營業局營業課長井上正愛氏は二十一日午前八時四十分南大門驛發列車にて同地に向ふべしと

◎貿易會社認可

京城水下町金用基外八名の申請に係る共同貿易株式會社新設の件は十五日認可せらる

◎[illegible]計劃改正

遞鐵局にては大邱に於て共進會開催中特に列車の增發を爲し居たるも同共進會終了後は削減改正すべし

◎濱田副議長歸東

濱田衆議院副議長は十六日統營に赴き十八日再び馬山に來り同日午後二時發列車にて歸東の途に就きたり(馬山電報)

◎石塚總裁消息

奉天より大連に南下せる石塚東拓總裁は廿二日大連を出帆して靑島に赴き同地を經て歸東すべしと

◎客年魚市場成績

大正七年中に於ける魚市場成績を調査するに三十ヶ所總賣揚高數量六百五十九萬九千五十一貫十萬三千八百五十二本、價格一百九十七萬八千八百十六圓にて之が消費輸移出高は朝鮮內消費數量五百十一萬七千七百三十七貫、三萬三千八百十二本價格一百二十六萬三千六百七十四圓移出高百四十萬五千四百六十五貫六十六萬三千四百六十七圓輸出高七萬六千五十二貫五萬一千六百七十九圓なりとす而して總賣揚高に於て客年と比較せば數量に於て一割三分價格二割八分の增加を示せり蓋し價格の昂騰は諸物價騰貴に作ふ自然の結果なりとせり

人事消息

▲國分司法部長官 十九日午前六時十分發安東縣に赴く(奉天へ)

▲[illegible]

▲仁居計議氏[illegible]

▲水越理弼氏(釜山商業會議所) 十九日夜入京旦城館へ

▲森勝治氏(釜山商業家) 同上天眞樓へ

▲濱田泉次郎氏(鈴木商店員) 十九日來京

▲佐伯政之助氏(大倉組京城) 同上

◎獨逸の革命 如何に展開する

▲目下の大問題 は獨逸の革命が如何なる程度迄行くかこ云ふ事である。皇帝は獨逸國を逃げ、海軍に始まつた革命は各都市に擴がり、獨逸聯邦内の諸國は何れも共和國に變化せんとしてゐる獨逸國内の人民は饑餓に瀕し、各工場には同盟罷業が起つた。獨逸は露國の如く無政府の狀態に陷るか、或は獨逸人は露國人に比較して教育が進歩してゐるから、露國の如き混亂狀態迄は行かずして濟むか、之は今次の大戰にも劣らぬ獨逸國民に對する試鍊である。

▲獨逸の革命が 露國の過激派的色彩を帶びてゐる事は爭はれぬ、獨逸到る處に勞兵會の設立されたるが其證據である、蓋し露國の過激派は隱密に運動してゐた結果であらう、露國の過激派は獨逸こ米國を以て世界の二大帝國主義者こした、獨逸は軍人の帝國主義、米國は金持の帝國主義であつて、此二國を破壞する事が彼等の目的であつた、若し今回の獨逸の革命が露國過激派の活動の結果こすれば獨逸は到底無政府狀態迄行かねば濟まぬものである、それは今日の露國の狀態を見れば分る、レニンは過激派の頭目である、然し露國今日の狀態はレニンの豫想以上であつた、レニンは過激派の餘りに亂暴なるに恐れをなして之を抑壓せんとした過激派はレニンに滿足せずしてレニン以上の亂暴者を持て來て權力を振はしてゐる

▲紐育タイムス はレニンを以て佛蘭西革命當時のロベスピールに比較してゐる、レニンもロベスピールも學者であつた。共に暗殺を以て革命の武器にした、然し暗殺の爲めに暗殺を喜ぶ人ではない、ロベスピールは其部下の亂暴を抑壓せんとして却て其部下に殺された。レニンの部下にはレニン以上のものが居る、其一人はピーターズこいふ男である、彼は永く英國に居住してゐた爲めに英國語を巧に話せぬ程である、彼は過激派政府の大臣であつて、毎日死刑宣告書に署名してゐる、然るに彼は死刑に處せらるゝ人の名を讀まずに署名する、或女が自分の夫が行方不明になつた爲めに此男に聞くこ『間違つて死刑に處した』こ云つて平氣で居る。

▲露都の反革命 抗委對員長にシャトフこ云ふ男がある、長く紐育にゐて、世界工手組合こいふ破壞團の會員であつた、此の破壞團の人々が米國で拘留せられた時、彼は擁護演說をして雄辯家の名を擧げた、露國前帝の妻子を暗殺したは此男であると傳へられてゐる、米國人は米國に居る革命家こ稱する連中は皆んな斯の如き人物であるかこ思つて今更ながら戰慄をふるつてゐる。レニンは紳士的社會主義を以て溫和過ぎるこ思つて過激派主義を宣傳した、處が今日の露國の革命派は過激派主義を以て溫和過ぎるこして只虐殺暴行に耽溺してゐる。ロベスピールの部下がロベスピールを以て溫和過ぎるこして之を暗殺したこ同じである

▲革命の辿る途 は今も昔も同じである。獨逸は露國の行つた途を行くか、或は獨逸人の教育が獨逸の秩序を維持するか之が今日最も興味ある問題である。

◎鳥瞰錄

戰後稅案が目下の議會にも提出されるこの說があるが何の樣なものか無論蓋を開けねば判らぬ▲併し英國は最う故人佛國でも之には何分かの先例がある▲何分も奢侈こ云ふものの必要の限界が初まりの境界は明瞭なものでない▲元來床板を張るのも贅澤だつたに違ひない時代の人間は無論十錢の疊でも贅澤の現代では不思議に思ふ▲茶の湯は贅澤だこ云ふ事にもなる▲實地の經驗家の所有するピアノは『贅澤品』だが普通人の家に据ゑて習くピアノは『必要品』だ▲日常足袋なども『必要品』の一つだが英國の一女優は誂への足袋を着けて居たので贅澤課稅に依て當然課稅されねばならぬと云はれて居る▲下女下男の使用にも課稅するか之れは贅澤だ▲米國では貴金屬玉類は購入の際五割の稅金を徴せらるゝ事になつて居り下女下男の使用は其給金額の五割を課稅する事になつたと云ふ▲日本で奢侈稅が何う云ふ調査で賦課せらるるかは面白い研究問題だ斯う云ふ事は蓋し勝手でやつては失敗の基である▲恐らく大分反對者もあらうがドシドシやつたら宜敷貧富懸隔の距離をなるべく短縮させるの一方法ともならう

◎戰後の覺悟

▲開戰以來 茲に五年獨逸[illegible]のは如何に戰後が激烈であり且我國に及ほす打擊的影響が深刻なるべきかの一事である[illegible]を唱へて何等之れに備ふるの方策をすら講ぜんとするものの尠きは吾等の衷心諒解に苦しむ處である[illegible]こ云ふは察しても容易に

▲這般の消息 を窺ひ得るこ信ずる勿論之は戰後當然來る[illegible]から所謂既往は追ふべからずで最早此の機に臨んで徒らに過去の失策を非難することは餘りに[illegible]非常なる好景氣裡に極めて得意なる生活を繼續し來つた多數の吾國[illegible]者階級が退嬰反動時代の襲來に[illegible]うこ同時に我國の如き亦此の

▲羈絆を脱出 し得ざる[illegible]八九は悉く入るるに任せてじたものであるこ推定するのが至當である。若し幸ひにも彼等にして[illegible]ない譯である、去りながら不幸にして今日までに於ける幾多貿易の數ふる所に依れば一こし[illegible]斯かるくこ之が爲めに外ならぬので、固より彼等に疎なる論議を試みて快とするものではない。要するに戰[illegible]

日本勸業銀行構內 債券相場 勸業債券月報社

十一月十三日迄▲印十二月くじ參加御申越次第進呈 御註文は定規書御申越次第進呈

大發行價	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	を
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

◎御買入送料十二錢多額御買入は割引 ◎相談債券並時報號外三錢販定價十錢 月報一年號外共一年廿四錢

福岡市博多下呉服町 電話一九五〇番 振替福岡一五四五番 福岡支店 東京市麴町區内山下町 振替東京十八番 本店

商業登記

株式會社漢城銀行ハ大正七年十一月十一日京畿道開城郡松都面南本町百八十一番地ノ支店ヲ左ノ處ニ移轉シタリ 京畿道開城郡松都面南本町百八十一番地 株式會社漢城銀行開城支店支配人ノ氏名徐光世ハ大正七年十一月十一日移轉ニ因リ支配人ヲ置キタル場所ヲ左ノ如ク變更ス 京畿道開城郡松都面南本町百八番地 右大正七年十一月十六日登記 京城地方法院開城支廳

公示催告期日變更決定

支那長春新市街東第七區拾八號地 申立人 脇安太郎 右事件ノ公示催告期日ヲ大正八年四月拾壹日午前九時ニ變更ス 大正七年拾壹月拾六日 京城地方法院

公示催告期日變更決定

京城府本町貳丁目五拾八番地 申立人 藤次郎 右事件ノ公示催告期日ヲ大正八年五月九日午前九時ニ變更ス 大正七年拾壹月拾六日 京城地方法院

公示催告期日變更決定

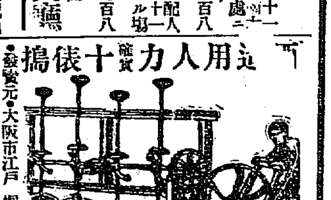
京城府太平町貳丁目拾八番地 申立人 伊藤源七 右事件ノ公示催告期日ヲ大正八年五月拾五日午前九時ニ變更ス 大正七年拾壹月拾六日 京城地方法院

購買 朝鮮總督府遞信局

競爭入札 一、[illegible]及紙類 一、[illegible] 詳細ハ十一月二十日ノ本府官報ニ依リ

◎新債券 第七回 [illegible]千圓 十一月二十日より 即賣 [illegible]

搗十俵入力用 確實 發賣元 大阪市江戸堀 福井商會 說明書進呈



紋附地 黑羽二重 百三十匁付 金參拾圓位 金砂縮緬 金四拾圓位 色縮緬 金貳拾五圓位 ▲各品多數持合セ居リ候間此際御用命被下候ヘバ高値ナラズ ニ御座候 こまや 本町 植西吳服店 電話四二八番

冷 御 發 賣 大阪府堺市 醸造元 肥塚源次郎

京城本町一丁目 特約販賣店 佐藤牧次郎 電話二九番

模範 牛乳 李王職御用 京城蓬萊町四丁目 東亞牧場 電話

ニウソ 石鹸 洗粉 太正場

京日案內 番外 ▲申込中後途掲載中止の節は料金不返戻 ▲六回以上の御申込は特に割引のこと ▲前期附は返信附にあらざれば回答せず 一回前金一回[illegible]

店員入用 十五六歳より廿歳まで市內來談あれ 京城本町四 精米業 佐野屋 電話一四九二

◎店員入用 希望者は至急來談あれ 但市內確實なる保證人を要す 永樂町二丁目 大正足袋本店

獵犬牝 ポインター種 二歳 白に茶の斑點 尾しあり 身長二尺五寸 高一尺五寸 大名ミル 御連來の方 京城 瀧川銃砲店

◎茶舖譲る 本町通目拔の場所 御希望の方は 本町二丁目 ウラシマヤまで

募集 看護婦見習數名募集す希望の者は本人來談 京城 久枝肛門病院

店員慰勞の爲め 明廿一日臨時休業仕候

京城 ◇三越吳服店

男女 簿記係養成 紹介 ◎寄宿舍 ◎自宅獨習部 ▲男女生徒募集 ▼卒業後就職責任紹介 ◎本科四ヶ月卒業 ◎大阪天神橋筋西二丁目六一九 簿記會計學館 ◎銀行會社商工業團體其他[illegible]

お正月御紋服特價賣出し

京染黑羽二重 紳士用御羽織地 又は御着物地

何れも弊店特設染工場に於て黑本襟椰子染定紋別染の上左記特別値段にて御注文に應じ申候

別染男物御紋服特別値段

第一號 金卅四圓五拾錢

第二號 金參拾圓

第三號 金廿七圓五拾錢

右値段は御羽織御着物いづれも一反染上げの値段に御座候 御定紋は三ッ紋にても五ッ紋にても同樣に御座候

一羽織か着物かの區別明らかに願上候

一御定紋の紋本、紋數(三ッ紋、五ッ紋)紋の大きさ御知らせ被下度候

一御寸法は身丈と裄丈と御仕立揚なれば明細御願申上候

一代金は御注文の節半額以上御入金願上候

振替貯金口座 大阪四四番

御拂込尤も便利に御座候

出來の上殘額は代金引替便にて御届け申上べく候

別に御紋付御注文の栞

御婦人用の御紋付御注文の爲に生地見本添付の御紋服御注文の栞御座候に付御一報次第御送附申上べく候

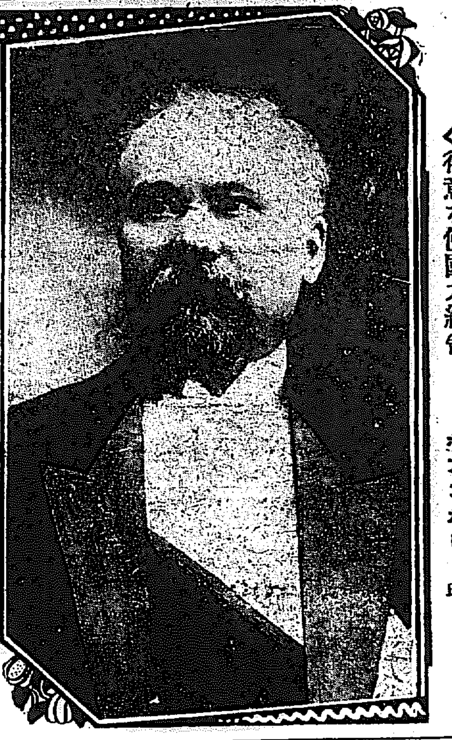
御注文期限 十一月三十日限り右期限迄に御注文奉願上候

御届け期日 前記御注文期限內に御用命相願申候は十二月廿三日迄に發送申上べく候

▲御注文之際御注意 一御注文番號と代價貴名 御住所は詳細御明示願上候

京都烏丸松原 たかしまや 飯田呉服店 地方係 東京 大阪 神戸

……いで來るべきは獨逸の悲劇的講和……であるが此際吾等日本國民として……設も楽観の注意を拂はねばならぬ……來に至つては今より之を豫知するに難からざるものがある。然るに世間往々にして根據なき楽観論……で傾みに各方面に於ける各種事業の一大挫折を來さんとしつゝあるの頭々相踵ぐと云ふ有樣である……天たりし結果……に徹調なりしことを立証するのであることを言へる譯である。然しな……に戰時中所謂大小成金連に次いで……身の幸福であるのみならず又實に國家共同の幸福之れに過ぎざるは……


◇得意な佛國大統領　ポアンカレー氏

○平和會議の人氣役者
ポアンカレー大統領
卅三歳で臺閣に列し副總理となる
◇開戰當初から國民を鼓舞鞭撻した人

今や歐洲の天地に一發の砲聲なく獨逸を俎上に載せて列國は和會は燦たる巴里ベルサイユ宮殿に於て開かるべしと噂されてゐる、此の大詔の檜舞臺に立つて最も得意なるべきは佛蘭西大統領ポアンカレー氏其人である。氏は開戰當初に於て既に今次の戰爭に對し重大なる責任を有する人である當時

◎獨逸の横暴に對して最も強硬に而して最も熱心に佛蘭西國民を鼓舞鞭撻したのは氏であつた。此度休戰條約の締結さるゝを見て彼ポアンカレー氏の感慨や如何して何んなであらう。陸軍學校長アルベル、ハンリー氏は記者の訪問に對し欣々然として語る『實にお目出度い事です、大統領閣下も定めし喜んで居られる事でせう』、氏は一八六〇年八月二日バールドクに生れた人で文學士、法學博士の學位を有し現に巴里市に辯護士を開業してゐる、佛蘭西學士會員であつて又

◎一方有名なボルテール新聞に筆を執つた事もあり頗る多才の人である、廿七歳の時ミューズ縣より選出されて代議士となつたが一八八六年より同七年までドヴェル内閣の農務大臣として副總理を勸めたり、ジュピューイ内閣の時には令名があつたが當時僅に三十三歳であつた。更に翌年は大藏大臣となり、次いでリボー内閣に入つて文部大臣の椅子を占めた四十三歳の時ミューズ縣より選出されて貴族院議員となり一九〇六年のサリヤン内閣にも入つて藏相に列した、後四個年間政權に遠ざかつてゐたが遂にファリエール大統領が

◎印綬を帶たる時に内外多端の折であつたにも拘らず外務を兼攝して縦横の才腕を揮うた後一九一三年ファ氏辭退するや大統領に選ばれて今日に及んだのである。氏は寧ろ學者肌の人であつて兄は著名の數學者なるアンリー、ポアンカレー氏である（東京特電）

○閨秀洋畫家の旗揚げ
朱葉會成立す

豫て噂の高かつた閨秀洋畫家の團體朱葉會が成立し今回愈其の顔觸れは今年の書壇に入選の井上よし子を
▽筆頭に　津田青楓氏夫人敏子、小笠原伯夫人貞子、與謝野晶子、津輕伯夫人照子、鍋島文子、瀧澤繁子、有馬里枝、有島生馬氏夫人信子、尚侯夫人八百子、日高彩子、杉浦非水氏夫人翠子、小寺菊子其他で、其出品は總て岡田三郎助、安井曾太郎、有島生馬、滿谷國四郎氏等の鑑別を經へ陳列する其の初展覽會は愈大正八年の一月二十日から二十四日までの五日間三越呉服店で開かる・ことなつた。朱葉會といふ名は
▽與謝野　晶子女史が成るべく婦人らしい名を擇ばうとて遂に此に至つたのである、扨此の人々の師匠筋はといふと井上よし子が岡田三郎助氏、小笠原伯夫人や尚八百子夫人等は滿谷國四郎氏、與謝野晶子女史に藤島武二氏、津輕伯夫人は五味清吉氏、有島信子は良人生馬氏、杉浦翠子は非水氏である

○京城市民を驚かせたのは
隕石の墜落に相違無い
毎年十一月には流星が多い

十九日の午後八時稀有の流星があつた樣だが不幸にして仁川では遂に觀測が出來なかつた京城にあつたと云ふのは所謂隕石の落下したものであらうと想像が出來る此の隕石の墜落若くば流星と云ふが如きは屢々ある事で餘り珍らしい事でない例年此の
◆十月十一月　の候になると最も流星は多くなる樣である流星とは空間に散在するものだが地球に接近するに及んで空

火を發するのである、そして多くは空間で消ゆるのであるがその殘骸となつて地上に落下するものが即ち隕石である而して此の流星は群をなして一定の處に散在して居る十月十一月の頃最も多いと云ふのは地球が此の群星の
◆近くを通過　するから起る現象である、天文學上から云へば此頃に地球と接近する流星群を獅子座群星と云つて古來流星中で最も有名なものである前記の如く流星は十月十一月の頃に例年最も多いのであるが元來此の現象は週期的に發するものと云はれて居る即ち三十三年四分の一日毎に最も烈しい流星があるものとせられて居る今回現はれたのは
◆僅かに隕石　の墜落と想像し得るのであるが此の隕石にも多種多樣の種類がある即ち落下した隕石を以て劍を作つた等の例は幾らもあるからそれが完全なる鐵である事もある或は含鐵の石質である事もある朝鮮及び滿洲地方には未だ隕石を發見せられてないが若し此の隕石を蒐めて研究したならば空間現象の測定に少なからぬ參考になるものがあると思ふ總て米國領事から同地の物產に就て研究すべきものとして朝鮮滿洲に於る隕石を寄贈して呉と申込まれたが未だ之を發見しない（平山測候所長談）

○孔雀に櫻の三枚襲
方子女王御婚禮用御調度品
眼も絢なる結構な品々

李王世子殿下と梨本宮方子女王殿下との御結婚に於ける兩殿下の御裝束は既報の如く和、洋、鮮の三種を用ひさせらるゝこととなれるが其の中御服に就て洩れ承るに方子女王御式服の御袴は東京麹町中六番町高田御裝束師の調製に係り又御當日御着用の三枚襲の外三枚襲は紹縮緬、縮緬及紹等の衣紋綸子を始め御襦袢等は高島屋呉服店に御下命ありし趣きにて其品類は雙紋附三枚襲數點、襲り色御附二枚、襲數點、單衣御紋附數點、御振袖となし頗る入念の御選擇に依らせ給へるものなり以上の品は總て高島屋呉服店が京都の名立たる職工に命じて染色せしめたるものにして御模樣は白孔雀に櫻花を模羅に現はしたる三枚襲ね、鱗に赤水を優雅に配らひたる二枚襲ね撫子に流水を配したる絹御單衣等何れも優秀なる技巧に成りしもののみなり而して式日用の御帶は綴れ朱珍の丸帶數筋にして以上の外友仙縮緬御夜具二流（一流は四枚一組）綸子御夜具二流等を合し三十有餘點にして悉く御調製あらせられたる由承はる

○民主の傾向も可、更に
良き君主制ならば……
亦賛成である＝ケペル博士の述懐＝
獨逸老哲學者は故國の今日をどう思ふてゐるか
◇カイザーの退位には無關心である

〔伯林〕留　今國民の歡聲が他所に響く際……階上の一室にて單身胡坐した獨逸の老哲學者ケペル博士は果してどんな思念にあるのだらう……（折から訪問した記者に答へる）『大戰は私に取つては此上なく嬉しい……

☒今後の獨逸　はどうなるか國體上の事や政治の事は措いて精神的文化的方面に於ける民心の變遷には左迄の年月を要しまい思潮藝術も總ては新しい歩みを生ずるであらう此大戰終結の結果民主的傾向を升すとはあらう私はそれは反對ではない寧ろ國の如く之を大聲疾呼するとは餘り好ましくない何故ならばそれは夫は一般
☒獨逸の幸福　を主眼とするのでなくて裏には別の目的が潜むと思はれるからだ自分の立場では良き君主制ならば是亦賛成するに憚らぬ獨逸一國から言へば少くも南方は共和を歡迎することであらう巴威、ウルテンベルヒ等は從來も既に其傾向に向つて進み君主と民衆との關係は普魯西とは全然異つたのだから……偖て戰後世界の思想界には何か變つたカーレントが生れるかと云ふに外の國は知らず獨逸民族には目立つた變化は來すまい唯私の信じ且期くあれかしと希望することは
☒宗教的色彩　を増すに至るであらうと云ふことである獨帝の崩壊をどう思ふか私はホーヘンツォルレルン家に對しては元來何の反感も懷かず殊にフレデリック大帝ウヰルヘルム大選擧公の卓犖崇高なる人格と其偉業とは萬古忘るべからざるものだと思ふ獨帝として固より秀拔なる人格者には違ひないが彼れが帝位に在ると在らざるとは自分には全く無關心に濟まされる併し獨帝自身が大戰の發頭人なりや否やは今後有らゆる材料に依つて研究し初めて判ると信ぜられる獨逸は今
☒革命期に入　つて居るがスラヴ族の野獸性を有たず凡て教育が普遍的に行き亘つて居る關係上露國の如き末路は決して見ない。（横濱特電）

○成績の好い藥草栽培
中央試驗所の試作結果

今年から中央試驗所で藥草の栽培を始めたことは既報の通りであるが最近同所について聞くところによれば今秋播種の分は既に全部收穫を終り目下は秋蒔きのものについて充分越冬し得るか何うかを試驗中である今春播種したものは、鮮國在來の藥草を始め内地種、外國種を合せて約廿四、五種にも達したが栽培の結果は非常に良好で殊にヤマヂソ、アリタサウ、カンザウなどは成績が好く中でも取分け成績の好かつたのはカンザウであるが是は地味の肥痩を問はず如何なる荒蕪地にでも立派に生育するらしいと云ふ事である

○惡性感冒
空氣傳染はしない
唾液沫から……
患者に近く對談すな!!

流行性感冒は聊か下火となつた樣だが、まだ
▽終熄する　迄に至らず傳染は依然盛んである、この感冒に就いてドクトル波多野三郎氏は語る『今度の風邪が斯うも擴がつた原因はインフルエンザの病菌の傳染性頗る烈しいのに比して一般の人が輕く見て居たからである。この感冒は決して空氣に依つて
▽傳播され　るのではなく千八百九十年に獨逸の醫師パイフアー氏が發見した一種の病原菌が患者の咳や談話する時唾液の沫が飛んで健康者の口や鼻に入り、其喉の弱い所を犯して體内に侵入するのである、これを防ぐには成るべく患者に
▽接近して　對話しないのが肝要である、併し一旦これに罹られた時は第一に安靜して頭部の氷冷法が必要である、此の病氣は始めは頭部等の比較的淺い部にあるが、段々深い所へ侵入して行くのであるから、犯されたならば直ちに完全に治療して了ふ事が必要である。』（東京）

○母子二名を殺害す
鎭南浦の慘事

鎭南浦上町三四郎方に同人が不在中の十八日夜強盜押し入り妻しづ子及び長女（二）を鋭利なる刃物を以て殺害した上逃走せり目下犯人搜査中なり該兇行事件は十八日午後九時より十九日午前九時迄の間に行はれたるもの・如く被害者の夫は漁夫にて十七日黄海道猪島に赴きたる不在中の出來事にて警察の鑑定に依れば兇器は小さきナイフを用ひたるもの・如く被害者の家は三軒長屋の最も奥の家にて前の二軒は空家なりし爲め附近には悲鳴も聞へず十九日朝に至り發見せられたるものなるが犯人は表より入りたるらしく兇行の原因及び犯人に關しては未だ何等の手懸りを得ず（平壤電話）

☞義理に絡んで

蓬萊町一丁目四十四番地[illegible]本籍俵三郎（二八）は本月二日[illegible]より歸京の途に著くべく[illegible]途方に暮居るにより馴々しく話し寄り朝鮮の事情を誇大に云ひ聞かせて旅費を與へて四日南大門に到着し自宅に伴ひ行き義理に絡んで内縁の妻として居たが十六日に至り郷里からすきよの實父富七が訪ね來り娘の身體受取の相談を持ち出したが俵三郎は立替たる旅費の返濟を迫り該金返濟の不履行を口實としてすきよの身體を渡さないので富七は俵三郎が娘を誘拐せしものとして蓬萊町警官派出所に其旨訴へ出で派出所にては俵三郎及び富七に對して懇々説諭し結局すきよは實父に伴なはれて十七日郷里に歸還したさうである

○技藝校學藝會

京城女子技藝學校にては二十二日午前九時より秋期學藝會を開催する由なるが同校特色の運針競爭、編物競爭の如き手藝は一般に歡迎せらるべく尚ほ午後一時よりは一般參觀者のため特に本社能山派光に婦人講演を依頼し來りたり

○騰るもの……
＝硝子と材木＝

講和來の影響で騰るものに硝子と材木がある硝子類は厚板物が米國から來る樣になつたら幾分下落するかも知れぬが内地の薄板物は目下尼ケ崎の旭硝子の獨占の上此方は既に
◎平和後　の需要で最近佛國から莫大な註文が有つたとかで價段は却つて騰る見込これから材木で之れは材料高で中止して居た諸建築が復活する見込から、某材木居主は語る『戰後の材木の需要は非常に増加する見込で既に覺悟して居る尚木材會社では今後の
◇好景氣　を見越して今月下旬から輸出を停止し明春から相騰して賣り出す事にした程です』とのことである

▽化粧品の品質がよくなる

化粧品類は原料が安くならないとも附屬品の瓶だとか紙だとか箱だとかが安くなるから値段も下押す事、調合である、殊に輸入材料の關係で作用品で間に合はしたものが止んで内容が著しく精選されて來よう

☞九州撲興行

九州相撲[illegible]一行は十九日より向ふ三日間[illegible]にて興行[illegible]

讀者文藝

▲下句付（[illegible]）
◎腕が鳴る叩いてにらむ新大井（一等）　平壤　芳月
▲など丶天狗の鼻が延び　龍山　多喜郎
▲明日は天下の一戰　元山　浜思
▲言ひつゝ身體震はせる　京城　春鳴
▲朝鮮の統語聞くたびに　京城　羽雪
▲[illegible]　京城　美人草
▲後顧の憂ひ[illegible]　仁川　鶯平

◇給仕入用
希望者は本人直接來談あれ但市内に確實なる保證人を要す
京城日報社編輯局

感冒猖獗
▽其災を免れよ
流行性感冒が今年秋ほど猛烈な勢を以て各地に流行したのも稀有で、近い中なら新聞紙に初號標題で取扱はれたのも今度が始めてと云つて宜からう、然も今度の感冒は感染が早く、發熱が高く、咽喉を犯し
◇怖べき肺炎や心臟痲痺を起して死する者がある。言はん方なし今次の惡性感冒にはカギヤビリンが最も的應にして少しく其氣味を感じたる位の時之れを服用せば一包にて其罹災を免れ得べく既に罹りたるものと雖も種々の藥品を用ふるよりも迷ひなくカギヤビリンを服藥するを最も良とすカギヤビリンは藥品貿易商荒川長太郎會社の發賣藥にして何れの藥店にも販賣せり但し類似の藥品と誤らざる樣注意を要す

鼻が高くなる
隆鼻器無料貸與
鼻は人生の花で最も大切な物で[illegible]一生不幸の分れ道は眞に鼻の格好である青年男女の内で▲猪鼻▲わし鼻▲裏天鼻▲[illegible]等の惡しき人は特許式の隆鼻器を[illegible]

東京[illegible]器械製作所

ね小便と小便近き人へ
[illegible]

中風病全快御禮
救世院
東京市京橋區築地町
電話京橋三六九九
[illegible]

タオル印入
内外商會　富澤本店　仁川宮町（電話三六番）
卸商　京城本町一丁目　富澤支店

反千圓の收益もある
藥草栽培
◇庭の片隅からでも大金が儲かる
[illegible]

美味滋養
新調味料
味の素

ヘルメスウヰスキー
永年貯藏熟製せる
香氣と口當りよき斯界の逸品
特製丸瓶・角瓶・ポケット瓶の三種あり
大阪　祭原伊太郎

ヘルメスウヰスキー
名聲赫々たる
世界の名酒
（特製丸瓶）
ウヰスキー飲むなら
ヘルメスウヰスキーを

ひとり子 (二十八)

北島春石作 森田久畫

井戸端 (三)

『何有、その禮には及ばん。』と、直樹は輕々と打消して『今も植惣が言うた通り、情は人の爲ならぬぢや。』

『でも、渡る世間はみんな鬼ばかりですのに、叔父樣のやうに御親切にして下さいますと、眞心からお禮を申さずには居られません。』と、志保子は落涙をこごめ敢ず『妾何うしたらこの御恩がお返しいたせませう。』

『さあ、その禮には些と希望がある。』

『どんな事でございますか。妾でお役に立ちますならば、御遠慮なく仰有つていただきませう。』

『他でもない……この三年間の苦勞を空しくせぬやう、今度如何なる誘惑が襲ふとも排け、こゝ暫くは幸枝と共に艱難辛苦を忍び、やがて岸上家へ復縁された後は、妻もなく子供もない俺の死水を取つて貰ひたいぢや。』

『……はい。』

『なあに、その他には何の恩返しも要まんよ。岸上家へ縁付いてより既に十年たらず、夫婦の仲に愛しい娘さへあるに、罪なき妻に難癖つけて離別し、怪しい妖婦を引入れる不埒さは、今までに憤慨の拳を握緊めたゞ幾度か知れぬが、何分にもその當時は滿洲へ旅行中で、後から苦情も持込めぬで腕をさすつてしまうたが、あまりと云へば情ない雅巳の所業と、その後岸上へは滅多に足踏みもせなんだが、貴女の貞節さを聞いては、幸枝の父親が憎めなくなつた。で、貴女の身が落着いたらば、雅巳に逢うて篤と意見を加へ、一日も早う迷ひの夢を覺させた上、覆水再び盆に還るやうに計らはう。斯くなるも悲しき運命ぢやと諦め、もう暫く時節の來るのを待ちなさい。』

『はい、その御意見を有難くお受けいたします。』

『それを忘れてくれずば、俺も世話甲斐があると云ふものぢや。で實は隣家の植惣に借間を頼んで置いたところ、昨日のうちに手頃の家が見付かり、これから直と世帶道具を運び込むと云ふ。なあ、植惣、斯うなれば當分は安全ぢや。そこへ幸枝を連れて行きがけに顔を出し、あの夫婦によく禮を言ひなさい。』

『何から何までお世話になりまして……』と、志保子は涙に輝く眼を伏せて『良人には捨られ、親には愛を裏切られましたが、この世の情けには、未だ神も佛もございます。その證據には、叔父樣や植惣の御夫婦に救はれ、妾は死なずに濟みましたのです。』

『あつは……死は易けれど生は難しぢや。人世は七轉び八起きと云ふのみならず、空に冴ゆる月さへむら雲に光を蔽はる、例もあるが、それは一時の現象で、やがて雨晴れて雲散ずれば、元にも勝して皎々たる月光が仰がれるで。まあ〳〵さう悲觀したものでもない。』

直樹が猶も諄々として説き立る折から、俄に垣越しに聞こゆる植惣の大聲。

『エヘン!エヘン!近頃は鍍手古な風邪が流行りやがつて、咳ばかり出て始末に行かねいや。』と、わざとらしく續け樣に咳拂『へい、お前さんは高橋朔さんつて言ひなさるんですかい。何うも聞き覺えのねい名だと思つたら、お隣家においでなさるお髭の先生をお尋ねなすつたんで、わッ何だつて?そこで志保子さんと云ふ婦人を見かけねいかつて――さあ、朝晩にお早うとかお寒うございますなんて挨拶はするが、何うもそんな婦人を見かけアせんね。おい、おい、植惣の庭は抜け道ぢやねいんだから、森泉さんのお宅へ行きなさるんなら、この垣根について表て廻つたがい、ぜ。』

それを聞くや、直樹は屹として垣根の方を振返つて、

『早く幸枝を連れて裏道傳ひに……あとは俺が引受けたぞ。』と力こめた秘めき聲。

志保子は井戸端のバケツもその儘に、慌てゝ元の勝手口に驅込んだ。

◎蠶を 牛蒡で飼ふ

▽驚くべき獨逸の新發見

獨逸の工業通なる農商務省產業調査局辻高衛氏は新しき發見や野生植物利用の紡織業の發見に付語る『獨逸は開戰後輸入全く杜絶して物資の缺乏其極に達するに及び

◇官民協力 して資源儉約を旨とし廢物屑物をも利用の途を開いて一物も無駄にしないのみか從來何等の用途もなかつた野生の植物をも一々研究した。獨逸には各地に植物園が設けられてある上に伯林へは大なる植物博物館があつて植物學者が熱心に研究調査した結果此處で發表し各植物の纖維の利用方法や食糧に利用する方法等を一般に知らして居る其結果として綿や生絲の輸入が無くなると共に

◇棉其他の 材木の纖維を利用して紡績する事を發見し日本にも野や畦などにもある蕁麻の纖維を取つて木綿を製する事を發見し又沼池などによく在る泥炭から纖維を取つて絲を製し之れを織物に綿に使ひ之れに毛の屑を入れて羅紗を造る事をも發見した此外種々の方法に依つて最早木綿類は他から供給を受けずとも國內で製造し得ると豪語するに至つたそして生絲の輸入困難となつてからは從來桑の葉を使はずに養蠶することを研究しその結果

◇牛蒡の葉 で蠶を飼へば品質も好し稱さへ蒔けば何回でも葉が得られ一箇年に四回位も養蠶が出來る事を發見したので最近各地で大々的に養蠶を經營すると云つて居る。此外火藥の製造に石鹼の原料たるグリセリン等を澤山使用するので植物を以て石鹼の代用品を發明したり其他種々の新發明に努めてゐる

◎奉天通信

▽石塚總裁歡迎會 十七日正午を期し赤塚總領事以下官民有志多數は來奉中の石塚東拓總裁を金城館に招待し歡迎會を開催せるが午後四時盛會裡に散會せり

▽商銀の披露宴 本月一日を以て發表せる南滿銀行を合併し直ちに支店を開設したる滿洲商業銀行は十六日夜六時より金龍亭に於て奉天官民百六十餘名を招待し披露宴を開催せしが極めて盛會なりき

▽石塚總裁赴連 來奉中の石塚東拓總裁は十八日午前九時五十分發つ車にて大連に向ひたるが同地より更に青島方面視察の途に上るべき豫定なり

▽高山司令官 高山獨立守備隊司令官は十七日午前五時三十分著列車にて遼陽方面より來奉守備隊に對し臨時檢閲をなし二泊の上安奉線各守備隊檢閲の途に就く豫定なり

▽阪西少將 內地旅行中なりし阪西顧問少將は歸任の途次十七日午後六時半著列車にて安奉線にて來奉少憩の上京奉線にて北京に向け出發せり

▽藤平專務一行 滿洲商業銀行專務藤平泰一氏外同行重役式村茂杉原清一郎平尾鶴彥の諸氏は前記の通り同行支店開設披露の爲め十六日來奉せるが十七日午後十時發の奉線列車にて歸安の途に就けり

◎寫眞を撮る時 著物は?化粧は?

▲御婦人の寫眞に就て申せば先づ何よりも著物の色合ひに注意する必要があり寫眞にはります青い色は寫眞に明かるく白つぽく寫り薄樺色に紫や暗く黑味を帶びて寫ります特に寫眞を好く寫すには帶と著物と色を用ひる事が何よりです

▲次ぎにお化粧ですが寫眞には濃化粧より薄化粧が好く寫ります又全體から云つて上品に寫すには厚著に限ります

各種 菓子 日本 洋 御菓子卸商 衛生ボーロ、不老菓子 ウバ玉 キウリ 茶 及薯菓、京煎餠 京城黃州通一丁目六四 永鯛製菓所 主任 金鎭秀

◎柞蠶絲活況 輸送難緩和

經濟界の關係にて安東の市況は一般に閑散なるに拘らず柞蠶絲況は非常に活氣を呈し從來の安値より約十兩方上昇し目下の市況は一百七八十兩にして本月に入りてより約二百四五十俵の下合ありて其仕向地は主として大阪にして何れも絹紬の原料として消費せらるゝものなりと(安東縣)

◎報歌壇

(初冬の歌) 阪本綺雨

ほう〳〵と枯野をよぎる汽車はいまなに汽笛をならすなりけり

笹藪のにげまどひたる岩かどに浪は冷せたり潮さすらしも

○ 岩田起代子

初冬のほこりまみれる街の灯に引づられつゝわれは歩めり

○ 芙美子

つよき事いひにし我の淋しさよ梅がゐらじか涙ながるゝ

○ 雪子

起きなづみ病床に見る大空に烏鳴かずてさび去りにけり

あかつきの鐘を聞きつゝ起なづみうつゝにもの思ふはわれか

○ あづさ

小夜ふけのはやちに耳を傾けつ波羽白のひきゆ星を見たりぬ

商賈の袋をもちてま若なる空を仰ぎぬ日曜の朝

▲初冬の歌を募る(砂丘、滴水、賢、秀水、百合等諸兄の努力を認む)

下關期米

十九日後場 [illegible]

仁川期米

十九日後場 [illegible]

▲中限 一箇二十八圓八十錢 二箇八錢 七十七錢 九錢 八錢 六錢 八錢 七錢

十五錢 三箇九十錢 五錢 六錢 九錢 四錢 五錢 四錢 二錢 四

▲先限 一箇二十七圓六十三錢 四錢 三錢 四錢 五錢 六錢 五錢 四錢 七錢 一

[illegible]

平均 一節 二十七圓六十八錢

二節 二十七圓七十三錢

三節 二十七圓七十七錢

四節 二十七圓七十六錢

讀者文藝 課題及び募集規定

募集規定 ▲用紙ははがき又は同形の用紙一枚毎に [illegible] 住所氏名の外に [illegible] の事▲

‖惱み迷へる女‖

◎月やく

月やくとより不順のため食物にもつかへ時々嘔吐を催し腰足下腹痛み逆上頭痛眩暈こけ強く食物不進身體の工合惡くて心配の方は案なく流してサッパリする月經不順の妙藥あり

私方にお出でなさい數ある中で一番たしかださ喜んで感狀を寄せられて居ります お出での出來ぬ方は返信料を添て申込あれ入助に知らす

東京市四谷區坂町電車停留場前 大阪市曾根崎上一丁目梅ヶ枝町電停前 月經專門藥發行所 森田屋

質 黃金町長谷川町入口 田村質店 電話一九一六番 商品擔保便利取扱

化粧百態 ◇「懐中鏡」 俊畫

お化粧直しに懐中鏡、ちよいと、髮のほつれを掻き上げて覗いて、レート打白粉で崩れを刷く。スッキリとした美くしさ、思はず、自分ながら、鏡に見とれて…

名譽ある御用品

レート白粉

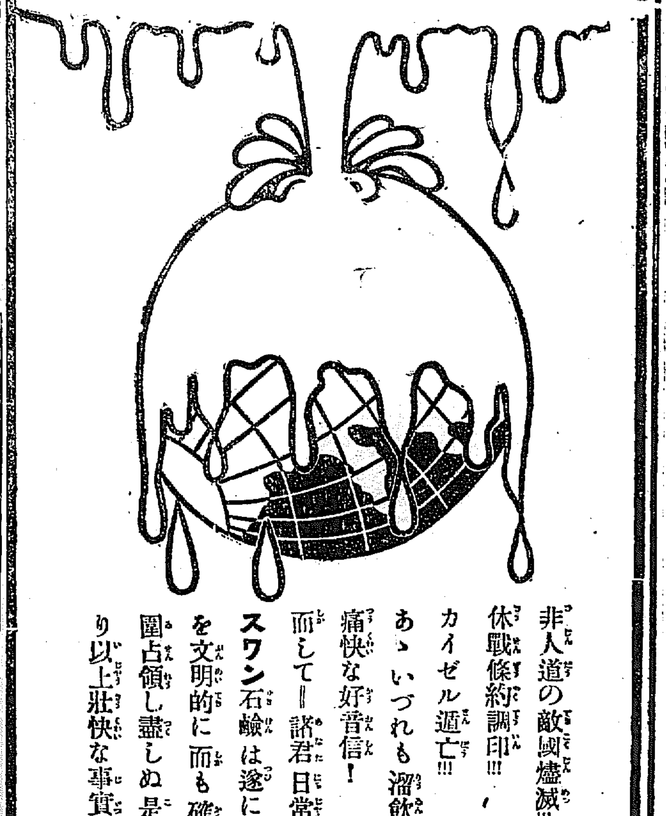
▽貴婦人方に專ら賞美されつゝあるお化粧法

▽賞讃される譯 レート白粉は、非常に上流階級の方々に愛用されて居ります。これはお化粧の第一義たる、附けて高尚で品のあるお化粧が出來るからで、人格の高い貴婦人の方々は、以てレートを御賞美下さる譯でムいます。全体白粉は白く附くばかりが能でないので。特に秋冬つかけては

▽婦女美を增進させ、眞からの美くしさを發揮ねばなりません。レート白粉は要求通り、附き伸びがよいばかりでなく、附けた白さに自然の色艶があつて、頗る上品でムいますから、六つヶ敷いお化粧法が要らずに樂に理想のお化粧が出來るのでムいます。又瀟洒なお手輕化粧としては、クレームレートを引いた上へレート粉白粉の粉刷き化粧が今や大評判でムいます。

レート化粧料本舖 東京 平尾贊平

スワン石鹼



非人道の敵國燼滅!!!

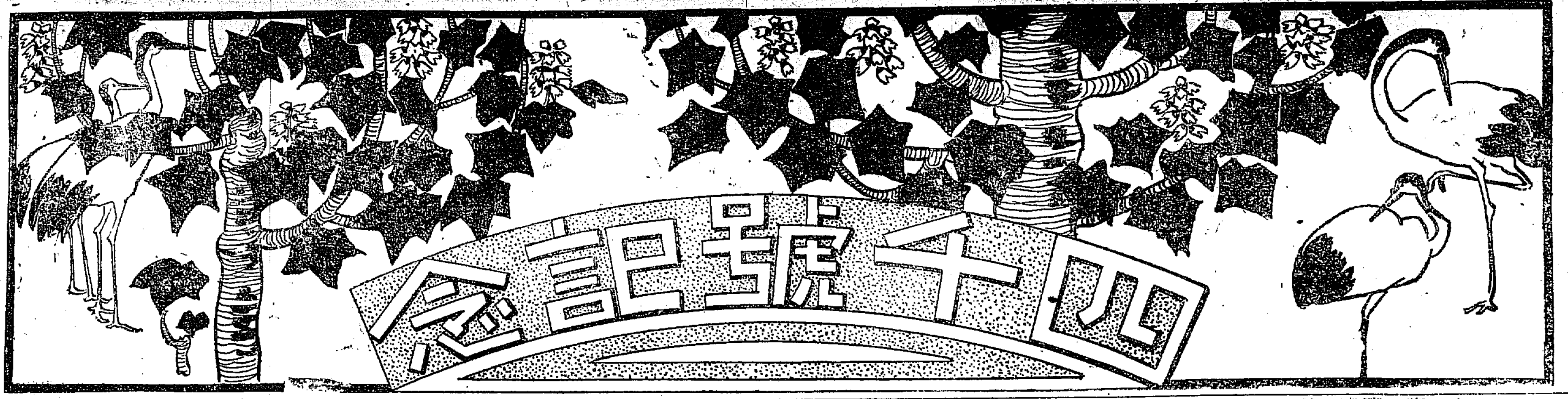
休戰條約調印!!!

カイゼル遁亡!!!

あゝいづれも溜飲の下る痛快な好音信!

而して=諸君日常愛用のスワン石鹼は遂に全世界を文明的に而も確實に包圍占領し盡しぬ是れはより以上壯快な事實!

製造元・日本リーバー・ブラザース株式會社



○満腔の祝意を表す

前遞信局長官 池田十三郎氏談

九十年の歳月を費やして得た日本の維新後の文明と十年にして贏ち得た朝鮮の併合後の文明とを考へて見ると實にその朝鮮の文化の變遷の迅速劇甚なのには驚かざるを得ない、これは内地其他に於て幾多の經驗を積んだ人々に依つて開發せられたのであるから日本の文化をもたらすために繰返した失策を繰り返さずして今日の朝鮮を現出し得たといふ理由によるのであらう殊に朝鮮に於ける産業の發展に至つては從前に對比して坐隔世の感がある其他教育に衛生に萬事斯く迄多大の發展を來すべしとは十年前に於て誰が想像してゐたであらう恐らく一人として是れを想像してゐたものはあるまい今日の隆運を見るに至つたに就いては内鮮人士は勿論外國人も意外の感に打たれてゐるであらう茲に至つて周到綿密なる合併の下に開發成化の大業を就された前總督寺内伯の勞苦を深謝すると共に衷心より敬意を表せねばならない既早峻嶮なる山阪を切り開き隧道も出來鐵道も布かれ列車も出來た樣なもので是よりは只石炭を焚く許りであの所謂石炭の焚き加減で列車は獨りに動き出すのである此の進退の自由は只運轉手の力を俟つより外はないのであるが幸ひにして賢明剛毅なる長谷川伯の總督として居らるゝあり其の發展の程も思はれて欣快の至りである然し乍ら一面に於て在鮮一般人士の自衛自發大いに努力せられん事を切望してやまないのである是と共に忘却すべからざるは京城日報社の存在である抑も伊藤統監渡行當時の朝鮮は闇黑の如き狀況で我帝國に惡感を抱いてゐた大小數多の新聞は筆を揃へて罵聲を浴びせ且つ日本の誠意を解する事の出來ない一般人心を惑はす事夥しく統治上の苦心は實に筆舌の能く盡し得べき處ではなかつた茲に於て統監も統治上新聞紙の必要なるを切に感じて遂に創立せしめたのが即ち今日の京城日報社である四面楚歌の裡に於て奮鬪努力萬折不撓能く重任に耐へ朝鮮の今日ある基礎を固めしめたる其功は決して尠少とする事は出來ないのである今や刊を重ねて四千號に達すと傳聞するに及び感慨措く處を知らず茲に滿腔の祝意を表すると共に同社の幾久しく幸運に倍々隆盛ならん事を祈るのである(東京支局)

○坐ろ隔世の感あり

前首相秘書官 池邊龍一氏談

氷雪を凌がざれば百花の魁さなる能はず艱難辛苦の後に初めて成功あり我京城日報の如き亦艱難錯節に遭遇して今日の盛運を見四千號記念の盛典あるに至る慶祝に堪へざる也今にして往事を追想すれば坐ろ隔世の感無き能はず今を去る十有餘年故伊藤博文公統監の經綸を帶びて朝鮮に來るや新聞紙の政策遂行最も緊要なるを感じ直ちに現衆議院議長大岡育造氏の令弟大岡力氏を起して社長たらしめ服部暢氏を以て主筆とする一新聞社を創立す是れ即ち京城日報社の起原也偶此時我帝國に惡感を抱ける我對韓政策を快しとせざる英人ベッセルあり其經營せる大韓每日申報紙上筆を極めて我對韓政策を誹謗し帝國を罵詈し偶奇を好む人士の愛讀をうけて其勢力侮るべからず鷄林の草木未だソヨ吹く春風の眞意を諒解する幾何も無く只吹き荒ぶ風を世の常とせる者其の部分を占めし當時に於てベッセルの斯くの如き論旨は我當事者をして恰も騎されたる劍刀の下に在らしむるよりも苦痛を感ぜしめたりしが假令我政府と雖も外人の行爲の縱令如何に不當なるものあり共是を抑制するを得ざる當時に於ては只徒らに切齒するの外はなかりしなりしかのみならず畏くも我東宮殿下即ち今上陛下の未だ東宮に在ませし頃御見學の爲御渡鮮遊ばされたるに對し誹謗の記事を紙上に掲載して憚らざるにも係はらず拮抗ち當時の在鮮大使三浦氏を原告としてベッセルを英國大使館に告訴せしめし結果勝利は遂に我に歸し是に因て遁か遁策を遁うしせしベッセルも遂に上海に於て服役するに至りしは自然の理とはいへ多少の快感なき能はずされどベッセルの刑期を終へて再び京城に筆を執るや筆法多少緩和せるも依然其惡罵的の如かりしが彼も病魔に捷つ能はず遂に客舍に逝き其後をうけし英人マナムは筆端稍緩和をせしも此他大勢を動かすに足らざりしと雖も大小の諸新聞は悉く大韓每日新報の亞流にして筆路甚しく横恣を極めたりしかれども時勢の變はこれら諸新聞の論調と時代との間に距離を生ずるに至りマナムは日本人にして經營を繼承するものあれば悦んで讓る可き口吻を漏らすに至り茲に於て其の交渉を開始し五千の讀者と共に大韓每日申報社は遂に我有に歸せり是れ今日京城日報社と共に隆盛を見つゝある每日申報の前身なりかの漫論を逞しうせし大韓每日申報に抗して我誠意ある政策を朝鮮上下にこゝ希望に堪へず今京城日報の四千號發刊の機會に際し、大韓每日申報買收の局に與れる余として感慨深きものあり、聊か往時の談を試みて京城日報社の前途に贐す(東京支局)

謹祝京城日報發刊四千號

大正七年十一月十六

軍務局長陸軍少將 奈良武次氏筆

錦鶏間祇候 小宮三保松氏筆

の術無く殘念乍ら忍辱し已むなき折から偶々樞密院規定に國交上其親善を阻害するが如き行爲をなす者あらば直ちに是を相應の刑に處すべき旨定められたるに因り忽

官傳す可き使命を以て生れたる京城日報社が爾來その使命を完うすべく努力せし功績と辛苦とは察す可きものあり今後更にその使命に向つて一層の努力を惜まれざらん

貴文逢重禮百歳京
畿時頒葉尤秀氣
人亦肥南山眉嫩且靈
靈骨巍然令我客蚧
地浩然忘世機
天長祝日錦龍以大發
京城日報第四千號
刊行 戊午 月水 保

選外秀逸和歌

○冬の朝

京城 岡田汀幽

冬の朝七つうなゐはしく／＼と泣きに泣くなる子を背負ひゆく 京城 松井霊路

冬の朝ひごの寂さのしみじみとわが生きかたをあはれみにけり

こゝろよく朝のひかりの流れゐる菊池河原の冬のしづけさ 新潟 仲野 登

七面鳥まるくふくれてうづくまる日かげの庭の朝の寒けき あづさ

車井の音に覺むれば厨べにさむざむと味噌をする響する 龍山 石川清次郎

こすもすも黄菊も枯れて此の朝おく霜白く冬は來りぬ

風寒みうらの花畑霜みゐてわがはくいきの白き朝ありけ 京城 加藤静美

たゞ一人鳥居をくゞる女見ゐて朧前寒き冬の朝なる 京城 春 曙

吊下げし軒の干菜に旭の射して冬を豐に雀啼くなり 京城 高須賀 默

ちら／＼と朝より雪の降り出でて住むに寂しき冬の天地 京城 西村秋芳子

黑き衣默してうみを渡る鳥のした寒けき水明りかな

附錄四頁

祝四千號

龍山榮町 電話長三二五番

堀内組出張所

祝四千號

京城太平通二ノ五八

伊藤商行京城支店 電話七一七番

本店 上海黃浦路三一號

支店及出張所 漢口 九江 廣東 香港 東京 大阪 臺北

祝四千號

朝鮮人蔘土産品

京城本町一丁目

津村兄弟商會本店 電話一四八〇番

祝四千號

朝鮮京城府南大門通三丁目

染料顏料 德國洋行朝鮮出張所 長電話一三一番

祝四千號

内外洋紙 各國產紙 卸商

京城南大門通一丁目

合資會社 渡邊商店京城出張所 電話二千九百〇六番

北國板紙製紙株式會社鮮滿特約店

祝四千號

京城明治町

小林鑛業本部

小林藤右衛門

小林樂山鑛業所

小林洪川鑛業所

祝四千號

京城府南大門通一丁目

大同生命保險株式會社京城支部

電話長六七一番

振替京城三三三九番

祝四千號

永登浦

朝鮮皮革株式會社

電話永登浦二五番 二六番

製革 靴用革各種 紐革 馬具用革 椅子張革 鞄用革 毛皮鞣

朝鮮京城南大門通一丁目廿番地

朝鮮革皮株式會社販賣店

電話一〇八二番

製作品 學生靴 具類 鞄 黑毛 高麗毛織 註文靴 各種 帶 背囊 腰帶 高麗毛織革

懸賞當選小說發表（三等）

沈思して

大和町一ノ三五　大舘　節男

『我子よわが法を忘るゝなかれ、汝の心にわが誡命をまもれ』さらば……。

英治は舊約聖書の箴言を讀むで居た眼を逸して、今度越して來た家の室を見廻した。それは二階で青白い綺麗な室だ。なまく〜しい青い匂ひのする新しい疊の踏心地もいゝ。小母さんと頬の白い娘さんとが、親しい調子で喋ながら張り替へて呉た障子へ、しづむだ濃い緑が快よく匂ふ。英治はそこへ白い窓帷をかけて下へ机を持つて行つた。

彼は日本畫の研究をして居た。そして時折り諸塾に通つたり、知名の先輩を訪問したりして居るのである。

書間納筆などを握つて居ると、高く澄むだ秋晴れの空からは、おだやかな日の光がさんく〜と流れて來る。さやかな葉擦れの音が聞えてくる。にほやかに風は巡つて木立の長い影は眼追ふやうに揺れた。

樂しいことだ桃色の美しい幸福は靜に寄り添つて來るやうに思はれた。そして其處に甘美な空想が湧き、清新な畫趣が動き聖書も靜に讀めように思はれた。休みの日には娘のお千代さんがしなやかな體を羞合み作らもつて來て話しかけた。彼は落着いた用心深い眼に笑を含むでお相手をした。お千代さんは白いなまく〜しい手をそつと出して、畫稿を丁寧に一枚一枚眺めたり、基督傳の頁などを繰つた。

『人間は獨りに限りますね、寂しいけれど自由ですからね。何をしようと思ひの儘ですもの。』

思ひつめたやうにさういふ言葉が、今の自分を樂んで居るやうにお千代さんに聞かれた。彼女はまた琴などを持つて行つて聞かせた。澄むだ琴の音はふくらんだ夕暮の空氣を顫へて行つた。

『實にいい。涙が出るやうだ。白い指で薄暗の空氣を彈くやうなつましい音色だ。』

默つて聞いて居るが、彈き終ると考へ深い瞳付は直にほゝ笑むでそんな調子で讃ふ。眞面目な態度は靜かに冊娘の胸に沁みて行つた。

『繪を描く人つて皆あんなにおとなしいのでせうかしら。』お千代さんは母親に言ふともなく此麼ことを言つた。英治はその頃關係して居る或る畫會に出品する爲に一枚の畫を描かなければならなかつた。

構圖も纒まつたので、愈よ絹を展べて熱心に筆を運んで行つた。それは裸櫻の花瓣がはらく〜と散り零れてゐる野路を美しい若侍と女﨟が睦じく語らひながら辿つてる圖である。心持振り返つた侍と半ば開きかけた合扇の間からかすかに朱唇を見せて居る女の、共に恍惚とした表情を描き現はすにはかなりの苦心を要した。

お千代さんはお茶などを持つて來りしては、すらすらと描かれゆくなだらかな線に眉も動かさずに眺め入つた。ある時は兩人の呼吸がぴつたり合つて、はつと氣付く事もあつた。そんな時に限つて何かの筆は蠱惑的にわなわなと顫へた。思ふ様に描けなかつた。何かしらお千代さんに見られるのが恐ろしくなつてきた。羞かしくなつてきた。

『ほんとうに綺麗な繪なんですの。ほんとうにお上手なんですのよ。』彼女は如何にも感じ入つたやうな口調で母親に話した。

英治はそれでもずんずん筆を動かして行つた。女の裾模様には濃厚な紫が使はれた。腰の葉くづしの帶には目覺るやうな紅が使はれた。さうしてもう少し背景の殘りを仕上げれば全部出來上るのだつた。で彼は試みに繪を壁に吊して眺めてみた。

その繪は今までに描いたどの繪よりも華やかだつた。どの繪より色彩が豐だつた。彼は自分ながらよく描けたなと思ひながらもう一度見た。注意して視た。するとどうしたことか、その繪が餘りに自己をかけ放れて居るのに氣がついて、彼は少からず驚いた。綺麗に映るものは丹念に塗り上げた色だけになつてくる。そして何かしらもの足りない、落着かない想ひが一時に込み上がつて來た。それは同じ様なものだつたが別々に大きな渦を卷いて、幾度か混じり合はふとしては離れた。模倣ではないか。虛僞ではないか。そして自己をも欺かうとするのではないか。頭は重くなつてくる。苦しくなつてくる。

藝術は自己であらねばならぬ。然らずんば……さうだ無價値である。縦令自らの想ひを自ら描いたにしろ、眞實自己の域を求めないものに、如何して精彩があり得よう。如何して光輝があり得よう。

泌むでくるのは先生の畫室に居た頃のことである。狹い室に一緒に起臥した友のことである。英治はその友の事を常に聖徒と呼んで居た。

『見給へ、容貌ばかりぢやない繪からして豐艶だ、線といひ、色といひ、衣章や異國の繪よりもつともつと美しい。矢張り豐艶と云ふ氣分は何處までも出て居るね。』さう言つたが、彼は徒らに外面の粉飾のみに沒頭する友の畫風をあきたらず思つて自らを省みて居た。そして純眞と云ふ事を標榜して勉めて行つたではないか。それだのにこの繪は……

『嫌だ、嫌だ、如何にも同感を強ひられるやうな氣分だ。』と彼は繪をはづして無造作にくるくると卷いて本箱の後に押込んで終つた。しめやかな風が吹き渡る頃になつた。室の前にさやく〜と揺れて居た大きな櫟がいつかさはく〜と聽いて來た。そして枯れた葉が一枚二枚と散つて行つた。英治はそれからも大抵は室に籠つて居たが、ちつとも繪筆を把らうとしなかつた。時々にほひの高い詩集を繙いたり、小論などを讀み耽つたりしたが、それも飽きてくるとごろりと横になつて手枕をし乍ら天井を眺めて取留めない事を考へた。小母さんはミシミシといふ疊の音をきいて『ほんとに靜かな人だね』と思ひ出たやうに言つた。

自由を味はひつくした頃にはもう寂寥が來て居た。

『坂居さんは別にお友達の所へも行かないんですね。』ある日、小母さんがさう言つた。

『ね。』兒帶を後に結んだ細りした英治は庭に立つて答へたが眼を落して思ひ沈んだ。

『默…ですね　繪師なんて僕らは皆は淋しかつたんですよ。だけど皆が繪師なんかを嫌つてね、別れていつて了つたんですけど、一人になると矢張淋しくつて……。』

近寄つて來て縁に腰掛てさう言つたが、眼には獨りをのみ愛しんで行つた自分の姿を靜かに思ひ浮かべて居た。

『さうでせうねゝ、矢張お友達は餘り近間に居ると、反つて不可ないさうですよ。』

彼は默つて考へて居た。夕暮はもう來た。すべく〜と磨き上げた線はうす白く光つて見えた。ひやく〜するやうな夕べの空氣が、忍ぶやうに窓帷を透して畫に沁みた。彼はその冷たさを味ひ乍ら表の方へ廻つて行つた。街にはもうきいろな灯がともつて居た。薄暗はくつきりと濃い家々の輪郭をほのかに包んで、青い西の空には薄明りがしらく〜とこふるへて居た。彼は暫時、電車の馳つて行くのや、勞働者の群を眺めて居たが、軈て二階へ上つて行つた。

そこには八十幾つかまで斷ゑざる苦しみと、斷ゑざる努力とに、生命を刻んで行つたヤスヤナ、ポリヤナの翁の像が、蒼澀な電燈の光りに浮いて見ゑた。彼はさびしさうに四邊を眄はした。』

ある日、英治は相當年配の者であるエスといふ學士が宗教講話をするといふ事をきいた。ケイ町の教會と言へば可成りにある。彼は泣ぬれたやうな青白い空の暮を仰ぎ乍ら、その晩獨りで出かけて行つた。たすたすと滅入るやうな音を立て道が暗かつた。廊下駄の音がかすかに明るく見ゑた。何とはなしにそぞろになつた。さびしさうな町だつたが、灯の前では、しつとりと冷たい匂ひがした色の白い娘等の女が、さういふ中を素足で歩いて居た。くつきりと白い頬がほのかに浮いて見ゑた。

教會の門を潜るのも久しぶりだ。久し振りだなあと思ふと、涙含むやうな氣分になつた。京城に居ては時分かういふ處へ出入して、或國の婦人から英語を教はつた事などをいつか胸に泛べて居た。

彼が教會の前に立つた時、中ではオルガンの音につれて讚美歌が洩れて聞ゑた。彼は透徹る様な女の聲をき・分けながら默つて這入つて行つた。

敬虔な祈りのひと時がよかつた。謙遜といふ事が言はれた。從順といふ事が言はれた。彼はあの鮮紅なダリヤの花瓣を見ながら、自己批判とか創造とかさういふ言葉の意味を考へながらきいて居た。いつか聖い美しい念ひがやはらかに胸に沁みて行つた。

歸りには雨に降られた。そほく〜と雨脚が白く光つて、濡れた道へ瓦斯の灯が青く流れた。ぴちやぴちやとふる雨に爪先がしつとりとぬれて冷たかつた。彼はあゝした素直な優しい心を抱いて、自己を見て居るやうな人もあるかと思つた。心さびしさから暗い道を歩いて來た自分の姿と、歸つて行く姿が一緒になつて映つて來た。かうして一體どこへ行かうと言ふのか……そつと眼を瞑るとどうする事も出來ない人生のささやかな渦がまざまざと見ゑて來た（完）

祝
鶴濤天
浩堂

富山縣知事　井上孝哉氏筆

京城覆審法院檢事長　中村竹藏氏筆

新聞ハ文明ノ宣傳者ナリ
祝京城日報四千號
槐堂

總督府度支部長官　鈴木穆氏筆

四福神

毘沙門、稲荷、歡喜天、吉祥天女

祝四千號
京城本町一丁目
江戸川
電話一四六番

祝四千號
京城黄金町三丁目
柏木材木店
電話三七二番

祝四千號
京城南大門通三丁目
石油商　川勝京城支店
電話長一〇三一番

祝四千號
京城太平通二丁目
鮮人向陶器
㊂三浦幸一郎商店
電話一六六九番

祝四千號
京城明治町二丁目
寫眞機並に材料商
長崎屋商店
電話三三〇番

祝四千號
京城本町一丁目
山岸天佑堂藥品部
電話三七二番二〇一四番
京城長谷川町
山岸天佑堂器械部
電話長一〇六番

祝四千號
京城太平通二丁目
直輸入羅紗諸官衙被服用達
高等洋服裁縫
富田屋商店
明治九年創業
長電話七二二番
振替京城九〇番
店舗所在地　下關　臺北

祝四千號
化粧品行李バケット製造販賣
中井商店
京城本町二ノ三
電話長二四八二番
振替一七五〇番
工場　漢江通八番地
全北全州參郡禮面海田里杞柳園農場

祝四千號
輸出入業並代理業
田中善株式會社
釜山　京城　大連　奉天

祝四千號
學校用自然塗黑板
美術座敷用机
鮮人用漆器一式
製造元
各種塗塗並塗替受負業
板谷漆工場
主　板谷龜太郎
京城若草町十番地
振替京城五〇九二番

祝四千號
京城黄金町一丁目
合資會社　高田商會出張所
電話長二四二番

祝四千號
大連市軍用地二區五
齋藤油房
齋藤久太郎
電話六二九番

祝四千號

新築移轉
木材輸出商
大二商會
安東支店
安東縣一番通五丁目
電話二十六番

祝四千號
製材
製函
原木賣買
滿洲安東縣六道溝
鴨綠江製材無限公司
電話四五番、四五一番
電略（オ）又ハ（オセ）

祝四千號
製材
造船
新義州府鐵橋東詰
中村工場
主任　中村柳吉
特色　誠實迅速に御注文に可應候

懸賞論文當選發表（三等）

宴會の改正に就て

龍山鐵道官舍八八ノ二　金子弼太郎

一、社會問題

等しく宴會と云ふも、和式あり洋式あり、或は祝賀、送迎、披露懇親と云ふが如く、名目上の別もある其他身分に依り、職業に依り時に依り、處所に依りて、各々趣きを異にして、之を一概に論ずるは、困難なるも總じて、現代の所謂宴會なるものは、不紀律なる點に於て、不經濟なる點に於て其の他種々なる點に於て、之を社會問題として講究に値すべきもの、尠くない。

二、一刻千金

今日我國社會の、各方面を通じて萬事が非常に、不紀律である。此の缺點は宴會にも亦表れて、實に亂離極まる狀態である、予は敢て、大方の諸君子に問ふ、今日相當有識者間の、宴會でも、よく豫定の時刻に開會して、豫定の時刻に閉會し得るもの、幾何あり哉と尤も廣き世の中には、時刻勵行の會もあるべし、寸陰惜愛の君子も尠からざるべし、而も多くの場合に於ては豫定時刻に遲るゝこと三十分、一時間甚だしきは、二時間以上にも及ぶものがある、禮に始まり亂に終ると謂ふが、今日宴會の相場なるが、其の亂に始まるきが、既に上述の有樣とすれば、閉會の場合や推して知るべしである、此場合殆んど豫定時刻すらも立ぬと云ふが通例で、唯正直に時間を守る者ほど馬鹿を、見ると云ふが如き、現狀では、文明の國民としての、體面を汚すと云ふも、一言辯解の辭なしである、一刻千金なる語は、古は詩人の警句であつたが、今は實社界の金言であらねばならぬ。

三、成金風

世は年を遂うて、奢侈となりまさりつつある、特に近時所謂成金なるものが出來て、其の宴會の、豪奢に至つては、一夕數萬金を散じて、自ら快として居る、自在に儲けて、之を自在に散ずるは、彼等の勝手なるも、其の惡風は、自然世間に影響して、近時益々宴會が、過大になりつゝあるは、遺憾なり、特に朝鮮の如き植民地に於ては、一層此の弊の、强烈を見るのである、宴會と言へば直ちに、芳醇佳肴を聯想する牛飲馬食を聯想する、狂歡亂舞を聯想する、醉枕美人賦を聯想する又之あれて初めて、宴會甲斐があると云ふ者之が主たる目的だと、云ふに至つては、今日の宴會場なるものは徒らに野獸性の發揮場たるに、過ぎぬのである、其結果は、言はずして、知るべしである。

四、時代の要求

然るに今は、如何なる時代であるか、世界は曠古の大戰亂に際して、衣食の大節減すら斷行してあらゆる艱難に打勝ちつゝある、正に臥薪嘗膽以上である、斯して鍛錬に鍛錬を積みつゝある彼等は將に來らんとする平和戰には、其優秀なる知力と豐富なる財力との眼りを發して、如何に猛烈に、東亞の天地に、殺到するであらう乎、眞に我民族浮沈の秋と思はれる、此際に立つ吾人は、些かの無駄を許さず、虛飾を容れず、何事にも眞面目ならざるべからずである、即ち今日の宴會の如きも、宜しく此見地に立つて、全廢か、根本的の改正か二者一を選ばねばならぬ

五、全廢乎改正乎

若し正直に、白狀すれば、吾人は寧ろ全廢論者である、併し弊害がある故に、之を廢すと言はゞ、世間は總てを絕せねばならぬ、何となれば、物には必ず表裏が在る、事には必ず乘除が在る、日の照る處必ず影がさすからである、且つ一家の清潔を保つには、塵埃の必要もある、常に運轉する車の軸には油を注ぐの必要がある、眞面目に活動すべき、人生には、時々宴會の油を注いで、以て社會の圓滑を保つべきではあるまいか、上戸は酒を玉帚に譬へるが、宴會の眞新に、勞れたる心の汚垢を、洗ひ落す必要はあるまいか、何事にも表裏はある、必要の宴會に弊害は裏の半面だとすれば、吾人は茲に改正の一途を擇ばねばならぬのである。

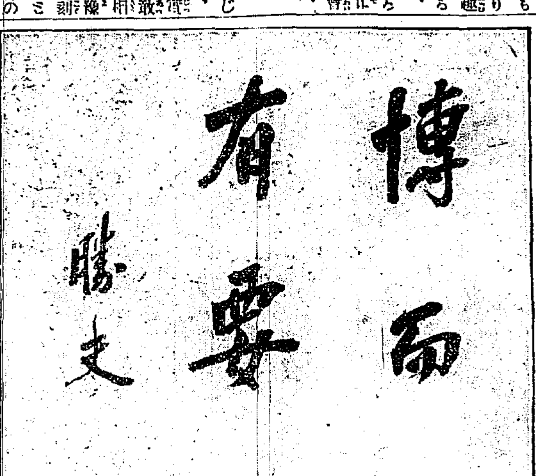
六、改正案

余が主張する改正の、第一は時間の勵行である、之は簡知明瞭、說は略前に記してある。

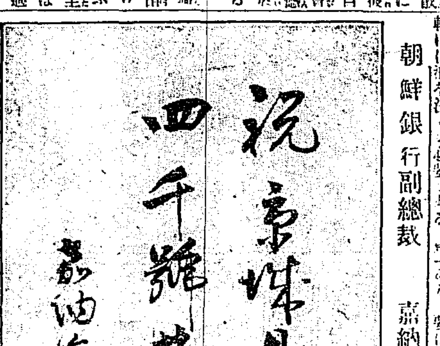
第二は趣味主義である、從來の奢侈淫蕩の風を一掃して、簡易に且つ經濟に、且つ趣味的ならしむるにあり、一品の菓子、二三の果物サイダ或は少量の酒肴等として曹は晩餐の程度を、除り越えざる、範圍に止むること、又は同好の程に於て、各自の持寄等も時には面白からんか。

趣味的と云ふも、御婚禮の會の如く漫りに、高尚、清雅を、衒へとは言はず、又鑑能拜見の時の如く、いやに四角張れとは言はぬ、各自其の位置や身分に、拘はらず、打ち開くにあり、而して談話も可なり、長唄も可なり、都々逸義太夫亦妨けず、或は滑稽、漫才上演說、俳句、詩等何でも可なりある、要は野卑に陷らざる程度に於て銘々大に傾向を發らすにあり、斯くして、興味津々、和氣藹々の裡に大に笑ひ、大に語り、自然に意志の疏通も出來、親密の度も增し各自各種の意見も、知る事を得、又迷惑を他に及ぼさず、自ら不攝生に陷らず等各方面に利益尠からずと信ず。

改正案の第三は從來の主人本位を廢して成るべく家庭的たらしむることである、尤も場合に依りて悉くとは行かざるべきも、或種の宴會は、之を家族的たらしめて老親を奉じて行くもよし、子供の手を引くもよし、時には最愛の令夫人と同行大いに可なりである、斯くして大いに趣味主義の效果を發揮すべきであると思ふ、且、苦樂は一家共にすべきに從來の如く、主人は交際を唯一の楯にして、獨り横行し、家族の者は少しも與らすとせば、大いに正義の觀念に反す、之も從來の一家團欒らしむる、隱然に之れが爲めに自然の結果として今日の藝妓なるものは、全然宴會の席上に跋扈せしめざることゝなるは、聊だ痛快とする所である



總督府內務部長官　宇佐美勝夫氏筆



朝鮮銀行副總裁　嘉納德三郎氏筆

懸賞當選小品文

朴　君（三等）

忠淸南道燕岐　豐田韓騎

朴君は府郡廳の受付である。身長は五尺八寸もあるが、横は釣合ない、纖細い、夫に前齒の凹んだ眼の[illegible]、お婆さんの顔立ち、[illegible]

[illegible]十地の沿革、[illegible]の變遷、何でも知らぬことはない。[illegible]時々彼は[illegible]は嘆詰ん[illegible]知らぬが、聞くは大抵分かる。[illegible]直ぐ彼は何か人に云はれるとすぐ赤になつて辯解る。

一昨年は多年の宿望が達して九圓のニッケル時計を奮發した。毎日號錶には缺かさず合せる。若い連中から『ナップン時計だから毎日直すのだ』など、揶揄れると、例によつて赤くなる。何時かは〇〇技手の懷中卷尺を披露して、田舍者と皆から笑はれたなどの愛嬌もある。彼の俸給は僅に十何圓、然も十年來殆んど居据わりである、雇の異動は甚だ頻繁で二年と續くものはないが、彼れは不平も不滿もなく文書の受附發送書に他念もない。一反の白田もないが一家七人を養つて居る。昨年は相當の仕度で長女を嫁がせた。彼れが出張又は病氣で受附席に姿を見せぬ時は、例へ樣のない寂し味を覺ゆる。朴君は今年五十歲、正月には課長の無禮講に大に醉ふのを年中行事の一つとしてゐる。

予盾（三等）

仁川本町四丁目日下部方　矢谷花翁

その後も矢張りNから何の便りも無かつた。別に是と云ふ用事は無いのにYは又手紙を出して見る氣になつて、恨みまじりのつまらぬ事をくどくどしく書いてやつた。併しNは受け取つたのか受け取らんのか、矢張り返事を寄越さなかつた。Nは腹立たしくもあつたが、又捨られた樣な淋しい氣分にもなつた。こんな間にもAからは始終便りが有つた、封書と繪葉書と一所に來る事等も有つた、併しYは別に是に返事を出さうともしなかつた、竜も手紙を寄越さない友には手紙を出したくて、鐵錢も所りん聞かせて呉れない友には別に手紙を出す氣がしない、Yは斯うした矛盾さを感じ乍らも、矢張りNの事が氣にかゝつて、暮れ行く秋の夕陽に立つて靜かにNの幻を描いて見た。

◎櫛（三等）

京城吉野町一ノ六九　巴東

坂の中途で一憩みした。石圖、何か落ちて居るのに氣が付いた。

櫛!!!、使ひ慣れたらしい黄楊の小櫛!!!落葉掻く里の娘が落したものであらう。私は斯うしてそれを探しに來る迄待つて居たいやうな氣がした。

李王職次官　國分象太郎氏筆

四つの臉

左に揭ぐるは、いつぞや城中某校が卒業生に贈つた訓言（太宰、春臺語の一節）

覺水を掬せざれば善農と不能成
筋脈を斷たざれば商工と不能成
肩背を痛めざれば富貴と不能成
死地を踏まざれば善士と不能成

◇訂正　十九日發行記念號附錄寫眞說明中鴨綠江上流筏とあるは建興公司染工所にして建興公司染工所は鴨綠江上流筏の組違ひに付き訂正す

祝四千號　公債株式現物問屋　㊂高松商會　京城府本町二丁目　電話長三〇八五番　▲弊商會は會社の內容其他株式の騰落に付き絕えず通信致居候間御希望の方は御申込を乞ふ

祝四千號　京城本町一丁目　石川內科胃腸科醫院　電話一三九〇番

祝四千號　池田小兒科病院

祝四千號　各國麻字、綿糸ロープ、マニラロープ、保溫用綿ニ麻、帆布、シデ新玉糸、眞田紐　京城本町二丁目一八番地　森政吉商店　電話一五九四番　振替京城一七五八番

祝四千號　室內裝飾品　洋家具類並　各種織物敷物　金庫消火器　京城本町一丁目　横山隆一支店　電話長一六七番　本店　神戶市元町一丁目二三　電話長九局八〇四〇　支店　京城北文武街一丁目六　電話一七二

祝四千號　京城南大門通二丁目　合資會社　㊉南方商店　電話長一六八九番

祝四千號　天然スレート　石綿盤屋根工事一式　羊印アスファルト（便利）ルーフィング　浅野スレート會社工事所　其他建築材料一式　瓦販賣　岩出京城出張店　京城太平通二ノ二八六　電話一六〇七番

祝四千號　日用雜貨卸小賣　黑岩商店　朝鮮兼二浦

祝四千號　歐米諸雜貨　小上馬商店　朝鮮兼二浦

祝四千號　㊣木村商會　兼二浦出張所　（本店　京城）

祝四千號　二葉旅館　朝鮮兼二浦

祝四千號　金物、機械、電氣、塗料　油類、其他工業用品商　朝鮮黃海道兼二浦　怡昇商會

祝四千號　齋藤精米所　兼二浦出張所　本店　鎭南浦

祝四千號　土木請負業　鐵道運送業　守屋組

祝四千號　釜山辨天町　大池本店

祝四千號　釜山本町二丁目　迫間本店　電話長三二五番

祝四千號　土木建築請負　木下元次郎　釜山本町五　電話六三七番

祝四千號　釜山鎭　上杉古太郎　電話長一〇三七番

祝四千號　釜山辨天町　福榮商會雜貨部　釜山埋立新町　福榮商會卸部　大邱本町　福榮商會支店

祝四千號　鎭　浦　朝鮮纖維工業所

祝四千號　京城明治町二丁目　陸軍諸官衙御用達　牛豚肉卸小賣　味噌醤油漬物　天然飲料水發賣元　石田本店　電話一〇四二番

祝四千號　京城南大門通三丁目　洋食すきやき　カフエータイガー　電話二五七一番

祝四千號　時計材料　眼鏡類　器卸商　植村支店　京城黃金町一丁目　山岡龜太郎商店　電話一三四八

祝四千號　京城本町二丁目　石川物產商會　長電話一八八四番

祝四千號　洋家具類、室內裝飾品　製造販賣業、絨類一式　京城府本町二丁目　增田本店　電話長百〇九番　振替口座七六番

祝四千號　京城本町二丁目　日韓書房　電話長一四五番

祝四千號　專賣特許　クームヒン製造　專賣特許　シーエス液　京城旭町一丁目　山田禎輔　電話一〇七八番

祝四千號　美術婦人小間物　有名石鹼化粧品　卸問屋　本月政次郎商店　京城明治町二丁目　電話武武八番　振替京城七四二番

祝四千號　專門　梅毒・麻病・泌尿・生殖器病　痔・丸病・肛門病・皮膚病・婦人病・神經衰弱・ヒステリー　京城南大門通殖產銀行裏　司生堂醫院　電話三〇六番

祝四千號　京城本町二丁目　本町寫眞館　電話三一〇番

祝四千號　朝鮮海産物漁業部　寒天製造貿易商　中村俊松本店　釜山埋立新町　電話五六番　電略ト又トシ　鹽乾魚一切　日用雜貨卸商　中村俊松支店　主任　吉井圓作　醬油味噌發賣元　中村俊松釀造部　釜山南濱町　電話四六七　電略〇トシ　主任　吉井肖治　釜山寶水町　電話六八七　電略〇トシ

祝四千號　双鹿、羽鹿製造販賣　東洋燐寸株式會社　釜山出張所

祝四千號　釜山大倉町　澤山兄弟商會　代表者　澤山喜多治　支配人　永松淸秀

祝四千號　朝鮮瓦斯電氣株式會社

祝四千號　釜山漁港內　香椎漁業事務所　電話五四一番

祝四千號　內國通運株式會社　釜山支店

祝四千號　釜山食糧品株式會社

祝四千號　釜山　大池回漕部

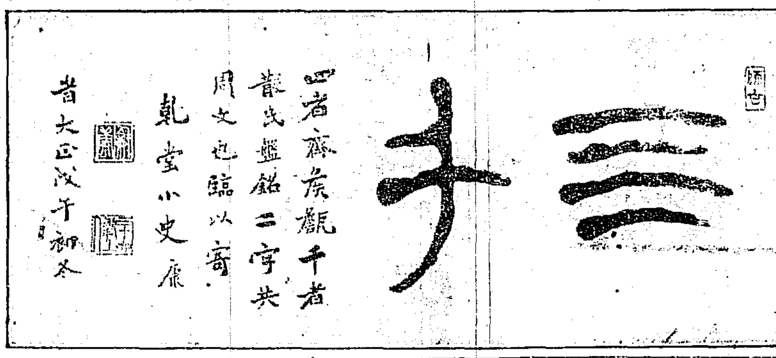
祝四千號　大坂商船株式會社　釜山支店

祝四千號　株式會社　釜山商船組

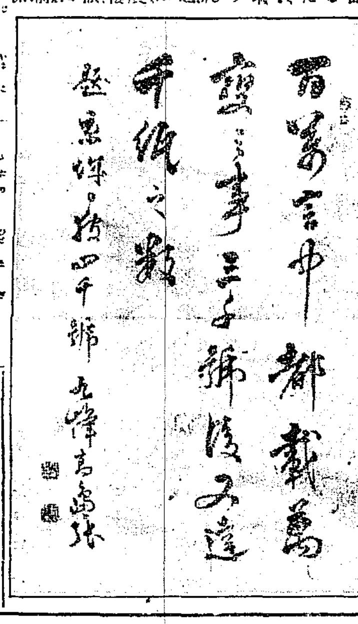
四千年前の文字

書家 松村和康氏談

殷墟の一挑尙は遺有りて彩無し黃帝の史官蒼頡に迨むで始めて鳥跡を摹して蝌蚪の文字を成す三元八會の文八體龍紋光明の章あり其の後周の宣王史籒蝌蚪を變じて以て大篆を爲す周公の時未だ鐘を改めずして紙に六書の數あり孔子の時號に稱す改め何ほ科斗の書を存す武帝に見ゆ京城日報四千號に對して何か因ある字を寄せよこの事なるも予聊か、る開明的文字に暗ぐ何等の巧拙無き恥づるも敢て紙面を穢さんミす四千年以前の正確なる文字有るなく唯神代文字ミも稱せし折畳の譜あるのみにて何等考證の價値なきを憾る識ミせり西域浮屠氏に從ふに八萬四千の法藏あり文字の起るや原文に五百四十餘字の部門ありて原文も四千に餘るものあり稍亡のみは四千號に當語するに聊か因緣あるのみ今臨して前に掲ぐる四千の二字に於ても上周三千餘年文字にして四千年こは謂難きも之れを以て當近の淵泉こし暇りに周四千年こ云ふ俗事有るを借り來り只々讀者の一笑話こなれば足る耳星霜を閲する四千餘年間に幾百回の革命的變動はある支那こして尙此間に此種の発れたるものは唯當現在に於ても使用するの文字あるを東洋こして の一大誇りこするも敢て過言にはあらざるべし京城日報今や四千號に達し日々に内外萬邦の風を網羅し一大文獻を蒐提す前途國家の指針こして一大光明の赫耀たる偉力を保つは我の最も欣悦に堪へざるところミす支那に遊ばんこして此地を過する聊四回に及ぶ必ず日報社前に渡る無佛居士ミ署名に揭ぐる所の扁額に『放大光明』の四字は光瑞本願寺前法主の揮毫に係るに於て堂々たる文字あり今や此の文字の如く一大光明を放ちて四千號の絶叫が如何に紙上に活躍し如何に社會を指導するか現に及び其部門を擔當せらる、諸賢の做腕に期待して止まざるもの歎辭を寄せて一大賀の聲に代ふ



松村和康氏筆



高島九峯氏筆

懸賞當選 情歌

平松天籟選

題 小春＝室咲

一等

返り咲くのは浮氣な花よ小春ばかりの罪ぢやない 京城 木村巴東

二等

衣ほす手に小春が溶けてもえて居るよな紅襷 釜山 國本都業子

梅は室咲鶯ア籠飼春も二人の一間限り 長崎 藤本松濤

三等

花は咲いても私や室育ちつらやほんこの春がない

京城 森山櫻堂

春が來たよで心の駒も走り出しそな小六月 福川 ニコノ～坊

私しや室咲きかよはい花よ障子一重が恐ろしい 龍山 秀麗山人

追吟

室で咲く樣な花ではなくて筆に實が生る四千號 選者 天籟

選外秀逸 情歌

小春＝室咲

小春十月變らぬ心、花の彌生の瞳より 忠南 中畑一水

私しや室咲き浮世の風に、あたり障りも硝子越し 京城 窪田東海

小春日和ぢや吾家の山を、鏡に見せましよ敵へましよ 同 同人

室に咲いたるあの梅が香を、谷のあなたに送りたい 同 水涵屋深

戀に浮名を啼く鶯も、なくて寂な室の梅 同 岸溪丹

咲くにや咲いたがうら淋しく、そこにや出られぬ室の梅 龍山 羽間十の字

咲いたからこて浮世の風が、あたりや散るぞへ室の梅 慶南 椋本三樂

玉かこも見ゆ蕾の梅に、秘めて香りの深い室 京城 木村巴東

菊や紅葉に悋氣をしてか、櫻小花の返り咲き 同 森山櫻堂

神路遙かに小春の梅を、ウの字々の字の眞帆片帆 春天節郎

梅は室咲き私や庭先の、春の來る日が待遠い 仁川 矢谷花翁

室で丹精咲かせた鉢を、配る句自慢花自慢 釜山 中口隆喜

○

金持の子『此の洋服も靴も帽子も皆舶來だよ』貧乏人の子『俺の家は米まで舶來を食つてらあ』 [illegible]府內 富岡力

祝四千號 行李其他杞柳製造元 公州物産組合 忠南公州旭町 電話二五番 杞柳は多少に不拘購入致候

祝四千號 朝鮮殖産銀行 公州支店 電話二七番

祝四千號 柳行李製造並ニ杞柳販賣商 公州杞柳組合 電話五二番

祝四千號 元山水力電氣會社 電話四三三番

祝四千號 元山海岸町 吉田回漕店 支店出張所所在地 清津、會寧、間島、長箭

祝四千號 御料理 ○よし 元山仲町一 電話六二番

祝四千號 ペーチカ築設專門 宮崎組 宮崎吉太郎 京城府漢江通八 電話五四二番

祝四千號 京城明治町一丁目 日韓印刷所 電話二三〇番 電話長三三三番 活版石版 活字販賣 和洋帳簿製造 其他印刷業一切

祝四千號 御婚禮の 白水 松秀庵 電話二三九一番 調度一切竝ひ特別勉強を以て御用命相待居候 望月軒 同別莊 電話二二〇〇番 新婚の御寫眞は 京城寫眞館 京城南大門通三丁目 電話一〇四〇番 振替口座京城五三八七番

祝四千號 寫眞機械材料及藥品直輸入 上田寫眞機店 京城支店 京城南大門通三丁目 電話五四九番 振替口座三〇五九番

祝四千號 鋼鐵類、電氣瓦斯機、機械器具類、モートル 自動車、化學工業用品、曹達灰、鉛其他 精米、精粉機、稻品 資本金五百萬圓 本社 東京丸ノ内 支店出張所 東京、大阪、福岡、京城、横濱、上海 株式會社 常盤商會 社長 松方五郎 京城府太平通り二丁目 常盤商會朝鮮營業所 電話長五七六番 外國火災保險日本代理店 英國リバプールロンドングローブ保險會社

祝四千號 土木建築請負業 兼二浦組 組長竹中吉之助

祝四千號 撫順炭特約販賣 解船運漕業 朝鮮兼二浦 三國商會

祝四千號 中村組兼二浦出張所

祝四千號 土木建築請負業 鐵道運送 千代田組 大竹一郎

祝四千號 土木建築請負業 小川組 組長 小川大吉

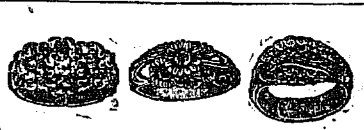
祝四千號 海上運送業 大和組兼二浦出張所

祝四千號 土木建築請負 橋本組兼二浦出張所

祝四千號 新義州 安田鑛業所

祝四千號 京城南大門通二丁目 新井藥房 電話長九〇四 一〇六八番

祝四千號 確實なる貴金屬は信用ある弊店にて求められよ



本町二丁目 村木時計舖 京城支店 振替京城三一九〇 電話四七一

御印入 カレンダー (日メクリコヨミ調製)

祝四千號

●早く…早く御用意 年内モー幾日 調製の期日無之候

●即時…即時！御注文 在庫品日々減少 何時品切難計候

京城本町二丁目 電話五六九番 日之出商行 振替口座京城四〇二番

祝四千號

百圓進呈 大阪ドラッグ商會 りん病 ばい毒 帝國醫科大學病院 にせ物と好商 にせ物 大阪有田 南大門外 黃金町三丁目 ドラッグ商會 大阪 京城南大門外停車場通 龍山練兵場前停留所ドラッグ支店 京城龍山外各地に偽物あり御注意

祝四千號

特約店 京城岡崎町 嶋屋本店販賣部 電話九〇三番二三三番